

平成 29 年 度

群馬大学大学教育・学生支援機構
報 告 書



群馬大学大学教育・学生支援機構

「平成29年度群馬大学大学教育・学生支援機構」報告書 発刊にあたって

大学教育・学生支援機構
副機構長 渡 辺 秀 司

群馬大学大学教育・学生支援機構は平成18年度に発足し、主に教養教育の企画・運営を担当する大学教育センター、学生の大学生活全般を支援する学生支援センター、入試業務と入試広報を担当する学生受入センター、学生及び大学構成員の健康支援を主務とする健康支援総合センター、教育実施体制及び教育方法等に関する企画立案やアクティブラーニングに関する企画立案等を担当する教育改革推進室の4センター・1室体制で構成されています。大学教育センターは、全学の教育実施・運営を担うことを明確にすべく、以前の教育基盤センターを改編して平成28年度に設置致しました。また、教育改革推進室は、以前の教育企画室を改編して平成29年度に設置致しました。さらに、総合情報メディアセンターと学内共同教育研究施設である国際センターも、学生の修学に必須の組織として本機構と連携して活動しております。これら全ての組織は、群馬大学の教育業務を基幹的に担う重要な組織です。

平成29年度は第3期中期目標の2年目の年であり、平成28年度に引き続いて大学改革、とりわけ教育改革が強く求められております。高大接続改革実行プランに基づく、「大学の個別選抜入試の改革・新テストの実施」、「高等学校教育の改革」、「大学教育の改革」の一体的推進方針の下、学力の3要素の育成、学士力の育成が高校・大学に求められています。そうした中で、大学教育、人材育成の充実に向けた教学マネジメント体制の構築に向けて、平成29年度は、前年度に改定したDP、CP、APの3つのポリシーを基に、大学教育の内部質保証のPDCAサイクルの構築に向けた取組みを引き続いて実施しております。他方、大学全体においても平成29年度には、数理データ科学教育研究センターと食健康科学教育研究センターを設置致しました。さらに、プロジェクトチームを立ち上げて新学部への改組を引き続いて進めております。

先の見通せない時代にあって我が国の将来を担い、世界に羽ばたくことのできる人材を群馬の地にあって育成していくためには、平成27年度に行われた、大学改革支援・学位授与機構による大学機関別認証評価や平成27年度までの第2期についての法人評価で受けた多くの指摘事項を基に、本学の教育・研究の質を更に一層高め、本学が、地域に根ざし知的な創造を通じて世界の最先端へとチャレンジし、社会と連携し21世紀を切り開いていく大学であることを示していく必要があります。そのため、本機構の各センターでの平成29年度の取組みをここにまとめ、その総括と課題の摘出を進めていくために本報告書を作成することには大きな意義があります。報告書をまとめ、評価と企画の基礎となるデータの系統的整理を行っていくことは、教学のPDCAサイクルを実行していく上でも基本となる作業です。今後とも各センターは、他組織と連携をとりながら、学生及び社会のニーズに合った教育への支援を提供して戴くよう御願ひ致します。

最後になりますが、本報告書の作成に当たり、各センターの業務を遂行している中で編集にご協力を戴いた教職員の方々、また執筆して戴いた方々に深謝申し上げます。

目 次

巻頭言

1 大学教育・学生支援機構の組織	1
1.1 大学教育・学生支援機構の組織図	1
1.2 大学教育・学生支援機構の構成員	2
1.3 教員による地域貢献事業	8
2 大学教育センター	12
2.1 教養教育部会	12
2.1.1 はじめに	12
2.1.2 平成29年度活動概要	12
2.1.3 平成29年度活動内容	12
2.2 外国語教育部会	14
2.2.1 はじめに	14
2.2.2 英語習熟度別クラス編成、及び英語アチーブメントテスト	14
2.2.3 TOEIC-IP	15
2.2.4 TOEFL-ITP.....	15
2.2.5 TOEIC・TOEFL説明会	15
2.2.6 ドイツ語技能検定試験・フランス語技能検定試験	15
2.2.7 ドイツ語・フランス語の共通アチーブメントテスト	16
2.2.8 理工学部の英語教育カリキュラムについて	16
2.2.9 教育学部の英語教育カリキュラムについて	17
2.3 教育推進部会	17
2.3.1 はじめに	17
2.3.2 教養教育授業評価	18
2.3.3 ベストティーチャー賞選考	18
2.3.4 全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」	18
3 学生支援センター	34
3.1 入学料免除及び徴収猶予	34
3.1.1 免除申請者数，免除者数	34
3.1.2 徴収猶予申請者数，徴収猶予者数	34
3.2 授業料免除及び徴収猶予	34
3.2.1 免除申請者数，免除者数	34
3.2.2 徴収猶予申請者数，徴収猶予者数	34

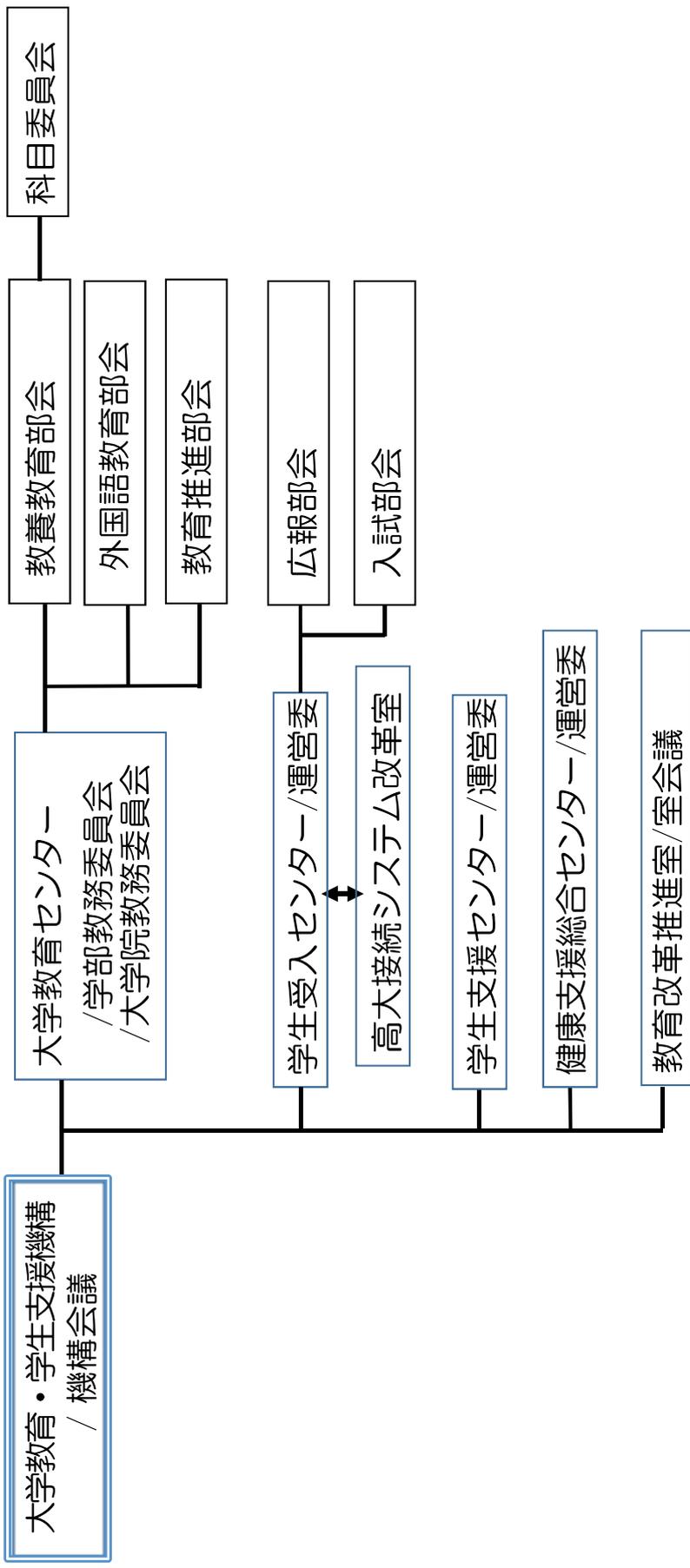
3.3	寄宿料免除	35
3.3.1	免除申請者数, 免除者数	35
3.4	奨学金	35
3.4.1	日本学生支援機構奨学生数 (平成29年10月1日現在)	35
3.4.2	日本学生支援機構以外の奨学生数 (平成29年10月1日現在)	35
3.5	学生相談体制及び学生相談	35
3.5.1	学生相談体制	35
3.5.2	主な相談事項	35
3.5.3	学生相談アンケートの実施及び活用	35
3.6	授業欠席状況調査	36
3.6.1	授業欠席者数及び主な欠席理由	36
3.6.2	実施方法, 時期	36
3.7	障害学生への支援	36
3.7.1	障害学生数	36
3.7.2	支援内容	37
3.8	学生教育研究災害傷害保険, 学研災付帯賠償責任保険	37
3.8.1	加入者数	37
3.8.2	請求種別保険金請求件数	37
3.9	通学証明書, 旅客運賃割引証	37
3.9.1	発行枚数及び主な発行理由	37
3.10	学生寮	38
3.10.1	養心寮入寮者数	38
3.10.2	啓真寮入寮者数	38
3.11	生活支援施設	38
3.11.1	食堂	38
3.11.2	売店	38
3.12	課外活動施設	38
3.12.1	体育施設	39
3.12.2	文化施設	40
3.12.3	課外活動共用施設	41
3.12.4	合宿所	41
3.13	学生団体及び主な活動	41
3.13.1	学生団体	41
3.13.2	大学祭	41
3.13.3	関東甲信越大学体育大会	42

3.13.4	クラブ・サークルリーダーシップ研修会	42
3.14	研修施設	42
3.14.1	北軽井沢研修所	42
3.14.2	草津セミナーハウス	43
3.15	学生の就職支援	43
3.15.1	進路状況及び主な就職先	43
3.15.2	全学就職ガイダンス・セミナーの開催	43
3.15.3	キャリアカウンセリングの充実	44
3.15.4	キャリアサポート室における情報収集環境の充実	44
3.15.5	就職支援の体制強化の充実	44
3.15.6	就職支援BOOKの作成・配布	44
3.16	就業力育成支援	44
3.17	学生生活実態調査	45
3.18	キャンパスニュース群の発行	45
3.19	事件・事故	45
3.20	学生支援センター資料集	45
4	学生受入センター	63
4.1	はじめに	63
4.2	オープンキャンパス等	63
4.2.1	群馬大学1日体験デー「GU'DAY2017」	63
4.2.2	学部別オープンキャンパス	64
4.3	学生募集に係わる広報活動	64
4.3.1	出前説明会，出張模擬授業及び大学見学	64
4.3.2	進学相談会	64
4.3.3	大学案内，大学紹介動画の作成	64
4.3.4	ウェブサイト等による広報	64
4.3.5	高等学校等の教員を対象とした説明会	65
4.3.6	学生広報大使による広報	65
4.4	広報戦略の立案	65
4.5	入学者の選抜方法改善と追跡調査	65
4.6	その他	65
5	健康支援総合センター	73
5.1	はじめに	73
5.2	平成29年度実施事業	73
5.2.1	学生定期健康診断の実施	73

5.2.2	精神保健調査の実施	73
5.2.3	学生特殊健康診断の実施	74
5.2.4	外国人留学生健康診断の実施	74
5.3	健康支援総合センター利用状況	74
5.3.1	利用人数及び件数	74
5.3.2	健康相談の対応内容別件数及びカウンセリング報告	74
5.3.3	疾病領域別利用者数	75
5.3.4	診療科別医療機関紹介件数	75
5.3.5	薬剤別処方日数	75
5.3.6	キャンパス・ソーシャルケースワーカーによる活動	75
5.4	教育関連活動	75
5.5	健康管理に関する調査研究活動	76
5.6	健康支援総合センター主催の委員会等	76
5.7	健康支援総合センターの全国会議等出席	76
5.8	学内行事実施に伴う救護業務	76
5.9	出版・広報活動	77
5.10	社会貢献活動	77
5.11	産業保健活動	77
5.11.1	安全衛生委員会	77
5.11.2	産業医部会	78
5.11.3	職員の定期健康診断	78
5.12	本来業務以外の支援業務	78
5.13	健康支援総合センターの現状及び今後の方向性	78
5.14	健康支援総合センター資料集	78
6	教育改革推進室	94
6.1	教育課程・学習成果に関する取り組み	94
6.2	内部質保証に関する取り組み	94

1 大学教育・学生支援機構の組織

1.1 大学教育・学生支援機構の組織図



1.2 大学教育・学生支援機構構成員

機構長 窪 田 健 二
副機構長 渡 辺 秀 司

大学教育センター

センター長 窪 田 健 二
副センター長 渡 辺 秀 司
教授 キース・ベアリー
教授 松 元 宏 行
教授 結 城 恵
准教授 飯 島 睦 美
准教授 飯 田 敦 史
准教授 コントララス・ジェフリー
准教授 フーゲンブーム・レイモンド
講師 サンプソン・リチャード

学生支援センター

センター長 窪 田 健 二
副センター長 福 地 豊 樹
教授 竹 内 一 夫
准教授 五 味 洋 一

障害学生支援室

室長 福 地 豊 樹

就業力育成支援室

室長 松 元 宏 行

学生受入センター

センター長 窪 田 健 二
副センター長 杉 山 学

健康支援総合センター

センター長 田 村 遵 一
副センター長 竹 内 一 夫
講師 宮 崎 博 子

教育改革推進室

室長 窪 田 健 二
副室長 渡 辺 秀 司
准教授 二 宮 祐

委員会等

大学教育・学生支援機構会議

委員	窪 田 健 二	理事（教育・企画担当）・副学長
委員	渡 辺 秀 司	理工学府
委員	田 村 遵 一	医学部附属病院
委員	福 地 豊 樹	教育学部
委員	杉 山 学	社会情報学部
委員	竹 内 一 夫	健康支援総合センター
委員	小 林 英 樹	教育学部
委員	坂 本 雅 昭	保健学研究科
委員	キース・ベアリー	大学教育・学生支援機構
委員	二 宮 祐	大学教育・学生支援機構
委員	道 見 明 彦	学務部
委員	田 中 麻 里	教育学部

大学教育センター学部教務委員会

委員長	窪 田 健 二	理事（教育・企画担当）・副学長
委員	渡 辺 秀 司	理工学府
委員	小 林 英 樹	教育学部
委員	キース・ベアリー	大学教育・学生支援機構
委員	坂 本 雅 昭	保健学研究科
委員	渡 部 孝 子	教育学部
委員	岩 井 淳	社会情報学部
委員	松 崎 利 行	医学系研究科
委員	大 西 浩 史	保健学研究科
委員	桂 進 司	理工学府
委員	道 見 明 彦	学務部
委員	二 宮 祐	大学教育・学生支援機構

大学教育センター大学院教務委員会

委員長	窪 田 健 二	理事（教育・企画担当）・副学長
委員	渡 辺 秀 司	理工学府
委員	西 園 大 実	教育学部
委員	山 口 陽 弘	教育学部
委員	西 村 淑 子	社会情報学部
委員	鯉 淵 典 之	医学系研究科
委員	柳 川 右千夫	医学系研究科
委員	林 邦 彦	保健学研究科
委員	天 谷 賢 児	理工学府
委員	道 見 明 彦	学務部
委員	小 林 英 樹	教育学部
委員	キース・ベアリー	大学教育・学生支援機構
委員	坂 本 雅 昭	保健学研究科
委員	二 宮 祐	大学教育・学生支援機構

大学教育センター学部教務委員会教養教育部会

部会長	小 林 英 樹	教育学部
-----	---------	------

部会員	キース・ベアリー	大学教育・学生支援機構
部会員	小林英樹	教育学部
部会員	北村純	社会情報学部准
部会員	鎌田英男	医学系研究科
部会員	吉田亨	保健学研究科
部会員	中村洋介	理工学府
部会員	小谷英生	教育学部
部会員	小竹裕人	社会情報学部
部会員	寺嶋容明	教育学部
部会員	上條明隆	教育学部
部会員	山内春光	社会情報学部
部会員	後藤民浩	理工学府
部会員	渡辺秀司	理工学府
部会員	和田直樹	医学系研究科
部会員	松元宏行	大学教育・学生支援機構
部会員	牧原功	国際センター
部会員	藤谷与士夫	生体調節研究所
部会員	二宮祐	大学教育・学生支援機構

科目委員会：学びのリテラシー委員会		
委員長	小谷英生	教育学部
委員	森谷健	社会情報学部
委員	李範爽	保健学研究科
委員	森本英行	理工学府
委員	小林正行	教育学部
委員	高山利弘	社会情報学部
委員	和田直樹	医学系研究科
委員	浅川直紀	理工学府

科目委員会：総合科目委員会		
委員長	小竹裕人	社会情報学部
委員	金澤貴之	教育学部
委員	大野富彦	社会情報学部
委員	松崎利行	医学系研究科
委員	上原宏樹	理工学府
委員	小林陽子	教育学部
委員	上宮英之	保健学研究科
委員	住吉吉英	理工学府

科目委員会：情報委員会		
委員長	寺嶋容明	教育学部
委員	齋江貴志	教育学部
委員	岩井淳	社会情報学部
委員	齋藤勇一郎	医学系研究科
委員	佐藤守彦	理工学府
委員	佐渡一広	社会情報学部
委員	豊村暁	保健学研究科
委員	荒木幹也	理工学府

委員 横山英俊 総合情報メディアセンター

科目委員会：スポーツ・健康委員会

委員長	上條隆	教育学部
委員	新井康平	社会情報学部
委員	坂本雅昭	保健学研究科
委員	半谷禎彦	理工学府
委員	福地豊樹	教育学部
委員	中雄勇人	教育学部

科目委員会：人文・社会科学委員会

委員長	山内春光	社会情報学部
委員	今井就稔	教育学部
委員	藤井正希	社会情報学部
委員	山本康次郎	医学系研究科
委員	齋藤隆泰	理工学府
委員	山崎法子	教育学部
委員	北村純	社会情報学部
委員	村田祥子	保健学研究科

科目委員会：自然科学委員会

委員長	後藤民浩	理工学府
委員	青木悠樹	教育学部
委員	石川真一	社会情報学部
委員	鯉淵典之	医学系研究科
委員	荒木徹	理工学府
委員	山本亮介	教育学部
委員	岩崎博之	教育学部
委員	西村尚之	社会情報学部
委員	柳奈津子	保健学研究科
委員	京免徹	理工学府

大学教育センター学部教務委員会外国語教育部会

部長	キース・ベアリー	大学教育・学生支援機構
部会員	小林英樹	教育学部
部会員	飯島陸美	大学教育・学生支援機構
部会員	飯田敦史	大学教育・学生支援機構
部会員	コントララス・ジェフリー	大学教育・学生支援機構
部会員	フーゲンブーム・レイモンド	大学教育・学生支援機構
部会員	サンプソン・リチャード	大学教育・学生支援機構
部会員	金田仁秀	教育学部
部会員	河島基弘	社会情報学部
部会員	村上正巳	医学系研究科
部会員	川島智幸	保健学研究科
部会員	守田佳史	理工学府

部会員	田 中 一 嘉	教育学部
部会員	三 原 智 子	教育学部
部会員	野 田 岳 人	国際センター
部会員	渡 辺 秀 司	理工学府

大学教育センター学部教務委員会教育推進部会

部会長	坂 本 雅 昭	保健学研究科
部会員	古 田 貴 久	教育学部
部会員	大 野 富 彦	社会情報学部
部会員	鯉 淵 典 之	医学系研究科
部会員	白 石 洋 一	理工学府
部会員	二 宮 祐	大学教育・学生支援機構

学生支援センター運営委員会

委員長	窪 田 健 二	理事（教育・企画・国際交流担当）・副学長
委員	福 地 豊 樹	教育学部
委員	五 味 洋 一	大学教育・学生支援機構
委員	任 龍 在	教育学部
委員	吉 野 浩 之	教育学部
委員	西 村 尚 之	社会情報学部
委員	和 田 直 樹	医学系研究科
委員	篠 崎 博 光	保健学研究科
委員	上 野 圭 司	理工学府
委員	田 村 充	教育学部
委員	杉 山 学	社会情報学部
委員	鯉 淵 典 之	医学系研究科
委員	道 見 明 彦	学務部
委員	竹 内 一 夫	大学教育・学生支援機構
委員	園 田 智 子	国際センター

学生受入センター運営委員会

委員長	窪 田 健 二	理事（教育・企画担当）・副学長
副委員長	杉 山 学	社会情報学部
委員	板 橋 英 之	理工学府
委員	三 國 正 樹	教育学部
委員	伊 藤 賢 一	社会情報学部
委員	富 田 治 芳	医学系研究科
委員	三 井 真 一	保健学研究科
委員	網 井 秀 樹	理工学府
委員	道 見 明 彦	学務部
委員	喜多村 徹 雄	教育学部
委員	高 山 利 弘	社会情報学部
委員	平 井 宏 和	医学系研究科
委員	山 崎 恆 夫	保健学研究科
委員	中 川 紳 好	理工学府

学生受入センター運営委員会広報部会

部会長	杉 山 学	社会情報学部
-----	-------	--------

部会員	板橋英之	理工学府
部会員	喜多村徹雄	教育学部
部会員	高山利弘	社会情報学部
部会員	平井宏和	医学系研究科
部会員	山崎恆夫	保健学研究科
部会員	中川紳好	理工学府
部会員	中道見明	学務部

学生受入センター入試部会

部長	杉山学	社会情報学部
部会員	板橋英之	理工学府
部会員	三國正樹	教育学部
部会員	伊藤賢一	社会情報学部
部会員	富田治芳	医学系研究科
部会員	三井真一	保健学研究科
部会員	網井秀樹	理工学府

高大接続システム改革室

室長	窪田健二	理事（教育・企画担当）・副学長
室員	板橋英之	理工学府
室員	杉山学	社会情報学部
室員	小池啓一	特別教授
室員	伊藤隆	教育学部
室員	平井宏和	医学系研究科
室員	山崎恆夫	保健学研究科

健康支援総合センター運営委員会

委員長	田村遵一	医学部附属病院
委員	竹内一夫	大学教育・学生支援機構
委員	宮崎博子	大学教育・学生支援機構
委員	吉野浩之	教育学部
委員	西村尚之	社会情報学部
委員	和田直樹	医学系研究科
委員	篠崎博光	保健学研究科
委員	上野圭司	理工学府
委員	松谷治彦	総務部
委員	中道見明	学務部

教育改革推進室

室長	窪田健二	理事（教育・企画担当）・副学長
副室長	渡辺秀司	理工学府
室員	二宮祐樹	大学教育・学生支援機構
室員	小林英樹	教育学部
室員	キース・ベアリー	大学教育・学生支援機構
室員	坂本雅昭	保健学研究科
室員	板橋英之	理工学府
室員	杉山学	社会情報学部
室員	結城恵	大学教育・学生支援機構

1.3 教員による地域貢献事業

平成29年度活動内容

No.	教員名	活動内容	実施日
1	結城 恵	文化庁文化審議会国語分科会委員	
2	結城 恵	文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育スタートアッププログラム【地域日本語教育アドバイザー】日本語教育施策推進アドバイザー	
3	結城 恵	群馬労働局 群馬地方最低賃金審議会委員	
4	結城 恵	前橋市 アーツ前橋運営評議会委員	
5	結城 恵	渋川市総合計画審議会副委員長	
6	結城 恵	文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受入環境充実事業」「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム委員	
7	結城 恵	「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム グローバル・リーダーシップ・プログラム (GLLP) 研究会委員	
8	結城 恵	「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム 住環境整備推進委員会委員	
9	結城 恵	「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム 生活・就職支援実行委員会委員	
10	竹内 一夫	全国大学メンタルヘルス学会理事	
11	竹内 一夫	全国大学保健管理協会評議員	
12	竹内 一夫	群馬地方労働審議会委員	
13	竹内 一夫	群馬県障害者雇用対策プロジェクトチーム座長	
14	竹内 一夫	前橋市教育委員会学校問題対策専門委員会委員	
15	竹内 一夫	群馬産業保健総合支援センター評価委員・相談員	
16	竹内 一夫	群馬職域メンタルヘルス交流会運営委員	
17	竹内 一夫	「ヘルスサイエンス研究」編集委員	
18	竹内 一夫	「大学生のメンタルヘルス」編集委員	
19	竹内 一夫	北関東医学会評議員	
20	竹内 一夫	連合群馬「ライフサポートぐんま」アドバイザー	
21	竹内 一夫	NPO法人日本ゲートキーパー協会理事	
22	結城 恵	群馬大学高度人材育成センター 平成28年度事前研修 自己表現スキル講師（群馬県での実践事例をもとに）	4月11日

No.	教員名	活動内容	実施日
23	竹内 一夫	群馬県沼田市子育て支援センター事業講演・助言	5月22日／11月20日
24	結城 恵	全国市町村国際文化研修所 平成29年度国際文化研修「多文化共生マネージャー養成コース(前期)」外国人住民と法制度(2) 外国人児童・生徒の教育 講師	5月23日
25	五味 洋一	茨城県特別支援教育充実事業・特別支援教育巡回相談	2017年6月～2018年1月
26	竹内 一夫	一般社団法人日本バーテンダー協会衛生講師講習会講師	6月18日
27	結城 恵	文化庁委託事業平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業【地域日本語教育実践プログラム(B)】日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室 指導者養成講座	6月18日／7月2日／7月16日／8月20日／8月26日／10月15日／11月12日／11月26日／12月3日／1月28日／2月18日／2月25日
28	松元 宏行	群馬県立中央中等教育学校学校評議員会	第1回6月20日／第2回2月14日
29	竹内 一夫	群馬労働基準協会連合会技能研修「酸素欠乏」「有機溶剤」講師	6月21日／7月12日／9月13日／1月16日／1月24日／3月14日
30	竹内 一夫	群馬県看護協会自殺予防研修講師	6月26日
31	結城 恵	ぐんまでの暮らしを快適で豊かに～留学生・日本人学生とともに考える～暮らしのダイバーシティ推進プロジェクト 第1回「ぐんまは美味しい！」群馬育ちの食材の生産現場と料理の仕方	7月15日
32	松元 宏行	第12回群馬産学官金連携推進会議	7月27日
33	竹内 一夫	群馬県教育委員会高校教育課講演会講師「高校生の自殺予防」	8月3日／10月5日
34	竹内 一夫	産業カウンセラー協会上信越支部講習会講師	8月13日
35	レイモンド・フーゲンブーム	群馬大学公開講座(地域貢献B)「英語教師の英語力アップ講座1:英語で授業を行うための「発音力UP」ワークショップ」	8月18日
36	レイモンド・フーゲンブーム	群馬大学公開講座(地域貢献B)「英語教師の英語力アップ講座2:英語で授業を行うための「流暢さUP」ワークショップ」	8月18日
37	結城 恵	文化庁委託事業平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業【地域日本語教育実践プログラム(B)】日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室(第1回)	8月20日／10月15日／11月12日／11月26日／12月3日／12月16日～12月17日／1月28日／2月18日／2月25日
38	飯島 睦美	島根県教育委員会英語研修講師	8月21日

No.	教員名	活動内容	実施日
39	結城 恵	全国市町村国際文化研修所 平成29年度外国につながるを持つ子どもたちへの学習支援～多様性社会を生きる「次世代」の育成～講師（群馬県での実践事例をもとに）	8月21日～8月25日
40	結城 恵	「グローバル・ハタラクラスぐんま」プロジェクト GLLP（グローバル・リーダーシッププログラム） インターンシップ川場村	9月4日～10日／9月18日～24日
41	飯島 睦美	群馬県立中央中等学校SGH課題研究発表会指導助言	9月12日・13日
42	飯島 睦美	高崎市小・中学生英語教室（@群馬大学飯島研究室）	10月2・16・23・30日／11月6・13・20・27日／12月4・11日／2月5・27日／3月5・7日
43	竹内 一夫	群馬県医師会認定産業医研修講師	10月9日／1月15日
44	結城 恵	ぐんまでの暮らしを快適で豊かに～留学生・日本人学生とともに考える～暮らしのダイバーシティ推進プロジェクト 第2回「住まいをキレイに！お片づけで笑顔に！」	10月14日
45	結城 恵	公益財団法人佐賀県国際交流協会 外国につながる子ども支援セミナー 講師（群馬県での実践事例をもとに）	10月17日
46	結城 恵	「グローバル・ハタラクラスぐんま」プロジェクト 留学生のための就職活動懇談会	11月5日
47	結城 恵	ぐんまでの暮らしを快適で豊かに～留学生・日本人学生とともに考える～暮らしのダイバーシティ推進プロジェクト 第3回「ぐんまで安心・安全！」暮らしを守るために備える	11月18日
48	結城 恵	北上市・国際都市推進きたかみ市民会議 多文化共生講演会 次世代のため地域づくりにつなぐ多文化共生 講師 （群馬県での実践事例をもとに）	11月26日
49	結城 恵	独立行政法人国際交流基金・アジアセンター主催 「ダイバーシティをはぐくむEYESプロジェクト」 プログラムアドバイザー	11月26日～12月2日
50	結城 恵	ぐんまでの暮らしを快適で豊かに～留学生・日本人学生とともに考える～暮らしのダイバーシティ推進プロジェクト 第4回「快適に住む！」占有空間と共有空間のインテリアと香り	12月2日
51	飯島 睦美	群馬県教育委員会英語教育フォーラム講師	12月4日

No.	教員名	活動内容	実施日
52	五味 洋一	独立行政法人日本学生支援機構・平成29年度全国障害学生支援セミナー「専門テーマ別セミナー【4】」	講師・『障害のある生徒の個別の教育支援計画等の高等教育機関への引継ぎと課題について』
53	五味 洋一	社会福祉法人正夢の会・平成29年度東京都発達障害者支援体制整備推進事業（発達障害者相談支援研修）講師・『発達障害のある大学生－学生の自立と家族の支援－』	12月20日
54	結城 恵	「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム 留学生のための就職活動スタートアップ・セミナー 「留学生のためのビジネスマナー講習」	12月27日／1月5日
55	飯島 睦美	読み書きが苦手な中学生が活躍するためのICT活用講習会講師（@高崎健康福祉大学）	12月23日／3月30日
56	結城 恵	「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム 留学生のための就職活動ステップアップ・セミナー	1月13・14日
57	飯島 睦美	認定NPO法人 EDGE 運営委員	1月18日
58	結城 恵	「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム 留学生のための企業交流会直前対策セミナー	2月7日
59	結城 恵	「グローバル・ハタラクラスぐんま」プロジェクト HKG（ハタラクラスぐんま）インターンシップ・プログラム サンデン・ホールディングス	2月19日～23日
60	結城 恵	文化庁委託事業平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業【地域日本語教育実践プログラム（B）】日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室 実践交流・意見交換会	2月25日
61	飯島 睦美	群馬県立中央中等学校SGH課題研究発表会指導助言	3月2日
62	結城 恵	「グローバル・ハタラクラスぐんま」プロジェクト 高度人財としての留学生が群馬に定着する仕組みをどうつくるか	3月16日
63	松元 宏行	群馬大学理工学部地域貢献諮問委員会（理工学人材育成）	3月19日

2 大学教育センター

2.1 教養教育部会

2.1.1 はじめに

平成23年度に発足した教養教育部会は、教養教育を実施・運営するための調整をはじめとする実務的側面を担う組織である。部会長、副部会長、大学教育センター副センター長、外国語教育部会部会長、科目委員会（学びのリテラシー、総合科目、情報、スポーツ・健康、人文・社会科学、自然科学）の各委員長、就業力育成支援室、国際センター、生体調節研究所、大学教育・学生支援機構から各1名、及び、各学部教務委員（教育学部、社会情報学部、理工学部からは各1名、医学部からは医学科、保健学科より各1名の計2名）の構成員からなる。平成29年度は兼担者がおり総計18名のメンバーで活動した。

2.1.2 平成29年度活動概要

教養教育部会は、毎月1回（原則として第3月曜日）に定例部会を開催し、教養教育実施に関する諸問題について討議した。平成29年度は、4月に第1回の部会を開催し、8月の休会を除いて、平成30年3月まで計11回の定例会議をもった。活動全般としては、例年どおりであった。

2.1.3 平成29年度活動内容

平成29年度教養教育部会の主な業務は例年と大きな変化はなく下記のとおりであった。

- 1) 次年度教養教育科目開講コマ数の確定
- 2) 次年度教養教育実施体制（担当教員などの確定）についての承認
- 3) 次年度教養教育科目等の時間割の確定
- 4) 次年度学年暦の作成・承認
- 5) 非常勤講師（ゲスト講師を含む）採用のための審査
- 6) 教養教育科目の授業にかかわる経費などの承認
- 7) 合宿研修費要求に関する審査
- 8) TAの採用に関する審査
- 9) 障害を有する入学志願者との事前相談に関する報告
- 10) 放送大学との単位互換科目（追加・変更分）についての報告
- 11) 協定を結ぶ他大学との単位互換科目（追加・変更分）についての報告
- 12) 交換留学生の教養教育科目履修についての報告

これらの主要業務、及びそれに関連する事項について、月別に示すと以下のとおりとなる。

- 4月 新入生のオリエンテーションの実施
文化講演会の開催
- 5月 交換留学生の前期教養教育科目履修届についての報告
教養教育関係予算案の承認
- 6月 平成30年度学年暦案の提示
前期修得単位認定の報告
- 7月 前期期末試験の実施
平成30年度学部別担当コマ数に関する基本方針の承認

- 平成30年度学年暦案の承認
- 9月 平成30年度教養教育実施体制案の提示
障害等のある入学志願者との事前相談についての報告
平成29年度前期教養教育科目における追試験許可についての報告
- 11月 学長と学生との懇談会実施
平成30年度教養教育実施体制案の検討
交換留学生の後期教養教育科目履修届についての報告
後期修得単位認定の報告
- 12月 平成30年度教養教育実施体制及び開講科目についての承認
協定を結ぶ他大学との単位互換科目についての承認
協定を結ぶ他大学との単位互換に係る履修可能授業科目についての承認
平成30年度非常勤講師の採用についての承認
- 1月 平成30年度教養教育開講科目（一部変更）についての承認
- 2月 後期期末試験の実施
平成30年度開放専門科目についての承認
平成29年度後期教養教育科目における追試験許可についての報告
- 3月 平成30年度新生オリエンテーション計画の作成
平成30年度 TA の採用計画案についての承認
平成30年度教養教育履修手引の作成

その他、具体的な活動の一部を以下に記載する。

1) 記載項目「ディプロマポリシーとの関連」について

次年度以降の入学学生を対象にした教養教育科目のシラバスにおいて、全学ディプロマポリシーとの関連を明記することとなり、「諸科学についての基礎的知識と理解」「論理的・創造的思考力」「コミュニケーション能力」「社会的倫理観・国際性」を記載することを決定した。

2) 外国語教養科目群「選択ドイツ語」の開設について

「外国語教養科目群」の「ドイツ語基礎」ないしは「ドイツ語基礎実践」の単位を1単位以上取得済み、又は認定済みの全学部全学年学生で、ドイツ短期語学留学プログラム参加者を対象に「選択ドイツ語A～D」を開設することを決定した。

3) 理工学部における高年次向け教養英語の開講について

第三期の中期計画に掲げる「高年次までの英語教育の拡大」のパイロット的なプログラムを目指すこととして、平成30年度理工学部入学学生が2年次になる平成31年度に桐生キャンパスで履修する「英語C I」「英語C II」を開講することを決定した。

4) 学部別科目の専門教育科目への移行について

各学部が教育の質に関して責任を持って行う体制を構築するため、平成31年度から学部別科目を学部の専門教育科目に移行することについて確認した。

5) 平成29年度文化講演会について

平成29年度の文化講演会を以下のとおり実施した。

○開催日時：平成29年4月25日（火）16：00～17：30

○会場：荒牧地区 大学会館ミューズホール

○講師：外山京太郎 [川場村村長]

○演題：「小さくとも輝ける日本一の村づくり」

参加者は161名で、成功裡に終了した。参加者の内訳は以下のとおりであった。

総合科目群「ぐんま未来学」受講学生	141名
授業以外の本学学生	3名
教職員	17名

2.2 外国語教育部会

2.2.1 はじめに

平成29年度、外国語教育部会は、前年度同様、全学の外国語教育の改善に取り組んだ。4月には全学部で新生を対象に英語プレイスメントテスト（クラス編成テスト）を実施し、その結果にもとづき、英語習熟度別クラス編成を行った。1年生のクラス規模については、全学部において単位認定者見込み数を差し引いた実質的な履修者数を34名以下とした。

まず、理工学部のアchievementテスト（学習到達度測定テスト）に関しては、前期末に英語統一テスト（TOEIC-IP）を実施し、その結果を前期の英語授業（「英語AI」「英語BI」）の成績に算入した。

また、平成27年度より引き続き、全学部1年生を対象に、後期末にアチーブメントテストとして英語統一テスト（TOEIC-IP）を実施した。理工学部においては、その結果を後期の英語授業（「英語AII」「英語BII」）の成績に算入し、社会情報学部においては、同テストの結果をもとに「英語2年」の習熟度別クラス編成を行った。今年度の外国語教育部会では、同テストの利用について以下の3点を決定した：①社会情報学部・教育学部・医学部保健学科についても、英語統一テストの成績を1年生の後期英語授業の成績に算入すること、②教育学部においても、同テストの結果に基づき「英語2年」の習熟度別クラス編成を行うこと、③教育学部と社会情報学部の2年生について、2年次後期末に英語統一テストを実施し、その結果を後期の英語授業の成績に算入すること（これにより、理工学部・社会情報学部・教育学部において、TOEIC-IPをアチーブメントテストとして少なくとも計2回実施し、伸び率を測ることが可能となる）。この3点は、平成29年度以降の入学者について適用された。

加えて、例年同様、希望者対象のTOEFL-ITPの実施（7月、12月の2回実施）、eラーニングの推進を行った。さらに、ドイツ語及びフランス語の技能検定試験ならびに年度末共通テスト（アチーブメントテスト）を実施し、受講学生の学力向上の度合いを客観的に計測した。

2.2.2 英語習熟度別クラス編成、及び英語アチーブメントテスト

英語習熟度別のクラス編成は、平成19年度に行ったアンケート調査の分析結果に基づき、平成20年度から、希望する学部・学科のクラスを対象として正式に実施されることになり、平成21年度より、社会情報学部1年・2年、保健学科看護学専攻1年（保健A・Bクラス）、工学部応用化学・生物化学科1年の英語クラスにおいて習熟度別クラス編成が行われた。平成22年度には、翌年度以降、工学部すべての学科に対して実施することが計画され、平成22年度末に社会情報学部及び工学部の全1年次生に対して、アチーブメントテストを実施した。このデータをもとに、平成23年度の4月には両学部の全新生に対して、プレイスメントテストを行い、習熟度別クラス編成を行った。平成25年度には、医学部（医学科・保健学科）の新生に対して、翌26年度には、教育学部の新生に対してもプレイスメントテストを実施した。今年度も、例年同様、1年次生については1クラス40名以下の習熟度別クラスを全学部で編成し、単位認定者見込み数を差し引いた実質的な履修者数を1クラス34名以下とした。また、平成29年度以降に入学した教育学部2年生についても習熟度別クラス編成の実施が決定された。この結果、平成30年度には、医学部2年生（医学科・保健学科）を除く、すべての教養英語クラスにおいて、習熟度別クラス編成が実施される見込みとなった。

プレイスメントテスト 平成29年4月3日（月）14：00～15：20

受験者：医学部医学科 113名

医学部保健学科 161名

社会情報学部 109名

教育学部 228名

理工学部 532名

監督：12名（理工学部より2名，社会情報学部より1名，医学科より2名，保健学科より3名，教育学部より3名，大学教育センターより1名）

2.2.3 TOEIC-IP

群馬大学では平成15年度からTOEIC-IPを継続的に実施しており，外国語教育部会が中心となって，多くの学生のTOEIC-IP受験を促している。

実施は年2回（7月／1月）で，平成21年度からは，申し込み手続を群馬大学で直接行うことにより，受験料を低く抑えることが可能になった。平成29年度の実施日時，受験者数は以下のとおりである。

1回目：平成29年7月19日（水；17：40～20：10）実施：受験者 638名

2回目：平成30年1月23日（火；9：40～12：10）実施：受験者 1,043名

2.2.4 TOEFL-ITP

海外留学を希望する学生にとってTOEFLの成績が要求されることが多いため，群馬大学では平成20年度から，TOEFL-ITPを荒牧キャンパスで年2回（6月もしくは7月と，12月もしくは1月）実施することとした。平成29年度の日程と受験者数は以下のとおりであった。

1回目：平成29年7月26日（水；17：40～20：05）実施：受験者 32名

2回目：平成29年12月21日（木；17：40～20：05）実施：受験者 18名

TOEFL-ITPは，10名以上が参加しないと実施できないため，今後も外国語教育部会が中心となって，広報に努力を払い，各学部の協力を得ながら，参加者の拡充を目指していくこととした。

2.2.5 TOEIC・TOEFL説明会

TOEICならびにTOEFLについて，全1年生を対象に，英語プレイスメントテスト（4月3日）の後，各試験室に資料を配布して説明を行った。

2.2.6 ドイツ語技能検定試験・フランス語技能検定試験

群馬大学では，ドイツ語，フランス語担当教員の協力のもと，地域貢献活動の一環として，群馬大学を会場とし，本学学生のみならず周辺地域の受験希望者がドイツ語技能検定試験，フランス語技能検定試験を受験できるよう継続的に努力してきており，平成29年度もドイツ語技能検定試験（5級～1級）を1回，フランス語技能検定試験（5級～1級）を2回，荒牧キャンパスにおいて実施した。実施日時と受験者数は以下のとおりである。

ドイツ語技能検定試験

・実施日時：冬季試験：平成29年12月3日（日）全級（5・4・3・2・準1・1級）

学内外の総受験者数：43名（複数級併願者含む）

群馬大学生受験者数：3名（但し，学校名を記入していない本学学生の受験者はこの数

値に含まれない。)

フランス語技能検定試験

- ・実地日時：春季試験：平成29年6月18日（日）（5, 4, 3, 準2, 2, 1級）
学内外の総申込者数：54名（複数級併願者含む）
- ・実地日時：秋季試験：平成29年11月19日（日）（5, 4, 3, 準2, 2, 準1級）
学内外の総申込者数：71名（複数級併願者含む）
- ・春秋の申込者数総計125名

2.2.7 ドイツ語・フランス語の共通アチーブメントテスト

外国語教養科目のうち、特にドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語などの印欧語族の言語学習は、中学での英語授業時間の短縮、高校での英文法授業の簡略化に伴い、同系語族の文法を論理的に理解する貴重な機会となってきた。また、英語以外の外国語学習は、その言語のみならず、英語や母語を含んだ総合的な言語能力を高め、学習者のコミュニケーション能力全体の向上に寄与することも期待される。したがって教育内容の充実のためには、学習の達成度を客観的に把握することも重要である。

外国語教養科目のうち、専任教員が在籍しているドイツ語及びフランス語については、学習の進捗を測定するために平成21年度以来実施している共通のアチーブメントテストを、今年度も実施した。（週2回1年間4単位（学習時間年間120時間*）履修可能な授業の中から、週1回分を専任教員が担当するクラスをピックアップし、年度末最終授業時に共通問題で実施（試験時間：ドイツ語45分、フランス語30分**）

ドイツ語共通アチーブメントテスト

- ・実施日 平成30年1月29日（月）教育学部EA1/2・社会情報学部6名受験
- ・実施日 平成30年2月2日（金）医学部医学科・理工学部CB/ES 21名受験
- ・実施日 平成30年2月5日（月）教育学部EB1/2クラス6名受験

フランス語共通アチーブメントテスト

- ・実施日 平成30年1月29日（月）教育学部EA1～EA4クラス34名受験
- ・実施日 平成30年1月30日（火）医学部医学科43名受験
- ・実施日 平成30年1月31日（水）社会情報学部6名受験

平成21年度から今年度までの実施結果から主に以下のことが得られている。

* 4単位（120時間）を履修する学生の平均得点は、どの学部でも全国のドイツ語技能検定3級ないしフランス語技能検定3級合格者の最低得点と概ね同等である。

* 2単位履修者の平均得点は4単位履修者に比べて例年約20点低く、高得点者が少ないうえ、極端に得点が低い者が多い傾向が続いている。

* クラスサイズが30名を超えると得点が下がり始める傾向がある。

教室では、学生の興味や学習意欲は十分高いのに、学力・学習能力のみが年々低下してゆく傾向が見られる。学生たちの英語以外の外国語への興味・意欲を保ちながら、外国語の学習能力を高める指導の工夫、少人数授業の徹底、およびカリキュラムの拡充が、今後の課題であろう。英語以外の外国語の学習能力の向上が、学生たちの英語力の向上にも寄与することを示すデータも集積されつつある。

2.2.8 理工学部の英語教育カリキュラムについて

理工学部においては、学生の大学院進学率が高く、その進学の有無判定にはTOEICの得点を利用されている。また学部・大学院ともに、卒業・修了後ビジネス界に就職する率もつ

とも高い学部・研究科であり、職に就いた後も英語力を要求されることは必至である。そこで外国語教育部会は平成22年度に、群馬大学の学生のおよそ半数を占める工学部（現、理工学部）学生の英語力を増強するために、大幅な英語カリキュラムの改善を検討した。その結果平成23年度には、教育基盤センター「外国語教育部会」がこれを実行に移した。おもな変更点は以下のとおりであるが、平成24年度以降もこの方策を継承し、さらに、1クラスの受講者数を削減するために、全体のクラス増を実現した。平成28年度現在、計20クラスを開講し、引き続き、少人数クラスでの授業を実施している。

- 1) 週2回（90分×2回）の英語授業を履修させる。
- 2) 前期2単位、後期2単位で、1年次に4単位を取得させる。
- 3) 週2回のうち、1回は文法・読解力の養成、1回は聴解・会話等、コミュニケーション能力の育成を目指した授業とする。
- 4) 4月入学時にプレースメントテストを行い、習熟度別クラスを実現する。
- 5) 7月の前期終了時にアチーブメントテストを行う。
- 6) 1月に後期アチーブメントテストを行い、達成度を計測する。

本学では全学的に、卒業要件となる英語の単位は4単位となっているが、基本的な英語力の低い学生については、1年次に4単位を履修させることが望ましい。そのため、週2回の英語の授業で4単位を取得させるカリキュラムを運営している。また授業形態も「読解型」と「コミュニケーション型」の2種類とした。

こうした改変の成果は、新カリキュラムの導入から2年後の平成25年度末のアチーブメントテストの結果に明確に現れた。また、平成27年7月のTOEIC-IPテストの結果は前年度比の伸び率が高く、その原因としては、理工学部における統一カリキュラムの効果に加え、平成27年度より、理工学部の入試に英語試験が導入されたことに起因すると考えられる。なお、今年度7月のTOEIC-IPテストの平均点は、平成21年度1月に実施した同テストの平均点に比べ、およそ90点の伸びを示した。

2.2.9 教育学部の英語教育カリキュラムについて

平成23年度から小学校第5・第6学年の外国語（英語）活動が必修化され、さらに新学習指導要領（平成29年3月告示）により、平成32年度には外国語（英語）活動が小学校第3・4学年に引き下げられ、外国語（英語）が小学校第5・6学年で教科として全面実施となる。そのため、学校教育現場では、小学校教員にも英語を指導する能力だけでなく、ALTとのティーム・ティーチングを行うための英語コミュニケーション能力が求められている。群馬大学教育学部では、大多数の学生が小学校の免許を取得しており、英語教育の重要性が増している。

平成28年度に引き続き、外国語教育部会では、教育学部の教養英語について、平成29年度入学生以降の新カリキュラム実施を目指し、2年間で4技能を総合的に鍛えるための統一シラバスの考案、適切な教科書・教材の選定、成績の付け方の統一、ないしは、不公平のない成績の付け方、2年次の習熟度別クラス編成等について検討した。

2.3 教育推進部会

2.3.1 はじめに

教育推進部会では、教育実施体制及び教育方法等に関する企画立案を図るため教養教育授業評価、ベストティーチャー賞選考および全学FD講演会を実施した。

2.3.2 教養教育授業評価

平成25年度より全学で導入された「学びのリテラシー (1)」及び「学びのリテラシー (2)」に加え「情報」の授業評価アンケートを、全学部1年生を対象として実施した。学生からの回答率は、対象科目全体で約80%と前年度の75%とから5ポイントの改善が認められた。一方で、学部間での回答率に差異があることから、科目担当教員から学生に回答協力を促すよう周知した。

「学びのリテラシー (1)」は、「日本語能力の涵養」並びに「プレゼンテーション能力の涵養」を目的としている。各設問ともに8割以上が良好との回答が得られており、講義目的は概ね達成されていると判断された。また、本科目の特徴である、アクティブラーニングの実施については、「あてはまる」が全学部平均で92.4% (81.1 ~ 98.8%) と昨年度より2ポイント改善しており、担当教員の授業内容改善の努力がうかがえた。

「学びのリテラシー (2)」では、講義内容に関する設問で8~9割が良好の回答が得られており、講義目的は概ね達成されていると判断された。一方で、「希望した科目を選ぶことができた」に関しては、2割を超える学生が「あてはまらない」と回答しており、開設科目、受講者数、割振り方法等を検討する必要性が示唆された。

「情報」では、講義内容に関する設問で8~9割が良好の回答が得られており、講義目的は概ね達成されていると判断された。一方で、「学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった」に関しては、学部間での差はあるものの約3割の学生が「あまりあてはまらない」と回答した学部もあり、学部別授業内容の検討の必要性が示唆された。

2.3.3 ベストティーチャー賞選考

平成18年度に創設された「ベストティーチャー賞」の選考を継続実施した。選考は、各部局より推薦された11名の受賞候補者から、審査委員会による書面審査により3名の最優秀候補者を選出し、平成30年9月14日に公開模擬授業を行なった。高木理（社会情報学部・准教授）、田沼一実（理工学府・教授）、岩瀧大樹（教育学部・准教授）の3名の最優秀賞候補者により、各30分の模擬授業を実施後、学長・理事・学部長等による審査委員会を開催し、最優秀賞および優秀賞を決定した。最優秀賞は岩瀧大樹准教授が受賞し、他の受賞候補者全員が優秀賞を受賞した。

尚、公開模擬授業は荒牧キャンパスで実施し桐生、太田及び昭和キャンパスには同時中継を行い全学部教職員の参加を図った。

2.3.4 全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」

平成21年度より実施している全学FD連続講演会を引き続き開催した。本年度は、聖心女子大学文学部准教授・杉原真晃氏及び日本工業大学工学部准教授・河住有希子氏をお招きして学生主体型授業の導入についてご講演をいただいた。

テーマは、「学生主体型授業の導入 - 自主的な学びを超えて - 」として、学生の主体性を育成するためにはどうすればよいか。「主体的」行動と「自主的」行動の違い、教職員が学生に対して「主体的」になることを促すための具体的方策について解説をいただいた。

資料

1. 平成29年度授業評価「学びのリテラシー (1)」集計表
2. 平成29年度授業評価「学びのリテラシー (2)」集計表
3. 平成29年度授業評価「情報」集計表
4. 平成29年度ベストティーチャー賞行事予定

5. 平成29年度ベストティーチャー賞受賞候補者一覧
6. 第9回全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」の開催について

資料 1

平成29年度授業評価「学びのリテラシー（1）」集計表

区 分	対象者数	提出者数	回収率(%)
教育学部	229 (233)	168 (172)	73.4 (73.8)
社会情報学部	109 (102)	86 (84)	78.9 (82.4)
医学部医学科	112 (111)	90 (89)	80.4 (80.2)
医学部保健学科	161 (165)	145 (138)	90.1 (83.6)
理工学部	533 (543)	496 (512)	93.1 (94.3)
合 計	1,144 (1,154)	985 (995)	86.1 (86.2)

※（ ）は昨年度の結果

※評価基準 1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」(以下 同様)

質問 1. この授業によって論理的思考力を身につけることができた。

区 分	「1」		「2」		「3」		「4」		合 計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
教育学部	102 (86)	60.7 (50.0)	59 (77)	35.1 (44.8)	5 (9)	3.0 (5.2)	2 (0)	1.2 (0.0)	168 (172)
社会情報学部	23 (13)	26.7 (15.5)	50 (55)	58.1 (65.5)	12 (13)	14.0 (15.5)	1 (3)	1.2 (3.6)	86 (84)
医学部医学科	17 (28)	18.9 (31.5)	52 (42)	57.8 (47.2)	17 (17)	18.9 (19.1)	4 (2)	4.4 (2.2)	90 (89)
医学部保健学科	31 (20)	21.4 (14.5)	101 (92)	69.7 (66.7)	12 (22)	8.3 (15.9)	1 (4)	0.7 (2.9)	145 (138)
理工学部	130 (136)	26.2 (26.6)	293 (293)	59.1 (57.2)	59 (61)	11.9 (11.9)	14 (22)	2.8 (4.3)	496 (512)
全 体	303 (283)	30.8 (28.4)	555 (559)	56.3 (56.2)	105 (122)	10.7 (12.3)	22 (31)	2.2 (3.1)	985 (995)

質問 2. この授業によってコミュニケーション能力を身につけることができた。

区 分	「1」		「2」		「3」		「4」		合 計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
教育学部	101 (72)	60.1 (42.4)	54 (81)	32.1 (47.6)	11 (14)	6.5 (8.2)	2 (3)	1.2 (1.8)	168 (170)
社会情報学部	32 (13)	37.2 (16.0)	36 (46)	41.9 (56.8)	16 (18)	18.6 (22.2)	2 (4)	2.3 (4.9)	86 (81)
医学部医学科	13 (18)	14.4 (20.7)	40 (36)	44.4 (41.4)	31 (28)	34.4 (32.2)	6 (5)	6.7 (5.7)	90 (87)
医学部保健学科	32 (19)	22.1 (13.8)	87 (82)	60.0 (59.4)	22 (30)	15.2 (21.7)	4 (7)	2.8 (5.1)	145 (138)
理工学部	138 (105)	27.8 (20.6)	251 (285)	50.6 (56.0)	88 (99)	17.7 (19.4)	19 (20)	3.8 (3.9)	496 (509)
全 体	316 (227)	32.1 (23.0)	468 (530)	47.5 (53.8)	168 (189)	17.1 (19.2)	33 (39)	3.4 (4.0)	985 (985)

質問 3. この授業によって表現力を高めることができた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	105 (74)	62.5 (43.0)	54 (88)	32.1 (51.2)	7 (10)	4.2 (5.8)	2 (0)	1.2 (0.0)	168 (172)
社会情報学部	30 (11)	34.9 (13.1)	41 (46)	47.7 (54.8)	15 (23)	17.4 (27.4)	0 (4)	0.0 (4.8)	86 (84)
医学部医学科	17 (28)	18.9 (31.5)	53 (39)	58.9 (43.8)	16 (21)	17.8 (23.6)	4 (1)	4.4 (1.1)	90 (89)
医学部保健学科	29 (23)	20.0 (16.7)	97 (82)	66.9 (59.4)	18 (27)	12.4 (19.6)	1 (6)	0.7 (4.3)	145 (138)
理工学部	108 (107)	21.8 (20.9)	292 (287)	58.9 (56.1)	78 (96)	15.7 (18.8)	18 (22)	3.6 (4.3)	496 (512)
全体	289 (243)	29.3 (24.4)	537 (542)	54.5 (54.5)	134 (177)	13.6 (17.8)	25 (33)	2.5 (3.3)	985 (995)

質問 4. この授業で報告の仕方やレポートの書き方を修得できた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	103 (98)	61.3 (59.4)	49 (62)	29.2 (37.6)	13 (4)	7.7 (2.4)	3 (1)	1.8 (0.6)	168 (165)
社会情報学部	43 (34)	50.0 (42.0)	36 (40)	41.9 (49.4)	7 (5)	8.1 (6.2)	0 (2)	0.0 (2.5)	86 (81)
医学部医学科	36 (53)	40.0 (62.4)	49 (26)	54.4 (30.6)	5 (6)	5.6 (7.1)	0 (0)	0.0 (0.0)	90 (85)
医学部保健学科	82 (70)	56.6 (51.9)	59 (59)	40.7 (43.7)	4 (5)	2.8 (3.7)	0 (1)	0.0 (0.7)	145 (135)
理工学部	184 (201)	37.1 (39.6)	257 (247)	51.8 (48.7)	46 (52)	9.3 (10.3)	9 (7)	1.8 (1.4)	496 (507)
全体	448 (456)	45.5 (46.9)	450 (434)	45.7 (44.6)	75 (72)	7.6 (7.4)	12 (11)	1.2 (1.1)	985 (973)

質問 5. この授業で情報収集や引用の方法について学ぶことができた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	116 (100)	69.0 (60.6)	41 (58)	24.4 (35.2)	8 (5)	4.8 (3.0)	3 (2)	1.8 (1.2)	168 (165)
社会情報学部	38 (24)	44.2 (29.6)	39 (48)	45.3 (59.3)	8 (8)	9.3 (9.9)	1 (1)	1.2 (1.2)	86 (81)
医学部医学科	42 (60)	46.7 (70.6)	46 (22)	51.1 (25.9)	2 (3)	2.2 (3.5)	0 (0)	0.0 (0.0)	90 (85)
医学部保健学科	87 (85)	60.0 (63.0)	55 (47)	37.9 (34.8)	3 (1)	2.1 (0.7)	0 (2)	0.0 (1.5)	145 (135)
理工学部	163 (182)	32.9 (35.9)	276 (264)	55.6 (52.1)	48 (52)	9.7 (10.3)	9 (9)	1.8 (1.8)	496 (507)
全体	446 (451)	45.3 (46.4)	457 (439)	46.4 (45.1)	69 (69)	7.0 (7.1)	13 (14)	1.3 (1.4)	985 (973)

質問 6. この授業で大学での学習方法を修得できた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	78 (57)	46.4 (33.1)	72 (99)	42.9 (57.6)	15 (15)	8.9 (8.7)	3 (1)	1.8 (0.6)	168 (172)
社会情報学部	19 (7)	22.1 (8.3)	57 (51)	66.3 (60.7)	8 (25)	9.3 (29.8)	2 (1)	2.3 (1.2)	86 (84)
医学部医学科	16 (25)	17.8 (28.1)	48 (37)	53.3 (41.6)	20 (22)	22.2 (24.7)	6 (5)	6.7 (5.6)	90 (89)
医学部保健学科	26 (27)	17.9 (19.6)	84 (75)	57.9 (54.3)	33 (29)	22.8 (21.0)	2 (7)	1.4 (5.1)	145 (138)
理工学部	116 (105)	23.4 (20.5)	265 (271)	53.4 (52.9)	96 (109)	19.4 (21.3)	19 (27)	3.8 (5.3)	496 (512)
全体	255 (221)	25.9 (22.2)	526 (533)	53.4 (53.6)	172 (200)	17.5 (20.1)	32 (41)	3.2 (4.1)	985 (995)

質問 7. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	101 (73)	60.1 (42.4)	56 (85)	33.3 (49.4)	9 (12)	5.4 (7.0)	2 (2)	1.2 (1.2)	168 (172)
社会情報学部	25 (9)	29.1 (10.7)	47 (45)	54.7 (53.6)	12 (25)	14.0 (29.8)	2 (5)	2.3 (6.0)	86 (84)
医学部医学科	15 (27)	16.7 (30.3)	42 (33)	46.7 (37.1)	25 (25)	27.8 (28.1)	8 (4)	8.9 (4.5)	90 (89)
医学部保健学科	28 (24)	19.3 (17.4)	96 (76)	66.2 (55.1)	20 (30)	13.8 (21.7)	1 (8)	0.7 (5.8)	145 (138)
理工学部	109 (103)	22.0 (20.1)	259 (239)	52.2 (46.7)	101 (126)	20.4 (24.6)	27 (44)	5.4 (8.6)	496 (512)
全体	278 (236)	28.2 (23.7)	500 (478)	50.8 (48.0)	167 (218)	17.0 (21.9)	40 (63)	4.1 (6.3)	985 (995)

質問 8. 教室での討論は活発であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	90 (74)	53.6 (43.0)	60 (77)	35.7 (44.8)	15 (14)	8.9 (8.1)	3 (7)	1.8 (4.1)	168 (172)
社会情報学部	24 (8)	27.9 (9.5)	35 (34)	40.7 (40.5)	24 (31)	27.9 (36.9)	3 (11)	3.5 (13.1)	86 (84)
医学部医学科	14 (26)	15.6 (29.2)	40 (41)	44.4 (46.1)	29 (17)	32.2 (19.1)	7 (5)	7.8 (5.6)	90 (89)
医学部保健学科	33 (16)	22.8 (11.6)	84 (75)	57.9 (54.3)	28 (39)	19.3 (28.3)	0 (8)	0.0 (5.8)	145 (138)
理工学部	115 (100)	23.2 (19.5)	250 (251)	50.4 (49.0)	107 (130)	21.6 (25.4)	24 (31)	4.8 (6.1)	496 (512)
全体	276 (224)	28.0 (22.5)	469 (478)	47.6 (48.0)	203 (231)	20.6 (23.2)	37 (62)	3.8 (6.2)	985 (995)

質問 9. 教員や他の学生とコミュニケーションをとる機会が多かった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	120 (108)	71.4 (62.8)	42 (52)	25.0 (30.2)	4 (9)	2.4 (5.2)	2 (3)	1.2 (1.7)	168 (172)
社会情報学部	32 (13)	37.2 (15.5)	41 (43)	47.7 (51.2)	12 (22)	14.0 (26.2)	1 (6)	1.2 (7.1)	86 (84)
医学部医学科	14 (32)	15.6 (36.0)	52 (34)	57.8 (38.2)	18 (17)	20.0 (19.1)	6 (6)	6.7 (6.7)	90 (89)
医学部保健学科	60 (35)	41.4 (25.4)	71 (74)	49.0 (53.6)	13 (22)	9.0 (15.9)	1 (7)	0.7 (5.1)	145 (138)
理工学部	137 (142)	27.6 (27.7)	256 (229)	51.6 (44.7)	82 (111)	16.5 (21.7)	21 (30)	4.2 (5.9)	496 (512)
全体	363 (330)	36.9 (33.2)	462 (432)	46.9 (43.4)	129 (181)	13.1 (18.2)	31 (52)	3.1 (5.2)	985 (995)

質問10. 宿題(課題)の内容や量は適切であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	86 (69)	51.2 (40.1)	65 (77)	38.7 (44.8)	15 (23)	8.9 (13.4)	2 (3)	1.2 (1.7)	168 (172)
社会情報学部	43 (23)	50.0 (27.4)	31 (51)	36.0 (60.7)	10 (7)	11.6 (8.3)	2 (3)	2.3 (3.6)	86 (84)
医学部医学科	16 (24)	17.8 (27.0)	34 (36)	37.8 (40.4)	30 (26)	33.3 (29.2)	10 (3)	11.1 (3.4)	90 (89)
医学部保健学科	30 (29)	20.7 (21.0)	87 (70)	60.0 (50.7)	26 (35)	17.9 (25.4)	2 (4)	1.4 (2.9)	145 (138)
理工学部	125 (127)	25.2 (24.8)	238 (271)	48.0 (52.9)	104 (93)	21.0 (18.2)	29 (21)	5.8 (4.1)	496 (512)
全体	300 (272)	30.5 (27.3)	455 (505)	46.2 (50.8)	185 (184)	18.8 (18.5)	45 (34)	4.6 (3.4)	985 (995)

質問11. グループワークの人数(グループワークを実施しなかった場合はクラスの数)は適切であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	134 (122)	79.8 (70.9)	31 (46)	18.5 (26.7)	3 (2)	1.8 (1.2)	0 (2)	0.0 (1.2)	168 (172)
社会情報学部	54 (44)	62.8 (52.4)	27 (36)	31.4 (42.9)	5 (3)	5.8 (3.6)	0 (1)	0.0 (1.2)	86 (84)
医学部医学科	38 (51)	42.2 (57.3)	45 (33)	50.0 (37.1)	6 (3)	6.7 (3.4)	1 (2)	1.1 (2.2)	90 (89)
医学部保健学科	93 (83)	64.1 (60.1)	46 (52)	31.7 (37.7)	6 (3)	4.1 (2.2)	0 (0)	0.0 (0.0)	145 (138)
理工学部	245 (284)	49.4 (55.6)	209 (195)	42.1 (38.2)	33 (23)	6.7 (4.5)	9 (9)	1.8 (1.8)	496 (511)
全体	564 (584)	57.3 (58.8)	358 (362)	36.3 (36.4)	53 (34)	5.4 (3.4)	10 (14)	1.0 (1.4)	985 (994)

質問12. 学部の専門教育を学ぶために必要な授業内容であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	96 (82)	57.1 (47.7)	57 (71)	33.9 (41.3)	11 (16)	6.5 (9.3)	4 (3)	2.4 (1.7)	168 (172)
社会情報学部	21 (10)	24.4 (11.9)	46 (40)	53.5 (47.6)	16 (30)	18.6 (35.7)	3 (4)	3.5 (4.8)	86 (84)
医学部医学科	25 (37)	27.8 (41.6)	46 (34)	51.1 (38.2)	15 (15)	16.7 (16.9)	4 (3)	4.4 (3.4)	90 (89)
医学部保健学科	42 (36)	29.0 (26.1)	83 (80)	57.2 (58.0)	20 (18)	13.8 (13.0)	0 (4)	0.0 (2.9)	145 (138)
理工学部	174 (147)	35.1 (28.7)	232 (249)	46.8 (48.6)	74 (86)	14.9 (16.8)	16 (30)	3.2 (5.9)	496 (512)
全体	358 (312)	36.3 (31.4)	464 (474)	47.1 (47.6)	136 (165)	13.8 (16.6)	27 (44)	2.7 (4.4)	985 (995)

質問13. 自分はこの授業に積極的に取り組んだ。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	112 (88)	66.7 (51.2)	51 (76)	30.4 (44.2)	3 (7)	1.8 (4.1)	2 (1)	1.2 (0.6)	168 (172)
社会情報学部	40 (18)	46.5 (21.4)	42 (52)	48.8 (61.9)	3 (12)	3.5 (14.3)	1 (2)	1.2 (2.4)	86 (84)
医学部医学科	25 (43)	27.8 (48.3)	58 (38)	64.4 (42.7)	7 (8)	7.8 (9.0)	0 (0)	0.0 (0.0)	90 (89)
医学部保健学科	61 (51)	42.1 (37.0)	73 (73)	50.3 (52.9)	9 (12)	6.2 (8.7)	2 (2)	1.4 (1.4)	145 (138)
理工学部	184 (193)	37.1 (37.7)	250 (239)	50.4 (46.7)	58 (73)	11.7 (14.3)	4 (7)	0.8 (1.4)	496 (512)
全体	422 (393)	42.8 (39.5)	474 (478)	48.1 (48.0)	80 (112)	8.1 (11.3)	9 (12)	0.9 (1.2)	985 (995)

質問14. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	97 (91)	57.7 (52.9)	64 (75)	38.1 (43.6)	5 (6)	3.0 (3.5)	2 (0)	1.2 (0.0)	168 (172)
社会情報学部	39 (29)	45.3 (34.5)	44 (45)	51.2 (53.6)	2 (7)	2.3 (8.3)	1 (3)	1.2 (3.6)	86 (84)
医学部医学科	27 (42)	30.0 (47.2)	56 (39)	62.2 (43.8)	5 (7)	5.6 (7.9)	2 (1)	2.2 (1.1)	90 (89)
医学部保健学科	63 (47)	43.4 (34.1)	76 (79)	52.4 (57.2)	6 (11)	4.1 (8.0)	0 (1)	0.0 (0.7)	145 (138)
理工学部	166 (178)	33.5 (34.8)	291 (286)	58.7 (55.9)	29 (31)	5.8 (6.1)	10 (17)	2.0 (3.3)	496 (512)
全体	392 (387)	39.8 (38.9)	531 (524)	53.9 (52.7)	47 (62)	4.8 (6.2)	15 (22)	1.5 (2.2)	985 (995)

質問15. この授業は教員による一方的な講義ではなく、学生の能動的な学修への参加(例えば、教室内でのグループディスカッション、ディベート、グループ・ワークなど)を取り入れた授業(アクティブ・ラーニング)であった。

区 分	「1」		「2」		合 計
	人数	%	人数	%	人数
教育学部	159 (164)	94.6 (95.3)	9 (8)	5.4 (4.7)	168 (172)
社会情報学部	85 (75)	98.8 (89.3)	1 (9)	1.2 (10.7)	86 (84)
医学部医学科	73 (80)	81.1 (89.9)	17 (9)	18.9 (10.1)	90 (89)
医学部保健学科	142 (126)	97.9 (91.3)	3 (12)	2.1 (8.7)	145 (138)
理工学部	451 (453)	90.9 (88.5)	45 (59)	9.1 (11.5)	496 (512)
全 体	910 (898)	92.4 (90.3)	75 (97)	7.6 (9.7)	985 (995)

※評価基準 1「あてはまる」 2「あてはまらない」

資料2

平成29年度授業評価「学びのリテラシー（2）」集計表

区 分	対象者数	回答者数	回答率 (%)
教育学部	230 (230)	124 (107)	53.9 (46.5)
社会情報学部	113 (98)	75 (72)	66.4 (73.5)
医学部医学科	113 (110)	70 (59)	61.9 (53.6)
医学部保健学科	160 (166)	99 (79)	61.9 (47.6)
理工学部	534 (544)	441 (377)	82.6 (69.3)
合 計	1,150 (1,148)	809 (694)	70.3 (60.5)

※（ ）は昨年度の結果

※評価基準 1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」
(以下 同様)

質問 1. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

区 分	「1」		「2」		「3」		「4」		合 計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	66 (65)	53.2 (60.7)	42 (32)	33.9 (29.9)	12 (7)	9.7 (6.5)	4 (3)	3.2 (2.8)	124 (107)
社会情報学部	30 (40)	40.0 (55.6)	39 (27)	52.0 (37.5)	6 (4)	8.0 (5.6)	0 (1)	0.0 (1.4)	75 (72)
医学部医学科	31 (35)	44.3 (59.3)	29 (19)	41.4 (32.2)	9 (4)	12.9 (6.8)	1 (1)	1.4 (1.7)	70 (59)
医学部保健学科	52 (33)	52.5 (41.8)	42 (42)	42.4 (53.2)	2 (4)	2.0 (5.1)	3 (0)	3.0 (0.0)	99 (79)
理工学部	206 (181)	46.7 (48.0)	193 (164)	43.8 (43.5)	35 (23)	7.9 (6.1)	7 (9)	1.6 (2.4)	441 (377)
全 体	385 (354)	47.6 (51.0)	345 (284)	42.6 (40.9)	64 (42)	7.9 (6.1)	15 (14)	1.9 (2.0)	809 (694)

質問 2. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。

区 分	「1」		「2」		「3」		「4」		合 計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	67 (57)	54.0 (53.3)	51 (44)	41.1 (41.1)	3 (4)	2.4 (3.7)	3 (2)	2.4 (1.9)	124 (107)
社会情報学部	37 (45)	49.3 (62.5)	33 (23)	44.0 (31.9)	5 (3)	6.7 (4.2)	0 (1)	0.0 (1.4)	75 (72)
医学部医学科	39 (29)	55.7 (49.2)	29 (26)	41.4 (44.1)	1 (3)	1.4 (5.1)	1 (1)	1.4 (1.7)	70 (59)
医学部保健学科	53 (42)	53.5 (53.2)	39 (33)	39.4 (41.8)	6 (2)	6.1 (2.5)	1 (2)	1.0 (2.5)	99 (79)
理工学部	234 (200)	53.1 (53.1)	187 (155)	42.4 (41.1)	18 (17)	4.1 (4.5)	2 (5)	0.5 (1.3)	441 (377)
全 体	430 (373)	53.2 (53.7)	339 (281)	41.9 (40.5)	33 (29)	4.1 (4.2)	7 (11)	0.9 (1.6)	809 (694)

質問 3. 教室での討論は活発であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	48 (39)	38.7 (36.4)	38 (31)	30.6 (29.0)	22 (25)	17.7 (23.4)	16 (12)	12.9 (11.2)	124 (107)
社会情報学部	25 (26)	33.3 (36.1)	31 (25)	41.3 (34.7)	13 (17)	17.3 (23.6)	6 (4)	8.0 (5.6)	75 (72)
医学部医学科	20 (23)	28.6 (39.0)	23 (17)	32.9 (28.8)	17 (14)	24.3 (23.7)	10 (5)	14.3 (8.5)	70 (59)
医学部保健学科	25 (20)	25.3 (25.3)	33 (27)	33.3 (34.2)	19 (21)	19.2 (26.6)	22 (11)	22.2 (13.9)	99 (79)
理工学部	152 (144)	34.5 (38.2)	161 (127)	36.5 (33.7)	85 (82)	19.3 (21.8)	43 (24)	9.8 (6.4)	441 (377)
全体	270 (252)	33.4 (36.3)	286 (227)	35.4 (32.7)	156 (159)	19.3 (22.9)	97 (56)	12.0 (8.1)	809 (694)

質問 4. 教員や他の学生とコミュニケーションをとる機会が多かった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	66 (51)	53.2 (47.7)	23 (28)	18.5 (26.2)	25 (20)	20.2 (18.7)	10 (8)	8.1 (7.5)	124 (107)
社会情報学部	36 (39)	48.0 (54.2)	21 (23)	28.0 (31.9)	14 (5)	18.7 (6.9)	4 (5)	5.3 (6.9)	75 (72)
医学部医学科	23 (34)	32.9 (57.6)	25 (12)	35.7 (20.3)	14 (6)	20.0 (10.2)	8 (7)	11.4 (11.9)	70 (59)
医学部保健学科	41 (28)	41.4 (35.4)	28 (23)	28.3 (29.1)	15 (19)	15.2 (24.1)	15 (9)	15.2 (11.4)	99 (79)
理工学部	207 (189)	46.9 (50.1)	145 (109)	32.9 (28.9)	63 (67)	14.3 (17.8)	26 (12)	5.9 (3.2)	441 (377)
全体	373 (341)	46.1 (49.1)	242 (195)	29.9 (28.1)	131 (117)	16.2 (16.9)	63 (41)	7.8 (5.9)	809 (694)

質問 5. この授業で報告の仕方やレポートの書き方を修得できた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	50 (39)	40.3 (36.4)	42 (43)	33.9 (40.2)	20 (18)	16.1 (16.8)	12 (7)	9.7 (6.5)	124 (107)
社会情報学部	18 (18)	24.0 (25.0)	35 (28)	46.7 (38.9)	16 (17)	21.3 (23.6)	6 (9)	8.0 (12.5)	75 (72)
医学部医学科	16 (21)	22.9 (35.6)	34 (20)	48.6 (33.9)	12 (14)	17.1 (23.7)	8 (4)	11.4 (6.8)	70 (59)
医学部保健学科	29 (25)	29.3 (31.6)	40 (33)	40.4 (41.8)	15 (15)	15.2 (19.0)	15 (6)	15.2 (7.6)	99 (79)
理工学部	163 (121)	37.0 (32.1)	173 (157)	39.2 (41.6)	79 (76)	17.9 (20.2)	26 (23)	5.9 (6.1)	441 (377)
全体	276 (224)	34.1 (32.3)	324 (281)	40.0 (40.5)	142 (140)	17.6 (20.2)	67 (49)	8.3 (7.1)	809 (694)

質問 6. 出欠管理、成績評価基準など教員の学生との対応は適切であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	86 (71)	69.4 (66.4)	35 (29)	28.2 (27.1)	2 (5)	1.6 (4.7)	1 (2)	0.8 (1.9)	124 (107)
社会情報学部	43 (46)	57.3 (63.9)	26 (24)	34.7 (33.3)	5 (2)	6.7 (2.8)	1 (0)	1.3 (0.0)	75 (72)
医学部医学科	37 (35)	52.9 (59.3)	29 (22)	41.4 (37.3)	2 (2)	2.9 (3.4)	2 (0)	2.9 (0.0)	70 (59)
医学部保健学科	61 (48)	61.6 (60.8)	34 (28)	34.3 (35.4)	4 (3)	4.0 (3.8)	0 (0)	0.0 (0.0)	99 (79)
理工学部	274 (225)	62.1 (59.7)	146 (133)	33.1 (35.3)	19 (16)	4.3 (4.2)	2 (3)	0.5 (0.8)	441 (377)
全体	501 (425)	61.9 (61.2)	270 (236)	33.4 (34.0)	32 (28)	4.0 (4.0)	6 (5)	0.7 (0.7)	809 (694)

質問 7. 希望した科目を選ぶことができた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	50 (64)	40.3 (59.8)	37 (28)	29.8 (26.2)	24 (10)	19.4 (9.3)	13 (5)	10.5 (4.7)	124 (107)
社会情報学部	28 (43)	37.3 (59.7)	28 (17)	37.3 (23.6)	13 (8)	17.3 (11.1)	6 (4)	8.0 (5.6)	75 (72)
医学部医学科	27 (37)	38.6 (62.7)	28 (15)	40.0 (25.4)	8 (6)	11.4 (10.2)	7 (1)	10.0 (1.7)	70 (59)
医学部保健学科	47 (44)	47.5 (55.7)	38 (25)	38.4 (31.6)	9 (7)	9.1 (8.9)	5 (3)	5.1 (3.8)	99 (79)
理工学部	179 (203)	40.6 (53.8)	155 (115)	35.1 (30.5)	79 (32)	17.9 (8.5)	28 (27)	6.3 (7.2)	441 (377)
全体	331 (391)	40.9 (56.3)	286 (200)	35.4 (28.8)	133 (63)	16.4 (9.1)	59 (40)	7.3 (5.8)	809 (694)

質問 8. クラスの人数は適切であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	93 (81)	75.0 (75.7)	26 (21)	21.0 (19.6)	4 (4)	3.2 (3.7)	1 (1)	0.8 (0.9)	124 (107)
社会情報学部	53 (52)	70.7 (72.2)	22 (16)	29.3 (22.2)	0 (3)	0.0 (4.2)	0 (1)	0.0 (1.4)	75 (72)
医学部医学科	40 (42)	57.1 (71.2)	24 (14)	34.3 (23.7)	4 (2)	5.7 (3.4)	2 (1)	2.9 (1.7)	70 (59)
医学部保健学科	76 (57)	76.8 (72.2)	19 (21)	19.2 (26.6)	3 (1)	3.0 (1.3)	1 (0)	1.0 (0.0)	99 (79)
理工学部	283 (268)	64.2 (71.1)	145 (95)	32.9 (25.2)	11 (12)	2.5 (3.2)	2 (2)	0.5 (0.5)	441 (377)
全体	545 (500)	67.4 (72.0)	236 (167)	29.2 (24.1)	22 (22)	2.7 (3.2)	6 (5)	0.7 (0.7)	809 (694)

質問 9. 教室の環境は適切であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	79 (63)	63.7 (58.9)	32 (35)	25.8 (32.7)	9 (5)	7.3 (4.7)	4 (4)	3.2 (3.7)	124 (107)
社会情報学部	44 (49)	58.7 (68.1)	25 (15)	33.3 (20.8)	4 (7)	5.3 (9.7)	2 (1)	2.7 (1.4)	75 (72)
医学部医学科	37 (34)	52.9 (57.6)	25 (18)	35.7 (30.5)	7 (5)	10.0 (8.5)	1 (2)	1.4 (3.4)	70 (59)
医学部保健学科	65 (43)	65.7 (54.4)	29 (30)	29.3 (38.0)	4 (6)	4.0 (7.6)	1 (0)	1.0 (0.0)	99 (79)
理工学部	261 (228)	59.2 (60.5)	140 (122)	31.7 (32.4)	32 (20)	7.3 (5.3)	8 (7)	1.8 (1.9)	441 (377)
全体	486 (417)	60.1 (60.1)	251 (220)	31.0 (31.7)	56 (43)	6.9 (6.2)	16 (14)	2.0 (2.0)	809 (694)

質問 10. この授業は教員による一方向的な講義ではなく、学生の能動的な学修への参加（例えば、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなど）を取り入れた授業（アクティブ・ラーニング）であった。

区分	「1」		「2」		合計
	人数	%	人数	%	人数
教育学部	99 (86)	79.8 (80.4)	25 (21)	20.2 (19.6)	124 (107)
社会情報学部	64 (61)	85.3 (84.7)	11 (11)	14.7 (15.3)	75 (72)
医学部医学科	52 (47)	74.3 (79.7)	18 (12)	25.7 (20.3)	70 (59)
医学部保健学科	71 (56)	71.7 (70.9)	28 (23)	28.3 (29.1)	99 (79)
理工学部	362 (310)	82.1 (82.2)	79 (67)	17.9 (17.8)	441 (377)
全体	648 (560)	80.1 (80.7)	161 (134)	19.9 (19.3)	809 (694)

※評価基準 1「あてはまる」 2「あてはまらない」

資料3

3. 平成29年度授業評価「情報」集計表

区分	対象者数	提出者数	回収率(%)
教育学部	231 (233)	150 (138)	64.9 (59.2)
社会情報学部	112 (104)	89 (85)	79.5 (81.7)
医学部医学科	109 (109)	98 (90)	89.9 (82.6)
医学部保健学科	161 (166)	99 (78)	61.5 (47.0)
理工学部	536 (544)	503 (506)	93.8 (93.0)
合計	1,149 (1156)	939 (897)	81.7 (77.6)

※ ()は昨年度の結果

※評価基準 1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」(以下 同様)

あなたが本年度受講した「情報」の授業についてお尋ねします。

質問 1. コンピュータやインターネットの基礎知識を修得できた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	87 (72)	58.0 (52.2)	57 (64)	38.0 (46.4)	6 (1)	4.0 (0.7)	0 (1)	0.0 (0.7)	150 (138)
社会情報学部	37 (25)	41.6 (29.4)	43 (53)	48.3 (62.4)	9 (4)	10.1 (4.7)	0 (3)	0.0 (3.5)	89 (85)
医学部医学科	27 (24)	27.6 (26.7)	62 (44)	63.3 (48.9)	9 (16)	9.2 (17.8)	0 (6)	0.0 (6.7)	98 (90)
医学部保健学科	49 (45)	49.5 (57.7)	44 (30)	44.4 (38.5)	6 (3)	6.1 (3.8)	0 (0)	0.0 (0.0)	99 (78)
理工学部	213 (248)	42.3 (49.0)	244 (225)	48.5 (44.5)	35 (22)	7.0 (4.3)	11 (11)	2.2 (2.2)	503 (506)
全体	413 (414)	44.0 (46.2)	450 (416)	47.9 (46.4)	65 (46)	6.9 (5.1)	11 (21)	1.2 (2.3)	939 (897)

質問 2. コンピュータの活用能力を高めることができた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	79 (71)	52.7 (51.4)	60 (61)	40.0 (44.2)	8 (3)	5.3 (2.2)	3 (3)	2.0 (2.2)	150 (138)
社会情報学部	45 (30)	50.6 (35.3)	40 (51)	44.9 (60.0)	4 (2)	4.5 (2.4)	0 (2)	0.0 (2.4)	89 (85)
医学部医学科	31 (29)	31.6 (32.2)	58 (40)	59.2 (44.4)	9 (16)	9.2 (17.8)	0 (5)	0.0 (5.6)	98 (90)
医学部保健学科	53 (35)	53.5 (44.9)	37 (39)	37.4 (50.0)	8 (4)	8.1 (5.1)	1 (0)	1.0 (0.0)	99 (78)
理工学部	231 (242)	45.9 (47.8)	221 (227)	43.9 (44.9)	37 (24)	7.4 (4.7)	14 (13)	2.8 (2.6)	503 (506)
全体	439 (407)	46.8 (45.4)	416 (418)	44.3 (46.6)	66 (49)	7.0 (5.5)	18 (23)	1.9 (2.6)	939 (897)

質問 3. 情報倫理に関する知識・態度を身につけることができた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
教育学部	81 (65)	54.0 (47.1)	62 (67)	41.3 (48.6)	7 (6)	4.7 (4.3)	0 (0)	0.0 (0.0)	150 (138)
社会情報学部	35 (25)	39.3 (29.4)	45 (49)	50.6 (57.6)	9 (9)	10.1 (10.6)	0 (2)	0.0 (2.4)	89 (85)
医学部医学科	34 (33)	34.7 (36.7)	54 (45)	55.1 (50.0)	9 (10)	9.2 (11.1)	1 (2)	1.0 (2.2)	98 (90)
医学部保健学科	42 (30)	42.4 (38.5)	48 (39)	48.5 (50.0)	8 (9)	8.1 (11.5)	1 (0)	1.0 (0.0)	99 (78)
理工学部	192 (190)	38.2 (37.5)	262 (262)	52.1 (51.8)	41 (43)	8.2 (8.5)	8 (11)	1.6 (2.2)	503 (506)
全体	384 (343)	40.9 (38.2)	471 (462)	50.2 (51.5)	74 (77)	7.9 (8.6)	10 (15)	1.1 (1.7)	939 (897)

質問 4. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
教育学部	48 (43)	32.0 (31.2)	73 (79)	48.7 (57.2)	24 (14)	16.0 (10.1)	5 (2)	3.3 (1.4)	150 (138)
社会情報学部	18 (6)	20.2 (7.1)	40 (31)	44.9 (36.5)	24 (34)	27.0 (40.0)	7 (14)	7.9 (16.5)	89 (85)
医学部医学科	18 (19)	18.4 (21.1)	45 (22)	45.9 (24.4)	31 (34)	31.6 (37.8)	4 (15)	4.1 (16.7)	98 (90)
医学部保健学科	24 (16)	24.2 (20.5)	50 (48)	50.5 (61.5)	19 (11)	19.2 (14.1)	6 (3)	6.1 (3.8)	99 (78)
理工学部	157 (136)	31.2 (26.9)	226 (245)	44.9 (48.4)	92 (98)	18.3 (19.4)	28 (27)	5.6 (5.3)	503 (506)
全体	265 (220)	28.2 (24.5)	434 (425)	46.2 (47.4)	190 (191)	20.2 (21.3)	50 (61)	5.3 (6.8)	939 (897)

質問 5. シラバスの記述は、授業の進行に沿った適切なものであった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
教育学部	67 (53)	44.7 (38.4)	74 (79)	49.3 (57.2)	7 (6)	4.7 (4.3)	2 (0)	1.3 (0.0)	150 (138)
社会情報学部	33 (26)	37.1 (30.6)	51 (49)	57.3 (57.6)	4 (6)	4.5 (7.1)	1 (4)	1.1 (4.7)	89 (85)
医学部医学科	27 (33)	27.6 (36.7)	65 (45)	66.3 (50.0)	5 (11)	5.1 (12.2)	1 (1)	1.0 (1.1)	98 (90)
医学部保健学科	51 (33)	51.5 (42.3)	41 (45)	41.4 (57.7)	5 (0)	5.1 (0.0)	2 (0)	2.0 (0.0)	99 (78)
理工学部	182 (225)	36.2 (44.5)	271 (239)	53.9 (47.2)	40 (32)	8.0 (6.3)	10 (10)	2.0 (2.0)	503 (506)
全体	360 (370)	38.3 (41.2)	502 (457)	53.5 (50.9)	61 (55)	6.5 (6.1)	16 (15)	1.7 (1.7)	939 (897)

質問 6. 教員やTAの教え方は、よく配慮されており適切なものであった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
教育学部	53 (56)	35.3 (40.6)	70 (69)	46.7 (50.0)	23 (12)	15.3 (8.7)	4 (1)	2.7 (0.7)	150 (138)
社会情報学部	12 (6)	13.5 (7.1)	49 (26)	55.1 (30.6)	26 (33)	29.2 (38.8)	2 (20)	2.2 (23.5)	89 (85)
医学部医学科	26 (20)	26.5 (22.2)	50 (44)	51.0 (48.9)	21 (23)	21.4 (25.6)	1 (3)	1.0 (3.3)	98 (90)
医学部保健学科	34 (25)	34.3 (32.1)	45 (37)	45.5 (47.4)	16 (11)	16.2 (14.1)	4 (5)	4.0 (6.4)	99 (78)
理工学部	155 (158)	30.8 (31.2)	238 (230)	47.3 (45.5)	77 (82)	15.3 (16.2)	33 (36)	6.6 (7.1)	503 (506)
全体	280 (265)	29.8 (29.5)	452 (406)	48.1 (45.3)	163 (161)	17.4 (17.9)	44 (65)	4.7 (7.2)	939 (897)

質問 7. 出欠管理、成績評価基準など教員の学生への対応は適切であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	72 (54)	48.0 (39.1)	62 (65)	41.3 (47.1)	15 (15)	10.0 (10.9)	1 (4)	0.7 (2.9)	150 (138)
社会情報学部	38 (17)	42.7 (20.0)	43 (41)	48.3 (48.2)	7 (14)	7.9 (16.5)	1 (13)	1.1 (15.3)	89 (85)
医学部医学科	39 (36)	39.8 (40.0)	53 (43)	54.1 (47.8)	6 (8)	6.1 (8.9)	0 (3)	0.0 (3.3)	98 (90)
医学部保健学科	56 (41)	56.6 (52.6)	38 (34)	38.4 (43.6)	5 (3)	5.1 (3.8)	0 (0)	0.0 (0.0)	99 (78)
理工学部	187 (199)	37.2 (39.3)	247 (250)	49.1 (49.4)	52 (44)	10.3 (8.7)	17 (13)	3.4 (2.6)	503 (506)
全体	392 (347)	41.7 (38.7)	443 (433)	47.2 (48.3)	85 (84)	9.1 (9.4)	19 (33)	2.0 (3.7)	939 (897)

質問 8. クラスの人数は適切であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	100 (74)	66.7 (53.6)	49 (52)	32.7 (37.7)	0 (11)	0.0 (8.0)	1 (1)	0.7 (0.7)	150 (138)
社会情報学部	46 (29)	51.7 (34.1)	37 (44)	41.6 (51.8)	6 (11)	6.7 (12.9)	0 (1)	0.0 (1.2)	89 (85)
医学部医学科	48 (46)	49.0 (51.1)	43 (38)	43.9 (42.2)	5 (6)	5.1 (6.7)	2 (0)	2.0 (0.0)	98 (90)
医学部保健学科	75 (54)	75.8 (69.2)	19 (24)	19.2 (30.8)	5 (0)	5.1 (0.0)	0 (0)	0.0 (0.0)	99 (78)
理工学部	233 (269)	46.3 (53.2)	214 (183)	42.5 (36.2)	46 (42)	9.1 (8.3)	10 (12)	2.0 (2.4)	503 (506)
全体	502 (472)	53.5 (52.6)	362 (341)	38.6 (38.0)	62 (70)	6.6 (7.8)	13 (14)	1.4 (1.6)	939 (897)

質問 9. 教室の環境は適切であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	95 (74)	63.3 (53.6)	50 (58)	33.3 (42.0)	4 (5)	2.7 (3.6)	1 (1)	0.7 (0.7)	150 (138)
社会情報学部	43 (24)	48.3 (28.2)	34 (42)	38.2 (49.4)	11 (17)	12.4 (20.0)	1 (2)	1.1 (2.4)	89 (85)
医学部医学科	51 (58)	52.0 (64.4)	37 (28)	37.8 (31.1)	8 (3)	8.2 (3.3)	2 (1)	2.0 (1.1)	98 (90)
医学部保健学科	72 (53)	72.7 (67.9)	26 (23)	26.3 (29.5)	1 (2)	1.0 (2.6)	0 (0)	0.0 (0.0)	99 (78)
理工学部	220 (256)	43.7 (50.6)	224 (201)	44.5 (39.7)	48 (36)	9.5 (7.1)	11 (13)	2.2 (2.6)	503 (506)
全体	481 (465)	51.2 (51.8)	371 (352)	39.5 (39.2)	72 (63)	7.7 (7.0)	15 (17)	1.6 (1.9)	939 (897)

質問10.もっと高度な内容を学びたかった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	19 (17)	12.7 (12.3)	33 (28)	22.0 (20.3)	61 (66)	40.7 (47.8)	37 (27)	24.7 (19.6)	150 (138)
社会情報学部	8 (4)	9.0 (4.7)	21 (16)	23.6 (18.8)	41 (47)	46.1 (55.3)	19 (18)	21.3 (21.2)	89 (85)
医学部医学科	10 (8)	10.2 (8.9)	17 (9)	17.3 (10.0)	47 (45)	48.0 (50.0)	24 (28)	24.5 (31.1)	98 (90)
医学部保健学科	11 (4)	11.1 (5.1)	17 (13)	17.2 (16.7)	46 (37)	46.5 (47.4)	25 (24)	25.3 (30.8)	99 (78)
理工学部	106 (80)	21.1 (15.8)	172 (137)	34.2 (27.1)	171 (216)	34.0 (42.7)	54 (73)	10.7 (14.4)	503 (506)
全体	154 (113)	16.4 (12.6)	260 (203)	27.7 (22.6)	366 (411)	39.0 (45.8)	159 (170)	16.9 (19.0)	939 (897)

資料4

平成29年度ベストティーチャー賞行事予定

主 催：大学教育センター

1. 日 時：平成30年9月14日（金）9：30～11：50
2. 場 所：大学会館ミュージズホールほか（荒牧キャンパス）
3. 日 程
 - (1) 公開模擬授業（9：30～11：05）
 - 場所：ミュージズホール
 - 司会：（大学教育センター教育推進部会長）
 - 1－1 開会
 - 1－2 挨拶・趣旨説明（教育・企画担当理事）
 - 1－3 模擬授業 最優秀賞候補者3人

 - 9：35－10：05 高木 理（社会情報学部 社会情報学講座 准教授）
 - 10：05－10：35 田沼 一実（理工学府 理工学基盤部門 教授）
 - 10：35－11：05 岩瀧 大樹（教育学部附属学校教育臨床総合センター 准教授）

 - 1－4 閉会
 - (2) 審査委員会の開催（11：10～11：30）
 - 場所：大学会館3階会議室
 - 議長：平塚浩士 学長（審査委員会委員長）
 - 2－1 審議（審査委員会／学長，理事，学部長等）
 - (3) ベストティーチャー賞授与式（11：35～11：50）
 - 場所：ミュージズホール
 - 進行：（教育・企画担当理事）
 - 3－1 開式
 - 3－2 審査結果，学長挨拶
 - 3－3 表彰状・副賞授与
 - 3－4 受賞者代表挨拶
 - 3－5 閉式
 - 3－6 記念撮影
 - (4) その他
新採用教員は，FDの一環として公開模擬授業へ参加するものとする。

資料5

平成29年度 ベストティーチャー賞受賞候補者一覧

推薦学部等	氏名	ふりがな	所属	最優秀賞 候補者 ※印の者
教育学部	栗原 淳一	くりはら じゅんいち	教育学部 理科教育講座 准教授	
	郡司 明子	ぐんじ あきこ	教育学部 美術教育講座 准教授	
社会情報学部	高木 理	たかき おさむ	社会情報学部 社会情報学講座 准教授	※
医学部医学科	谷本 弘一	たにもと こういち	医学系研究科附属薬剤耐性菌実験施設 准教授	
医学部保健学科	山崎 恆夫	やまざき つねお	保健学研究科 作業療法学専攻 教授	
理工学部	田沼 一実	たぬま かずみ	理工学府 理工学基盤部門 教授	※
	荒木 幹也	あらき みきや	理工学府 知能機械創生部門 准教授	
	飛田 成史	とびた せいじ	理工学府 分子科学部門 教授	
大学教育・ 学生支援機構	岩瀧 大樹	いわたき だいじゅ	教育学部 附属学校教育臨床総合センター 准教授	※
	金澤 貴之	かなざわ たかゆき	教育学部 障害児教育講座 教授	
	小谷 英生	こたに ひでお	教育学部 社会科教育講座 准教授	

第9回全学FD連続講演会

「大学教育のグランドデザイン」の開催について

この全学FD連続講演会は、平成21年度から毎年開催しているものです。

今回は、聖心女子大学文学部准教授 杉原真晃 氏及び日本工業大学工学部准教授 河住有希子 氏をお招きして学生主体型授業の導入についてご講演いただきます。

全学FD・SDの一環として開催しますので、ぜひ参加してください。

記

日 時 平成29年11月27日（月）14時20分～15時50分

場 所 群馬大学事務局棟5階 大会議室（荒牧キャンパス）

テーマ 「学生主体型授業の導入 ―自主的な学びを超えて―

学生の主体性を育成するためにはどうすればよいでしょうか。「主体的」とは自分の意志や判断に基づいて、自らすべきことを考えて行動することであって、他人からの指示を待たずあらかじめ定められたことを行う「自主的」とは異なります。しかし、教職員が学生に対して主体的になることを促すというのは、そもそも矛盾した行為であります。このパラドクスをどのように解決するのかについて、お話しを伺います。

講 師 聖心女子大学文学部 准教授 杉原真晃 氏
日本工業大学工学部 准教授 河住有希子 氏

日 程 14:20 開会挨拶 理事(教育・企画担当) 窪田健二
14:25～14:55 講 演 聖心女子大学文学部 杉原真晃 准教授
14:55～15:25 講 演 日本工業大学工学部 河住有希子 准教授
15:25～15:50 質疑応答
15:50 閉会挨拶 大学教育センター教育推進部会長 坂本雅昭

(司 会：大学教育センター教育推進部会長 坂本雅昭)

主催：大学教育・学生支援機構 大学教育センター

3 学生支援センター

学生支援センターは、学生生活及び就職活動に対する支援、修学に係る相談等を行っている。運営に当たり委員会を置き、各学部等から委員が選出されている。審議内容等は、学生相談、生活支援及び就職支援等である。当該支援業務の事務は、学生支援課が各学部の学生支援担当係と連携を図り行っている。平成29年度の主な支援等の事項は、次のとおりである。

3.1 入学料免除及び徴収猶予

入学料について、学部生においては、特別な事情（学資負担者が1年以内に死亡又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合をいう。）により納入が著しく困難な場合について、また、大学院生、専攻科生においては、経済的理由により納入が困難、かつ、学業優秀と認められる場合又は特別な事情により納入が著しく困難な場合について、修学を支援するため、免除及び徴収猶予を行っている。

また、東日本大震災により罹災したことに伴う経済的理由により納入が著しく困難な場合について、免除を行っている。

3.1.1 免除申請者数、免除者数

平成29年度入学料免除申請者数、免除者数は、次のとおりである（詳細は資料3-1-1のとおり）。

4月1日入学：免除申請者数 107人、免除者数 88人
10月1日入学：免除申請者数 19人、免除者数 19人

3.1.2 徴収猶予申請者数、徴収猶予者数

平成29年度入学料徴収猶予申請者数、徴収猶予者数は、次のとおりである（詳細は資料3-1-2のとおり）。

4月1日入学：徴収猶予申請者数 15人、徴収猶予者数 9人
10月1日入学：徴収猶予申請者数 0人、徴収猶予者数 0人

3.2 授業料免除及び徴収猶予

経済的理由により納入が困難、かつ、学業優秀と認められる学生又は特別な事情（学資負担者が納入期限の6ヶ月以内（入学者については、入学前1年以内。）に死亡又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合をいう。）により納入が著しく困難な場合について、修学を支援するため、免除及び徴収猶予を行っている。

また、東日本大震災により罹災したことに伴う経済的理由により納入が著しく困難な場合について、又は学部生及び大学院（修士課程、博士前期課程及び専門職学位課程）に在籍する、成績が特に優秀な学生を対象として、免除を行っている。

3.2.1 免除申請者数、免除者数

平成29年度授業料免除申請者数、免除者数は、次のとおりである（詳細は資料3-2-1のとおり）。

前期：免除申請者数 684人、免除者数 598人
後期：免除申請者数 758人、免除者数 680人

3.2.2 徴収猶予申請者数、徴収猶予者数

平成29年度授業料徴収猶予申請者、徴収猶予者数は、次のとおりである（詳細は資料3-2-2

のとおり)。

前期：徴収猶予申請者数 0人，徴収猶予者数 0人

後期：徴収猶予申請者数 0人，徴収猶予者数 0人

3.3 寄宿料免除

本学では、学生本人又は学資負担者が風水害等の災害を受け、納入が著しく困難と認められる場合、免除を行っている。

3.3.1 免除申請者数，免除者数

平成29年度寄宿料免除申請者数，免除者数は，次のとおりである。

免除申請者数 0人，免除者数 0人

3.4 奨学金

本学では、日本学生支援機構の奨学金と地方公共団体や民間奨学団体から本学に募集依頼のあった奨学金を扱っている。これらの奨学金は、いずれも学業・人物ともに優秀であり、かつ健康であって経済的理由により学資の支弁が困難であると認められた者が対象となる。

なお、日本学生支援機構の奨学金には、無利子貸与の第一種奨学金と有利子貸与の第二種奨学金があり、いずれも貸与終了後には、返還が必要となる。

3.4.1 日本学生支援機構奨学生数（平成29年10月1日現在）

第一種：学部生 1,012人，大学院生 280人

第二種：学部生 859人，大学院生 23人

（詳細は資料34-1のとおり：「学部生」には、専攻科生を含む。）

3.4.2 日本学生支援機構以外の奨学生数（平成29年10月1日現在）

学部生 83人，大学院生 17人

（「学部生」には、専攻科生を含む。人数は、延べ人数でカウント。）

3.5 学生相談体制及び学生相談

本学は、次のような学生相談体制を設け、学生の個人的な問題や悩みごとについての相談に応じている。

3.5.1 学生相談体制

全学の学生を対象に荒牧キャンパスに学生相談室を、また、理工学部の学生を対象に桐生キャンパスに学生相談室分室を設けて相談に応じている。

3.5.2 主な相談事項

主な相談事項は、勉学・進路・就職活動，メンタルヘルス，クラブ・サークル活動，経済的事情・アルバイト，対人関係についてなどである。

3.5.3 学生相談実態調査アンケートの実施及び活用

平成29年12月に助教以上の専任教員に対して、平成29年1月1日から平成29年12月31日までの間に学生から相談のあった内容や各教員の対応について「学生相談実態調査アンケート」を実施し、回収率は48.10%であった。

なお、各教員が個々の相談事例にどのように対処したのかの内容を報告書にまとめ、全教員に配付し学生指導に活用している。

3.6 授業欠席状況調査

欠席状況調査は、授業への受講状況を通して本学学生の学業意欲を調査し、精神面の障害や不健康状態にある者を早期に発見して、面談等により本人へ適切な指導を与えることを目的としている。

3.6.1 授業欠席者数及び主な欠席理由

平成29年度前期欠席者数：13名（詳細は資料3-6-1のとおり）

主な欠席理由：早朝に授業があるため寝坊、精神的な悩み、身体的病気怪我、進路の迷い等

平成29年度後期欠席者数：29名（詳細は資料3-6-1のとおり）

主な欠席理由：早朝に授業があるため寝坊、精神的な悩み、身体的病気怪我、進路の迷い等

3.6.2 実施方法、時期

1) 実施方法

- ・実施時期は、5月（前期）と11月（後期）の年2回を実施基準月とする。
- ・調査対象は、卒業研究に着手(研究室に所属)しない学部全学生とする。
- ・調査科目は、各学部が指定した科目とする。
ただし、1年次は、学部の依頼により大学教育センターが指定した授業科目とする。
- ・調査方法は、調査科目について連続4回の出欠チェックを行う。
- ・集計作業は、各学部担当事務（1年次生は学務部）が行う。
- ・4回のチェックのうち3回以上欠席した者をクラス担任別に集計する。
- ・クラス担任別集計に基づき面接対象一覧と個人ごとの面接票を作成する。
- ・面接票には学籍番号、所属、氏名、住所、電話番号等を記載する。
- ・学部長名（1年次生は学生相談・生活部会長名）で面接対象一覧と面接票を添えて、クラス担任等に対して欠席者の事情聴取を期限内に終了するよう依頼する。

2) クラス担任による欠席者の事情聴取

- ・調査方法は、クラス担任等が対象者を呼び出し、直接面談により欠席理由等を聴取する。
- ・面談により適切な指導を行い、かつ、精神科医の面談の要否を判断し、その内容を面接票に記載して、その都度学部長（1年次生は学務部）に提出する。

3) 医師による欠席者との面談

クラス担任等から学部長（1年次生は学務部）に提出された面接票を健康支援総合センター医師に回付し、医師が指導の必要があると判断した欠席者と面談を行い、必要なカウンセリング等を行う。

3.7 障害学生への支援

障害のある学生がその能力並びに障害の種別及び程度に応じ、十分な教育を受け、学生生活を送ることができるよう、大学教育・学生支援機構学生支援センターに、障害学生支援室を設置している。

3.7.1 障害学生数

平成29年度に障害学生支援室が障害のある学生と認定し、修学支援の対象となっている学

生は15名（聴覚障害者6名，肢体不自由者3名，内部障害者0名，発達障害・メンタルヘルス不調者6名）である。

3.7.2 支援内容

群馬大学障害学生修学支援実施要項に基づく修学支援の必要な学生には，個別に障害の種類及び程度に応じた支援内容を明記した「配慮願い」を授業担当教員へ通知している。また，全教員に対して「障害学生支援での一般的な配慮事項」を配付して周知を図っている。

聴覚障害学生には，授業ごとに必要に応じてFM補聴器の貸し出しや，パソコンテイクと手話通訳による支援等を行い，肢体不自由学生には，休憩室の設置，車椅子対応の施設整備，低身長者のための踏み台の設置，介助者による移動介助などの支援を行い，内部障害学生には，講義中のトイレ退席等の配慮，また，発達障害学生には，休憩室の設置，健康支援総合センター医師による面談，履修相談などの支援を行っている。

3.8 学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険

学生教育研究災害傷害保険は，学生が正課，学校行事，学校施設内外における課外活動，学校施設内，通学，学校施設等相互間の移動時に係る全ての傷害に対して補償を行う保険である。

学研災付帯賠償責任保険は，学生が正課，学校行事，インターンシップ，介護等体験活動，教育実習，ボランティア活動等及びその移動時に，他人にけがを負わせたり，他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償する保険である。

本学では，教育研究の円滑な実施のために，入学の際に当該保険に全員が加入することを勧めている。

3.8.1 加入者数

平成29年度の学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険の加入者数は，資料3-8-1のとおりである。

3.8.2 請求種別保険金請求件数

平成29年度の学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険の請求種別保険金請求件数は，資料3-8-2のとおりである。

3.9 通学証明書，旅客運賃割引証

通学証明書は，学生がJR，私鉄，バス等の通学定期券を購入する際に必要となる証明書である。学生旅客運賃割引証は，学生の修学上の経済的負担軽減と学校教育の振興に寄与することを目的としている制度で，片道乗車区間の距離100kmを超える区間を乗車する際に使用することができる。

通学証明書及び学生旅客運賃割引証発行業務については，荒牧地区，昭和地区，桐生地区及び太田地区で証明書自動発行機にて行っている。

3.9.1 発行枚数及び主な発行理由

平成29年度の通学証明書及び学生旅客運賃割引証の発行枚数等は，資料3-9-1のとおりである。

3.10 学生寮

本学には、前橋地区に養心寮、桐生地区に啓真寮の2寮がある。

学生寮は、学生が修学にふさわしい環境において勉学を継続するための住居施設として設けられている。

3.10.1 養心寮入寮者数

平成29年度の養心寮入寮者数（定員は男子74人、女子62人、合計136人、寄宿料月額4,300円）は、延入居者数が1,586人で、入居率は97.2%である。なお、男子部屋数は77室であるが、入居不可室が3室あるため、74室を定員とした。

3.10.2 啓真寮入寮者数

平成29年度の啓真寮入寮者数（定員は男子65人、女子24人、合計89人、寄宿料月額 ワンルーム型25,000円、シェア型15,000円）は、延入居者数が699人で、入居率は65.4%である。

3.11 生活支援施設

本学では、学生生活の利便性を確保し、経済面の支援を図るために荒牧地区、昭和地区及び桐生地区にそれぞれ食堂・売店等を設けており、群馬大学生生活協同組合に委託している。

食堂では食事及び懇親会等を、売店では、書籍、日用品、旅行鞆等を市価より安く提供している。

3.11.1 食堂

事項・地区	荒牧地区	昭和地区	桐生地区
座席数	447席 (ホール内405席, 外42席)	286席 (ホール内264席, 外22席)	558席 (ホール内438席, 外20席, 桐園100席)
営業時間	11:00～14:00 17:30～19:30	11:00～14:00	11:00～14:00 17:30～19:30 桐園 11:00～14:00
年間営業日数	240日	235日	241日
年間利用者数	107,064人	43,319人	125,355人
提供メニュー数	40以上	20以上	40以上

3.11.2 売店

事項・地区	荒牧地区	昭和地区	桐生地区
営業時間	9:30～18:00	8:30～18:00	9:30～18:00
年間営業日数	237日	235日	239日
年間利用者数	157,803人	120,123人	148,350人

3.12 課外活動施設

本学には、荒牧、昭和、桐生の各キャンパスに各種の課外活動施設があり、体育の授業の他、学生の利用に供している。その主な施設については、次のような施設仕様、使用等状況である。

3.12.1 体育施設

○荒牧キャンパス

陸上競技場

陸上競技場は、400メートルトラックである。陸上競技部が主として使用している。

また、トラック内のインフィールドも、やり投げ等の陸上種目の他、多目的な軽スポーツ実施の場として使用している。

サッカー・ラグビー場

サッカー・ラグビー場は、サッカー又はラグビーの公式試合が可能な面積を持っており、サッカー、ラグビー及びフットサル用のゴールが設置してある。なお、サッカー・ラグビー場には、夜間照明も設置してある。サッカー部、ラグビー部、アメリカンフットボール部及びフットサルサークルが主として使用している。

テニスコート

テニスコートは、硬式専用コート3面、軟式専用コート3面（いずれもクレーコート）、全天候型コート2面（オムニコート）、両用コート1面（クレーコート（ゴルフ練習施設併設））の9コートがあり、硬式テニス部やソフトテニス部が主として使用している。

なお、オムニコートは夜間照明が設置してあり、人工芝のため雨上がりにすぐ使えることもあるため、人気が非常に高い。その反面、人工芝の消耗も激しく、修繕費がかかるのが難点となっている。

野球場

野球場は、天然芝で、夜間照明も設置してある。準硬式野球部、硬式野球部、軟式野球サークルアウِيل及び医学部準硬式野球部が主に使用している。

プール

プールは、50メートル8コースで、6月～8月に使用している。水泳部が主として使用している。

第1体育館

第1体育館は、主としてバレーボール、バスケットボールなどにより使用し、それぞれ2面使用可能である。バレーボール部、バスケットボール部が主として使用している。

第2体育館

第2体育館は、主としてバドミントン、卓球、体操競技、ダンスなどにより使用している。なお、ダンス用の広い面積の鏡や、体操での安全確保用のウレタンを敷き詰めたピットも設けている。バドミントン部、卓球部、体操部、ダンス部が主として使用している。なお、第1体育館、第2体育館の間にトレーニングルームが併設されている。

武道場

武道場は、剣道用の床面が1面、柔道用の畳面が1面の計2面があり、各種武道で使用する他、畳面にレスリング用マットを敷き詰めてレスリングをすることも可能である。剣道部、柔道部、空手道部、少林寺拳法部が主として使用している。

弓道場

弓道場は、平成22年度に新営され、公式試合が可能となった。弓道部が主として使用している。

馬場

馬場は、馬術部が使用している。乗馬して練習すると表面が荒れるため、馬術部学生が馬場の部室に常駐（授業時間及び深夜を除く）し、馬の飼育と馬場の管理を行っている。なお、飼育している馬は馬術部の所有であり、その餌代は学生が拠出している。

○昭和キャンパス

体育館

体育館は、バレーボール・バスケットボール・バドミントンなどの球技で使用するアリーナと、剣道場・柔道場各1面の武道場があり、武道場の2階は卓球場となっている。

昭和地区では体育の正課授業がないため、学生の課外活動用として、バレーボール部、バスケットボール部、バドミントン部、剣道部、柔道部、卓球部が主に使用している。

弓道場

弓道場は敷地面積が狭隘であるため、荒牧地区と比べると射場の幅は狭くなっている。弓道部が主として使用している。

○桐生キャンパス

菱グラウンド（サッカー・ラグビー場、野球場）

サッカー・ラグビー場は、サッカー及びラグビー用のゴールが設置してあり、サッカー部、ラグビー部及びフットサルサークルが主として使用している。野球場は、天然芝で、硬式野球部が主として使用している。

テニスコート

テニスコートは全天候型コート（オムニコート）が3面あり、硬式テニス部、ソフトテニス部が主に使用している。

なお、夜間照明が設置してあり、人工芝のため雨上がりにすぐ使えることもあるため、人気が非常に高い。その反面人工芝の消耗も激しく、修繕費がかかるのが難点となっている。

プール

プールは、25メートル7コースで、6月～8月まで使用している。水泳部が主として使用している。

体育館

体育館は、1階には剣道用の床面が1面、柔道用の畳面が1面の計2面があり、各種武道で使用している。剣道部、柔道部、空手道部、少林寺拳法部、ダンスサークル、八木節同好会が主として使用している。また、トレーニングルームも併設されている。2階は主として球技用のフロアであり、バスケットボール部、バレーボール部、卓球部、バドミントン部が主に使用している。

弓道場

弓道場は、弓道部が主として使用している。

3.12.2 文化施設

文化施設等は、次のとおりである（荒牧キャンパスのみ）。

ミュージズホール

ミュージズホールは、大学会館内の多目的ホールで、各種会合、集会等に使用する施設である。

集会室

2室の集会室があり、うち1室は和室である。和室は主に茶道部が使用している。

3.12.3 課外活動共用施設

○荒牧キャンパス

課外活動共用施設は、南北に2棟あり北棟は主に運動系サークルが、南棟は主として文化系サークルが共同で利用している施設である。北棟は1階、2階ともに8部屋の計16部屋あり、南棟は1階、2階ともに6部屋の計12部屋がある。

北棟1階に運動講義関係の器具庫があり、その他の部屋は部室として使用している。南棟は音楽演奏に向く防音の部屋が1室、写真部用の暗室、学生が各種印刷に利用する印刷室などがある。また、荒牧祭実行委員会もこの課外活動共用施設を中心に活動している。

○昭和キャンパス

課外活動施設は体育館と繋がっており1階、2階、3階に各6部屋（計18室）あり、1階には音楽演奏に向く防音の部屋が4室ある。主に文化系クラブ・サークルが利用している。

○桐生キャンパス

課外活動共用施設は、1階に9部屋、2階と3階に各6部屋の計21部屋あり、1階には音楽演奏に向く防音の部屋が1室、写真部用の暗室、学生が各種印刷に利用する印刷室などがある。主に文化系クラブ・サークルの活動場所や運動部の器具庫及び倉庫として利用されている。

3.12.4 合宿所

○荒牧キャンパス

4部屋あり、広さは談話室が12畳、1・2号室が計22畳、3号室が14畳、4号室が14畳である。

なお、就寝用具などは学生の持ち込みとなっている。

○桐生キャンパス

4部屋あり、大きさは1号室が12畳、2号室が15畳、3・4号室が各6畳である。

関東甲信越大学体育大会などの各種競技大会開催間近には、強化合宿で利用率が非常に高くなる。

なお、各部屋には就寝用具が備えられており、共用の調理場や浴室等も利用できる。

3.13 学生団体及び主な活動

学生団体及び主な活動は、次のとおりである。

3.13.1 学生団体

平成29年度のクラブ・サークルは、資料3-13-1のとおりである。

本学の運動部の対外試合のある種目では、荒牧キャンパスと桐生キャンパスのクラブ等は、「4年制大学」の出場枠となり、昭和キャンパスは「6年制大学」の出場枠となるため、同じスポーツ名ではあっても「荒牧・桐生」と「昭和」は別団体、というクラブ・サークルが多い。

3.13.2 大学祭

学生の意識高揚と、広く群馬大学を学外に情報発信することなどを目的とし、大学祭を開

催している。

- ・荒牧祭（荒牧キャンパス）は、平成29年11月11日（土）～12日（日）に開催し、来場者数は5,400人位であった。
- ・医学祭（昭和キャンパス）は、平成29年11月11日（土）～12日（日）に開催し、来場者数は2,000人位であった。
- ・群桐祭（桐生キャンパス）は、平成29年10月20日（金）～22日（日）に開催し、来場者数は、4,000人位であった。

3.13.3 関東甲信越大学体育大会

関東甲信越大学体育大会は、学生スポーツの健全な発達及び普及を図り、併せて相互の親睦に資するため関東甲信越地区13大学（東京地区大学を除く。）が共同で開催している。

平成29年度は、千葉大学が主管校として、横浜国立大学、横浜市立大学の3大学が担当して行われた。平成29年8月15日(火)～9月6日(水)の日程で全種目が開催され、各大学が担当した競技は以下のとおりである。

千葉大学担当：陸上競技,硬式テニス, バスケットボール, 剣道, 卓球

横浜国立大学担当：硬式野球, サッカー, ソフトテニス, 水泳, 体操, 柔道

横浜市立大学担当：準硬式野球, ラグビー, 弓道, バドミントン, 空手道, バレーボール
群馬大学が好成績（3位以上）を収めた競技は以下の通りである。

- ・優勝：空手道（自由）
- ・準優勝：硬式テニス（女子）, バドミントン（女子）
- ・第3位：水泳（女子）

3.13.4 クラブ・サークルリーダーシップ研修会

クラブ・サークルリーダーシップ研修会は、クラブ・サークルの新旧リーダー等を対象に課外活動団体の健全な活動及び発展に寄与させることを目的として毎年行っている。

平成29年度は、以下の通り実施した。

第1回 平成30年2月28日(水)

(内 容)

- ・講演 ①「酒, タバコ, ドラッグについて」
②「自殺予防について（ゲートキーパーの養成）」
③「サイバー犯罪に巻き込まれないために」
- ・AED講習

3.14 研修施設

研修施設として北軽井沢研修所と草津セミナーハウスがある。その概要等は次のとおりである。

3.14.1 北軽井沢研修所

本研修所は、本学指導教員及び学生等がセミナー等で利用することを目的に昭和49年に設置された。所在地は、群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢字南木山榎2032-242（北軽井沢大学村1条8丁目）で、敷地面積2,497㎡、建物面積285㎡のC型鋼ビン接合フレーム型2階建の建物となっている。

収容人員は15人で居室は3、研修室1、炊事施設等が完備されている。開所時期は、5月1日から10月15日までで、施設運営費は、1人1日1,000円、食事は自炊となっている。ただし、本学の教職員及び学生以外は施設運営費の他に施設使用料1人1日40円が必要となる。

平成29年度延利用者数

群馬大学所属者	その他	総数
240人	3人	263人

3.14.2 草津セミナーハウス

この施設は、関東甲信越地区国立大学の共同利用合宿研修施設として、教職員及び学生が起居を共にし、相互に研鑽し人間関係を深め、対話や学習を重ねながら教養を高め、自然に親しみ、豊かな人間性を育成することを目的に昭和59年に設置された。所在地は群馬県吾妻郡草津町大字草津字白根737である。

上信越県境にそびえる草津白根山の中腹に広がる日本有数の温泉地、草津町にあるこの施設は、敷地12,084㎡、建物延2,569㎡で120人を収容することができる。

四季を通して、セミナーや体育館を利用してのクラブ合宿の他、冬のスキー、春の新入生合宿、夏の登山及び秋の自然観察など、多彩な利用ができる。

草津セミナーハウス使用料金表（平成29年度）

区 分	(1) 地区国立大学教職員・学生	(2) (1) 以外の者
運 営 費	1,500円 (2,000円)	1,900円 (2,400円)
施設使用料	(2) の者のみが負担（毎年4月1日決定）	
食 事	朝食 480円 昼食 520円	夕食 1,020円

- (1) 地区国立大学とは関東甲信越地区国立大学をいう。
- (2) () 内の数字は10月1日から4月30日までの運営費である。
- (3) 地区国立大学の教職員及び学生以外が利用する場合は施設運営費の他に施設使用料 1人1日100円が必要となる。
- (4) 既納の運営費及び施設使用料は還付しない。ただし、使用日の7日前までの取り消しについては、運営費の70%を還付する。

平成29年度延利用者数

地区大学所属者	地区大学所属者以外	総数
2,734人	2,370人	5,104人

3.15 学生の就職支援

荒牧キャンパスに全学生が利用可能な進路指導室としてキャリアサポート室を設置している。学生自身の適性や志向を見定め、明確な目的意識を持たせ、社会や仕事、働くことの意味や意義を考え学ばせる実践的な就業体験や各種の就職ガイダンス・セミナーを開催し、多様化する就職活動に対する支援を行っている。

3.15.1 進路状況及び主な就職先

平成29年度の学生の進路状況等は、資料3-15-1のとおりである。

3.15.2 全学就職ガイダンス・セミナーの開催

本学で実施した就職ガイダンス等は、次のとおりである。

1) 就職ガイダンス

基本講座	全6回	参加延人数	337人
実践講座	全18回	参加延人数	1,440人
特別講座	全8回	参加延人数	238人

- 2) 公務員講座
(全8回, 参加延人数: 604人)
- 3) 各種試験対策講座
(全7回, 参加延人数 : 725人)
- 4) インターンシップ関係説明会及び体験報告会
(全6回, 参加延人数: 1,028人)
- 5) 合同企業説明会
(荒牧・桐生キャンパス各1回, 参加延人数: 959人)
- 6) その他・就職支援セミナー等
(全8回, 参加延人数: 313人)

3.15.3 キャリアカウンセリングの充実

学生の就職相談体制の強化として、前橋地区及び桐生地区にキャリアカウンセラーを配置し、対面式によるカウンセリングを実施した。さらに、ハローワークの協力により、個別相談会や集団面接模擬練習を実施した。

- 1) 利用延人数: 513人
- 2) 主な相談・指導内容
 - ・就職活動の進め方・職業適性・自己分析の相談
 - ・エントリーシート, 履歴書の添削
 - ・面接試験の指導助言

3.15.4 キャリアサポート室における情報収集環境の充実

- 1) 学生用に就職情報検索等のためのパソコン・プリンターを設置
- 2) 各種企業情報データを集約して教務システムに公表
- 3) 各種求人案内(公務員試験案内含む)の設置と配付
- 4) 先輩の就職活動報告書の公開
- 5) 就職関連書籍・ガイダンス撮影ビデオの貸出
- 6) 学内企業説明会の案内やカウンセリングの予約状況等について、ツイッターによる情報発信

3.15.5 就職支援の体制強化の充実

- 1) 国公立大学が参加する就職指導担当者研修会や全国就職指導ガイダンスにおいて意見交換を図るとともに企業の人事担当者等による専門的助言や情報の収集により就職支援体制を強化した。
- 2) 体験型インターンシップを推進するため、実習先企業(登録企業)等を継続的に確保して実習先との協力体制を整備。
 - ・事前説明会参加者: 563人
 - ・実習事前講座参加者: 271人
 - ・実習参加者: 364人
 - ・インターンシップ終了後の体験報告会参加者: 194人

3.15.6 就職支援BOOKの作成・配付

就職支援BOOK(手帳版)を作成し、各学部の就職対象学生に配付した。

3.16 就業力育成支援

本学では、以下のような就業力育成の取組を実施している。

- 1) 学生の就業力育成のため、就業力育成支援室を設置し、キャリアサポート室と連携しながら、社会人としての就業観育成から将来の就業までを意識したキャリア教育をおこなっている。
- 2) 就業力育成のための科目として、初年次教育で「キャリア計画（必須科目）」、「キャリア設計」（理工学部1年生対象）及び「学びを構築する」（社会情報学部1年生対象）を実施している。
- 3) 企業での就業体験型インターンシップの事前教育として、理工学部2年生を対象に座学と企業見学を主内容とした「インターンシップI（1単位）」を開講している。
- 4) 学びの履歴・アンケート等は、電子的に記録し、自身の学びを振り返ることのできるキャリアデザインポートフォリオシステムを利用している。
- 5) これらの就業力育成関連の科目やインターンシップを統合化し、学士課程を通じた、また、学年進行に応じたキャリア教育を展開している。

3.17 学生生活実態調査

学生の生活実態や要望等を把握し、有効な学生支援の方策を検討するために、5年毎に実施することとした学生生活実態調査を、平成15年度、平成20年度及び平成25年度に実施した。

また、内容を報告書にまとめ、講師以上の教員及び関係事務職員に配付し学生支援への活用を図った。

なお、平成30年度に4回目の学生生活実態調査を実施する予定である。

3.18 キャンパスニュース群の発行

「キャンパスニュース群」は、平成25年度からウェブサイトにて掲載しており、今年度も同様にウェブサイトでの掲載となった。

主な掲載内容は、各地区学園祭及びフットサル大会レポート、インターンシップ、生協食堂人気メニュー等である。

3.19 事件・事故

本学学生が関係した事件・事故の件数は、次のとおりである。

- ・交通事故：25件（学内8件、学外17件）
- ・盗難：7件
- ・その他犯罪被害等：2件

3.20 学生支援センター資料集

資料3-1-1, 3-1-2：平成29年度入学料免除及び入学料徴収猶予実施状況

資料3-2-1, 3-2-2：平成29年度授業料免除及び授業料徴収猶予実施状況

資料3-4-1：日本学生支援機構奨学生数（平成29年10月1日現在）

資料3-6-1：平成29年度学部1～3年次生欠席状況調査一覧（前期、後期）

資料3-8-1：平成29年度学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険加入者数

資料3-8-2：平成29年度学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険請求種別保険金請求件数

資料3-9-1：平成29年度通学証明書発行枚数、学生旅客運賃割引証発行枚数及び主な発行理由

資料3-13-1：平成29年度クラブ・サークル一覧

資料3-15-1：平成29年度学部卒業生の進路状況及び主な就職先

平成29年度入学科免除及状況

	免除申請者数 (人)		免除許可者数 (人)	
	4月入学	10月入学	判定 全額免除 半額免除	4月入学 10月入学 合計
教育学部	0	0	0 0	0 0
社会情報学部	0	0	0 0	0 0
医学部	0	0	0 0	0 0
医学部	0	0	0 0	0 0
理学部(工学部) 総合理工学科(夜間主)除く	0	0	0 0	0 0
学部の計	0	0	0 0	0 0
総合理工学科(夜間主)	0	0	0 0	0 0
教育学研究科 (修士課程)	4	0	3 0	3 0
教育学研究科 (専門職学位課程)	0	0	0 0	0 0
社会情報学研究科	2	2	2 0	2 0
医学系研究科 (生命医科学専攻)	3	1	3 0	1 4
保健学研究科 (博士前期課程)	12	0	8 0	8 0
理工学府(工学研究科) (博士前期課程)	79	9	65 0	9 74
大学院修士課程の計	100	12	81 0	12 93
医学系研究科 (医科学専攻)	5	6	5 0	6 11
保健学研究科 (博士後期課程)	0	0	0 0	0 0
理工学府(工学研究科) (博士後期課程)	1	1	1 0	1 2
大学院博士課程の計	6	7	6 0	7 13
特別支援教育特別専攻科	1	0	1 0	1 0
合計	107	19	88 0	19 107

平成29年度入学科徴収猶予実施状況

	猶予申請者数 (人)		猶予許可者数 (人)	
	4月入学	10月入学	判定 全額猶予 半額猶予	4月入学 10月入学 合計
教育学部	1	0	1 0	1 0
社会情報学部	3	0	1 0	1 0
医学部	1	0	0 0	0 0
医学部	1	0	0 0	0 0
理学部(工学部) 総合理工学科(夜間主)除く	7	0	7 0	7 0
学部の計	13	0	9 0	9 0
総合理工学科(夜間主)	1	0	0 0	0 0
教育学研究科 (修士課程)	0	0	0 0	0 0
教育学研究科 (専門職学位課程)	0	0	0 0	0 0
社会情報学研究科	0	0	0 0	0 0
医学系研究科 (生命医科学専攻)	0	0	0 0	0 0
保健学研究科 (博士前期課程)	0	0	0 0	0 0
理工学府(工学研究科) (博士前期課程)	1	0	1 0	1 0
大学院修士課程の計	1	0	1 0	1 0
医学系研究科 (医科学専攻)	0	0	0 0	0 0
保健学研究科 (博士後期課程)	0	0	0 0	0 0
理工学府(工学研究科) (博士後期課程)	0	0	0 0	0 0
大学院博士課程の計	0	0	0 0	0 0
特別支援教育特別専攻科	0	0	0 0	0 0
合計	15	0	9 0	9 0

平成29年度授業料免除

	免除申請者数 (人)		免除許可者数 (人)		合計(延べ人数)	
	前期	後期	判定	前期	後期	合計(延べ人数)
教育学部	83	84	全額免除	44	49	93
			半額免除	27	25	52
社会情報学部	50	50	全額免除	30	30	60
			半額免除	14	16	30
医学部	26	32	全額免除	13	22	35
			半額免除	4	4	8
保健学科	59	69	全額免除	34	38	72
			半額免除	18	24	42
理工学部(工学部) 総合理工学(夜間主)除<	212	237	全額免除	115	136	251
			半額免除	69	68	137
学部の計	430	472	全額免除	236	275	511
			半額免除	132	137	269
総合理工学(夜間主)	4	7	全額免除	3	5	8
			半額免除	0	2	2
教育学研究科 (修士課程)	7	7	全額免除	2	3	5
			半額免除	3	4	7
教育学研究科 (専門職学位課程)	2	1	全額免除	1	1	2
			半額免除	1	0	1
社会情報学研究科	7	12	全額免除	5	9	14
			半額免除	2	2	4
医学系研究科 (生命医科学専攻)	9	11	全額免除	7	10	17
			半額免除	2	1	3
保健学研究科 (博士前期課程)	20	26	全額免除	4	8	12
			半額免除	13	14	27
理工学部(工学研究科) (博士前期課程)	149	160	全額免除	86	102	188
			半額免除	51	48	99
大学院修士課程の計	194	217	全額免除	105	133	238
			半額免除	72	69	141
医学系研究科 (医科学専攻)	25	32	全額免除	14	23	37
			半額免除	8	8	16
保健学研究科 (博士後期課程)	8	9	全額免除	2	2	4
			半額免除	4	6	10
理工学部(工学研究科) (博士後期課程)	20	20	全額免除	15	14	29
			半額免除	5	5	10
大学院博士課程の計	53	61	全額免除	31	39	70
			半額免除	17	19	36
特別支援教育特別専攻科	3	1	全額免除	1	1	2
			半額免除	1	0	1
合計	684	758	全額免除	376	453	829
			半額免除	222	227	449

平成29年度授業料徴収猶予実施状況

	猶予申請者数 (人)		猶予許可者数 (人)		合計(延べ人数)	
	前期	後期	判定	前期	後期	合計(延べ人数)
教育学部	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0
社会情報学部	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0
医学部	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0
保健学科	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0
理工学部(工学部) 総合理工学(夜間主)除<	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0
学部の計	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0
総合理工学(夜間主)	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0
教育学研究科 (修士課程)	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0
教育学研究科 (専門職学位課程)	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0
社会情報学研究科	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0
医学系研究科 (生命医科学専攻)	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0
保健学研究科 (博士前期課程)	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0
理工学部(工学研究科) (博士前期課程)	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0
大学院修士課程の計	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0
医学系研究科 (医科学専攻)	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0
保健学研究科 (博士後期課程)	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0
理工学部(工学研究科) (博士後期課程)	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0
大学院博士課程の計	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0
特別支援教育特別専攻科	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0
合計	0	0	全額猶予	0	0	0
			半額猶予	0	0	0

日本学生支援機構奨学生数 (平成29年10月1日現在)

平成29年10月1日現在(人)

学部・研究科	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		計			
	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種		
	区 分															
学部	教育学部	55	33	43	44	39	32	38	41					175	150	325
	社会学部	25	26	37	13	35	27	28	26					125	92	217
	医学部	6	5	20	15	11	16	11	18	9	7	14	19	71	80	151
	保健学科	41	27	55	30	35	31	36	36					167	124	291
	工学部							1						1	0	1
	工学部													0	0	0
	工学部															
	工学部															
	理工学部	105	105	124	103	121	117	122	88					472	413	885
	学部計	232	196	279	205	241	223	236	209	9	7	14	19	1011	859	1870
専攻科	特別支援教育特別専攻科	1												1	0	1
	教育学研究科	6		4										10	0	10
大学院	社会学部			3										3	0	3
	医学系研究科	2		4										0	0	0
	保健学研究科	1												1	0	1
	工学研究科	6		4	2									10	2	12
	工学研究科					1								1	0	1
	工学研究科													0	0	0
	工学研究科													0	0	0
	工学研究科	114	7	123	13									237	20	257
	工学研究科	3		4		5	1							12	1	13
	大学院計	132	7	142	15	6	1	0	0	0	0	0	0	280	23	303
大学院計																

※一人の学生が第一種と第二種を併用貸与している場合もあるので、延べ人数である。

総計 2173

平成29年度学部1～3年次生欠席状況調査一覽 (前期)

	教育学部 名	社会情報学部			医学部			理工学部 (工学部)	合計
		名	名	名	医学部 保健学科	医学部 保健学科	計		
1年生 対象者数	229	109	114	166	280	545	1,163		
欠席者数	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.2%	1 0.1%		
2年生 対象者数	230	99	140	171	311	564	1,204		
欠席者数	0 0.0%	2 2.0%	1 0.7%	2 1.2%	3 1.0%	2 0.4%	7 0.6%		
3年生 対象者数	227	125	143	160	303	633	1,288		
欠席者数	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 0.8%	5 0.4%		
合計 対象者数	686	333	397	497	894	1,742	3,655		
欠席者数	0 0.0%	2 0.6%	1 0.3%	2 0.4%	3 0.3%	8 0.5%	13 0.4%		

※ 学生数は、平成29年5月1日現在
※ 欠席者数下段は、欠席率

平成29年度学部1～3年次生欠席状況調査一覽 (後期)

	教育学部 名	社会情報学部			医学部			理工学部 (工学部)	合計
		名	名	名	医学部 保健学科	医学部 保健学科	計		
1年生 対象者数	229	109	114	165	279	543	1,160		
欠席者数	0 0.0%	1 0.9%	0 0.0%	1 0.6%	1 0.4%	4 0.7%	6 0.5%		
2年生 対象者数	230	99	140	170	310	559	1,198		
欠席者数	1 0.4%	2 2.0%	0 0.0%	1 0.6%	1 0.3%	7 1.3%	11 0.9%		
3年生 対象者数	227	125	143	160	303	631	1,286		
欠席者数	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 1.9%	12 0.9%		
合計 対象者数	686	333	397	495	892	1,733	3,644		
欠席者数	1 0.1%	3 0.9%	0 0.0%	2 0.4%	2 0.2%	23 1.3%	29 0.8%		

※ 学生数は、平成29年11月1日現在
※ 欠席者数下段は、欠席率

平成29年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険加入者数

学部(人) (平成30年3月31日現在)

学部名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	その他(研究生等)	計
教育学部	229	230	227	242	0	0	35	963
社会情報学部	109	99	125	143	0	0	50	526
医学部	114	140	143	121	106	126	9	759
保健学科	166	171	160	165	0	0	0	662
計	280	311	303	286	106	126	9	1,421
理工学部	513	532	599	529	0	0	27	2,200
昼間コース	32	32	34	35	0	0	0	133
夜間主コース	545	564	633	564	0	0	27	2,333
計	1,163	1,204	1,288	1,235	106	126	121	5,243
合計								

大学院・専攻科(人) (平成30年3月31日現在)

研究科名	1年	2年	3年	4年	その他(研究生等)	計
教育学研究科	41	50	0	0	3	94
社会情報学研究科	10	17	0	0	4	31
医学研究科	11	19	0	0	2	32
保健学研究科	50	57	62	121	8	298
修士課程	50	61	0	0	6	117
博士前期課程	11	12	36	0	22	81
博士後期課程	122	149	98	121	38	528
計	343	333	0	0	14	690
理工学府	23	20	62	0	3	108
工学研究科	366	353	62	0	17	798
特別支援教育特別専攻科	17	0	0	0	4	21
計	556	569	160	121	66	1,472
合計						

平成29年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険請求種別保険金請求件数

(件)

	学生教育研究災害傷害保険						学研災付帯 賠償責任保険	総計
	正課中	学校行事中	通学中	課外活動中	その他	合計		
荒牧地区	3	1	3	9	0	16	0	16
昭和地区	0	0	2	4	0	6	0	6
桐生地区	4	1	3	0	2	10	0	10
太田地区	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	7	2	8	13	2	32	0	32

平成29年度通学証明書発行枚数

(枚)

荒牧地区		昭和地区		桐生地区		太田地区		合計
電車	バス	電車	バス	電車	バス	電車	バス	
628	506	50	17	169	15	6	0	1,391

平成29年度学生旅客運賃割引証発行枚数及び主な発行理由

(枚)

	正課	帰省	就職	課外活動	見学	旅行	その他 傷病・治療	計
荒牧地区	198	2,977	1,154	736	1,308	518	38	6,929
昭和地区	558	4,870	676	1,034	1,276	388	1	8,803
桐生地区	384	2,314	1,849	431	429	127	4	5,538
太田地区	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1,140	10,161	3,679	2,201	3,013	1,033	43	21,270

平成29年度クラブ・サークル一覧

整理 番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
1	荒牧ジャズ研究会	○				文化部
2	アドバンス[Advance]ボランティア子供向けイベント	○				文化部
3	E. S. S (English Speaking Society)	○				文化部
4	囲碁・将棋部	○				文化部
5	泉の会(知的障害の子供と遊ぶ会)	○				文化部
6	ELMO(遊びのプログラム)		○			文化部
7	映画研究会	○	○			文化部
8	SRC(献血)	○	○	○		文化部
9	E∞gg[えっぐ]医療や社会について学ぶ		○			文化部
10	エレクトーン部		○			文化部
11	演劇部テアトル・ヒューメ	○				文化部
12	音楽研究会			○		文化部
13	オリエンテーリング部	○		△		文化部
14	カル旅研究会(かるた)	○				文化部
15	かるた会	○		○		文化部
16	合唱サークル Pico		○			文化部
17	気象天文研究部	○		○		文化部
18	競技麻雀部	○		○		文化部
19	医学部競技麻雀部		○			文化部
20	教育学部八木節研究会	○				文化部
21	群馬おきりこみ合唱団	○				文化部
22	群馬大学BBS会(ボランティア・少年少女の悩み)	○	○	○		文化部
23	群馬大学AI, IOT研究会	○				文化部
24	教育サークル・青竹(ボランティア・児童教育研究)	○				文化部
25	Guit's(アコースティックギター)		○			文化部
26	クラシックギター部	○		○		文化部
27	グリークラブ	○		○		文化部
28	折紙研究会"Origin"	○	○	○		文化部
29	医学部軽音楽部		○			文化部
30	国際医療ボランティアの会(FORS)		○			文化部
31	Beyond(ボランティア留学生と交流)	○				文化部
32	混声合唱団	○		○		文化部
33	茶道部	○				文化部
34	写真部(荒牧)	○				文化部
35	写真部(昭和)		○			文化部
36	写真部(桐生)			○		文化部
37	手話サークル でんでんむし	○				文化部
38	医学部手話サークル でんでんむし		○			文化部
39	書道部	○				文化部
40	進化するサルのだれでもわかる科学教室	○				文化部
41	0から始めるゲーム制作会	○				文化部
42	聖書研究会			○		文化部
43	GA研究会(アニメ・ゲーム研究会)	○				文化部
44	GMA(中学生のネット見守り活動サークル)	○				文化部
45	G. K. オールスターズ	○		○		文化部
46	吹奏楽団	○	○	○		文化部
47	たんぼぼ(自閉症児ふれあい支援)	○				文化部
48	地域活性化団体 enerGy	○				文化部
49	哲学の森		○			文化部
50	天文部		○			文化部
51	電子計算機研究会 IGCC			○		文化部
52	TRPG研究会(テーブルゲーム研究会)	○		△		文化部

平成29年度クラブ・サークル一覧

整理 番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
53	東洋医学研究会		○			文化部
54	読書同好会			○		文化部
55	AAA☆KIDS(トリプルエーキッズ)ボランティア小児喘息		○			文化部
56	ド学連(MD-PhD勉強会)		○			文化部
57	ボードゲーム倶楽部	○	○	○		文化部
58	Pastel Plan	○				文化部
59	美術愛好会		○			文化部
60	ビリヤード部		○			文化部
61	ピアノ部		○			文化部
62	PCDC(多文化交流)	○		○	○	文化部
63	ファンタスティック手芸部	○				文化部
64	フィルハーモニックオーケストラ部	○		○		文化部
65	フォーク・ロック愛好会	○		○		文化部
66	Fore-Bridge Orchestra(ビッグバンドジャズ)		○			文化部
67	FLOW Orchestra	○	○			文化部
68	Voice Cream(アカペラサークル)	○	○	○		文化部
69	漫画研究部	○		○		文化部
70	マンドリン・ソサエティ		○			文化部
71	民間伝承研究会	○				文化部
72	メサイア管弦楽団・合唱団	○				文化部
73	モダンジャズ研究会(医学部)		○			文化部
74	モダンジャズ研究会(工学部)			○		文化部
75	野外教育研究会	○	○	○		文化部
76	八木節同好会			○		文化部
77	野草を食べる会		○			文化部
78	夢のわたらせ なないろ号	○	○			文化部
79	落語・コント研究会	○		○		文化部
80	ラジオ同好会			○		文化部
81	レストアサークル(機械分解修理)	○		○		文化部
82	LAMP(イベント企画団体)	○				文化部
83	ロボット研究会	△		○		文化部
84	LEADS(小児糖尿病)		○			文化部
85	YMCAクラブ(子供たちと交流)	○	○	○		文化部
86	R. F. C(スノーボード)	○		○		運動部
87	合気道部	○	○	○		運動部
88	アルティメット部	○				運動部
89	アメリカンフットボール部	○		○		運動部
90	医学部サイクリング部 医輪(いちやり)		○			運動部
91	医学部★ダンスサークル		○			運動部
92	Et's(バスケットボール)		○			運動部
93	エスケープ(硬式テニス)	○				運動部
94	学生フォーミュラチーム	○		○	○	運動部
95	空手道部	○		○		運動部
96	環境プロセススポーツ同好会			○		運動部
97	弓道部	○		○		運動部
98	弓道部(医学科)		○			運動部
99	弓道部(保健学科)		○			運動部
100	CRAFT(サッカー・フットサル)	○				運動部
101	剣道部	○	○	○		運動部
102	剣道部(医学部)		○			運動部
103	Get's(サッカー)	○	○			運動部
104	硬式テニス部	○				運動部

平成29年度クラブ・サークル一覧

整理 番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
105	硬式テニス部(医学部)女		○			運動部
106	硬式テニス部(医学部)男		○			運動部
107	硬式野球部	○		○		運動部
108	ゴルフ部(医学部)		○			運動部
109	サイクリング部	○		○		運動部
110	サッカー部(全学)	○				運動部
111	サッカー部(医学部)		○			運動部
112	サバゲーサークル			○		運動部
113	少林寺拳法部	○		○		運動部
114	自動車部	○		○	○	運動部
115	柔道部(荒牧)	○	○	○		運動部
116	柔道部(工学)			○		運動部
117	柔道部(医学)		○			運動部
118	準硬式野球部	○				運動部
119	準硬式野球部(医学部)	○	○			運動部
120	水泳部	○	○	○		運動部
121	スキー部(全学)	○	○	○	○	運動部
122	スキー部(医学部)		○			運動部
123	Seven Stars(フットサル)	○				運動部
124	Roughソフトテニスサークル	○		○		運動部
125	ソフトテニス部	○		○		運動部
126	ソフトテニス部(医学部)		○			運動部
127	体操部	○		○		運動部
128	卓球部	○		○		運動部
129	卓球部(医学部)		○			運動部
130	古武術部	○				運動部
131	ダンス部	○				運動部
132	ツバサFCコーチングスタッフ	○				運動部
133	軟式野球サークル アウイル	○	○	○		運動部
134	肉じゃが(各種スポーツ)	○				運動部
135	ハンドボール部	○				運動部
136	バイク部			○		運動部
137	馬術部	○	○	○		運動部
138	バスケットボール研究会	○				運動部
139	バスケットボール部	○				運動部
140	バスケットボール部(医学部)		○			運動部
141	バスケットボール部(工学部)			○		運動部
142	女子バスケットボール部(医学部)		○			運動部
143	バドミントン部	○		○		運動部
144	バドミントン部(医学部)男子		○			運動部
145	バドミントン部(医学部)女子		○			運動部
146	バレーボール部(全学)	○				運動部
147	バレーボール部(医学部)		○			運動部
148	バレーボール部(保健学科)		○			運動部
149	B-STYLE(ダンス)	○		○		運動部
150	Vit'z(ダブルダッチ)		○			運動部
151	ファーストブレイク(バスケットボールサークル)	○				運動部
152	フリースタイル・フットボールサークル	○		○		運動部
153	V. B. C. 桐生(バレーボール)			○		運動部
154	フィールドホッケー部	○				運動部
155	フットサル部	○		○		運動部
156	フットサルサークル		○			運動部

平成29年度クラブ・サークル一覧

整理 番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
157	ボウリングサークル El Bolos		○			運動部
158	borderless(卓球サークル)	○				運動部
159	メモリアルテニス部	○				運動部
160	ラグビー部(全学)	○		○		運動部
161	ラグビー部(医学部)	○	○			運動部
162	陸上競技部	○		○		運動部
163	陸上競技部(医学部)		○			運動部
164	Let's Met's		○			運動部
165	ONE WAY(バレーボール)	○				運動部
166	RUSH(フットサル)	○				運動部
167	LEST(水泳サークル)	○	○	○		運動部
168	ワンダーフォーゲル部	○	○	○		運動部

平成29年度学部卒業生の進路状況

区分 学部	卒業生数 (A)		進学者数					就職者数										就職率 (E) $E=C/(A-B-D) \times 100$			
	大学院・専攻科	他大学学部等	研究生等	各種専修学校等	留學	計 (B)					業種別内訳					計 (C)	就職活動中		その他 (D)		
						教員					医療機関	企業等	公務員等	自営業	左欄以外						
						小	中	高	特別支援	中等教育											
教育学部	222	24	1			25	5	77	40	10	16	1	1	15	16		3	184	6	7	96.8
社会情報学部	125	4		1		5								87	20		1	108	2	10	98.2
医学部	124	1				1							112					112		11	100.0
保健学科	160	30				30							116	5	7			128		2	100.0
理工学部	522	315				315								159	36	1		196		11	100.0
工学部	10	2				2								5	1			6		2	100.0
夜間主コース	2													2				2			100.0
合計	1165	376	1	1	1	378		77	40	10	16	1	229	273	80	1	4	736	8	43	98.9

備考:その他(D)欄は、各種試験準備、留学生の帰国、家事従事、不明である。

平成29年度学部卒業生の進路状況及び主な就職先

青字は、県内就職先

【教育学部】

■教育

〈幼稚園・認定こども園〉

高崎市 伊勢崎市 安中磯部こども園(認定こども園) 中川幼稚園(認定こども園)
やまむろこども園(認定こども園)

〈小学校〉

前橋市 高崎市 桐生市 伊勢崎市 太田市 館林市 沼田市 渋川市 藤岡市 富岡市 みどり市 吉岡町 大泉町
邑楽町 明和町 板倉町 下仁田町 玉村町 群馬大学教育学部附属小学校 川口市 川越市 所沢市 熊谷市
深谷市 行田市 男鹿市 川越市 厚木市 旭市 軽井沢町

〈中学校・中等教育学校〉

前橋市 高崎市 伊勢崎市 太田市 館林市 沼田市 渋川市 藤岡市 富岡市 安中市 川場村 昭和村 嬬恋村
新島学園中学校・高等学校 群馬大学教育学部附属中学校 本庄市 上田市

〈特別支援学校〉

群馬県 前橋市 高崎市 太田市 大出学園支援学校若葉高等学園 茨城県 埼玉県

〈高等学校〉

群馬県 前橋育英高等学校 東京農業大学第二高等学校 埼玉県

■公務

群馬県
桐生市
渋川市
熊谷市
小川町

前橋市
伊勢崎市
藤岡市
宇都宮市

高崎市
太田市
中之条町
佐野市

■企業・法人等

群馬県健康づくり財団
㈱うすい(塾講師)
㈱心水出版(塾講師)
㈱小山本家酒造 総合職
㈱バル
㈱竹村製作所

群馬大学
㈱ソフト技研
早稲田学習研究会
J&C サプライ㈱
芙蓉総合リース㈱
㈱渋沢

NIPPON語学院(日本語学校)
㈱トライグループ
日本旅行シンガポール(旅行会社)
鈴木ゼミナール
須河車体㈱(事務)

【社会情報学部】

■ 公務

群馬県(学校事務)
高崎市
渋川市

群馬県警察
伊勢崎市
栃木県警察

前橋市
太田市
青森市

■ 企業・法人等

NEXUS(株)
岩瀬産業(株)
北群馬信用金庫
群馬県市町村職員共済組合
佐田建設(株)
全国農業協同組合連合会群馬県支部
東邦工業(株)
東日本旅客鉄道(株)高崎支社
(株)ベシシア
(株)矢野
(株)ワークマン
(株)青森銀行
(株)カレッジティーアンドケイ
(株)NTT東日本-関信越
(株)シーエックスカーゴ
KDDI(株)
(株)エイジェック
(株)オダギリ
大和証券(株)
日本情報産業(株)
野村證券(株)
(株)フォービス
(株)ユニバーサルホーム
(株)ワイズ・インフィニティ
(株)マーレフィルターシステムズ
(福)ロングラン

イーケーエレベータ(株)
(株)岡本工作機械製作所
(株)群馬銀行
群馬県信用保証協会
サンデンシステムエンジニアリング(株)
(株)総合PR
(株)東和銀行
藤田エンジニアリング(株)
前橋市農業協同組合
(株)吉田会計

(株)秋田銀行
AGS(株)
(株)カインズ
(株)渋沢
(株)OPEN HOUSE
エス・ビー・エス(株)
花王カスタマーマーケティング(株)
(株)チームファクトリー
日本通運(株)
パーソルテクノロジースタッフ(株)
松岡冷蔵(株)
横河ソリューションサービス(株)
(株)アカデミー
にいかわ信用金庫
東洋刃物(株)

(株)一条工務店群馬
(株)オルビス
群馬グランディハウス(株)
群馬河西(株)
(株)上毛労務
(株)高崎共同計算センター
ネットヨタ群馬(株)
(株)フレックス
矢島工業(株)
リード(株)

(株)NTTデータ MSE
(株)NTT東日本
全国生活協同組合連合会
(株)エーツー
(株)アイエスエイブラン
(株)エム・オー・シー
(株)ジュピターテレコム
(株)デルタマーケティング
日本郵便(株)
(株)フォーカスシステムズ
丸文(株)
菱洋エレクトロ(株)
(株)足利銀行
八十二システム開発(株)
(株)七十七銀行

【医学部 医学科】

※病院名は通称で表記

■医療・福祉業

群馬大学医学部附属病院	渋川医療センター	高崎総合医療センター
桐生厚生総合病院	前橋病院	前橋赤十字病院
伊勢崎市民病院	藤岡総合病院	館林厚生病院
富岡総合病院	太田記念病院	群馬中央病院
利根中央病院	日高病院	
災害医療センター	埼玉病院	東京医療センター
東京大学医学部附属病院	新潟大学医歯学総合病院	横浜市立大学附属市民総合医療センター
東京医科歯科大学医学部附属病院	稲城市立病院	関東中央病院
君津中央病院	神戸市立医療センター中央市民病院	国保旭中央病院
駒込病院	墨東病院	多摩総合医療センター
橋本市市民病院	日野市立病院	横須賀共済病院
さいたま赤十字病院	坂総合病院	成田赤十字病院
日本赤十字社医療センター	深谷赤十字病院	横浜医療センター
横浜市南部病院	自治医科大学附属さいたま医療センター	昭和大学病院
東京医科大学病院	東京歯科大学市川総合病院	獨協医科大学越谷病院
獨協医科大学埼玉医療センター	日本医科大学千葉北総病院	佐久総合病院佐久医療センター
板橋中央総合病院	茨城県立中央病院	岡崎市民病院
亀田総合病院	北アルプス医療センター あづみ病院	倉敷中央病院
埼玉協同病院	彩の国東大宮メディカルセンター	新東京病院
聖隷浜松病院	千葉メディカルセンター	土浦協同病院
東京警察病院	東京通信病院	長野中央病院
東大和病院	日高病院	水戸協同病院
東京北医療センター		

【医学部 保健学科】

※病院名は通称で表記

■公務

群馬県 自衛官候補生	前橋市 茨城県	伊勢崎市 蕨市
---------------	------------	------------

■医療・福祉業

群馬大学医学部附属病院	前橋赤十字病院	前橋協立病院
前橋病院	桐生厚生総合病院	伊勢崎福島病院
渋川医療センター	沼田脳神経外科循環器科病院	石井病院
内田病院	黒沢病院	明清会
上武呼吸器科内科病院	角田病院	日高病院
真木病院	わかば病院	群馬整肢療護園
群馬中央病院	老年病研究所附属病院	
桑名病院	新潟大学医歯学総合病院	水戸赤十字病院
神奈川県病院	さがみリハビリテーション病院	横浜市立大学附属病院
さいたま赤十字病院	自治医科大学附属さいたま医療センター	戸田中央医科グループ
東川口総合病院	深谷赤十字病院	吉川総合病院
埼玉医科大学総合医療センター	埼玉医科大学病院	埼玉県立病院
緑成会病院	静岡医療福祉センター	鎌ヶ谷総合病院
千葉県立病院	千葉リハビリテーションセンター	北原国際病院
東京大学医学部附属病院	虎の門病院	日本医科大学附属病院
緑成会病院	杏林大学医学部付属病院	関東中央病院
国際医療福祉大学三田病院	東京医科大学八王子医療センター	東京臨海病院
武蔵野赤十字病院	足利赤十字病院	自治医科大学附属病院
とちぎメディカルセンター	国際医療福祉大学塩谷病院	佐久総合病院
松本医療センター	恒生病院	横浜市立みなと赤十字病院
千葉大学医学部附属病院	佐久医療センター	信州大学医学部附属病院

■企業・法人等

群馬県健康づくり財団 日本健康増進財団	㈱昭和メディカルサイエンス	福島県保健衛生協会
------------------------	---------------	-----------

【理工学部 化学・生物化学科】【工学部 応用化学・生物化学科】

■公務

伊勢崎市
足利市
東京都新宿区

富岡市
佐久市

栃木県
熊谷市

■企業・法人等

NEOMAXエンジニアリング(株)
(株)環境技研
東都積水(株)
(株)原田・ガトーフェスタ ハラダ
(株)ミツバ
(株)AIRDO
(株)アイビー化粧品
栄研化学(株)
キヤノン・コンポーネンツ(株)
(株)ジーユー
(株)大協精工
千代田インテグレ(株)
東北インフォメーション・システムズ(株)
パイロットコーポレーション(株)
プライフーズ(株)
(株)マーキュリー

NEXUS(株)
小池化学(株)
東邦工業(株)
(株)ベイシア
(株)山田製作所
JFE環境(株)
旭化成アミダス
(株)エム・クラフト
クレハ合繊(株)
(株)シグレスト
ダイニック(株)
鶴見製紙(株)
(株)東洋クオリティワン
長谷川香料(株)
(株)ポールド
(株)メディサイエンスプランニング

RP東プラ(株)
昭和電工(株)伊勢崎事業所
白十字(株)
松巳鉄工(株)
(株)ヤマト
PCIソリューションズ(株)
アズワン(株)
(株)オフィスエフエイ・コム
三恵技研工業(株)
信越ポリマー(株)
太陽ホールディングス(株)
東京パワーテクノロジー(株)
(株)ナカボーテック
富士宮農業協同組合
北陸電気工事(株)
理研計器(株)

【理工学部 機械知能システム理工学科】【工学部 機械システム工学科】

■公務

群馬県警察

桐生市消防

仙台市

■企業・法人等

伊勢崎ガス(株)
太陽誘電(株)
(株)山田製作所
JFE物流(株)
(株)小田原エンジニアリング
スズキ(株)
日立工機(株)
本田技研工業(株)

(株)沖データ
東亜工業(株)
(株)ヤマト
SMC(株)
オリンパス(株)
(株)ハート・デリバリー
日野自動車(株)
(株)増田製作所

しげる工業(株)
日本省力機械(株)
ヤマト発動機(株)
曙機械工業(株)
カルソニックカンセイ(株)
東日本旅客鉄道(株)
(株)富士通アドバンスエンジニアリング
(株)松浦機械製作所

【理工学部 環境創生理工学科】【工学部 環境プロセス工学科、社会環境デザイン工学科】

■公務

群馬県
伊勢崎市
栃木県
秋田県
秋田市

高崎市
太田市
埼玉県
石川県
東京都文京区

桐生市
国土交通省四国地方整備局
東京都
静岡県

■企業・法人等

王子製鉄(株)
東邦工業(株)
(株)山田製作所
SOLIZE(株)
カルソニックカンセイ(株)
(株)サイサン
ソシオークホールディングス(株)
日本シイエムケイ(株)
富士通(株)

(株)群馬農協電算センター
(株)利根設計事務所
(株)ヤマト
石福金属工業(株)
北野建設(株)
(株)シイエヌエス
(株)テクノ菱和
(株)パーツ精工

太陽誘電(株)
(株)ミツバ
(株)NJS
(株)エクセルエンジニアリング
クボタ環境サービス(株)
静清信用金庫
(株)日水コン
東日本旅客鉄道(株)

【理工学部 電子情報理工学科】【工学部 電気電子工学科、情報工学科】

■公務

太田市
国税専門官

藤岡市
静岡県警察

邑楽町
三沢市

■企業・法人等

(株)SUBARU
河西工業(株)
(株)ジーシーシー
(株)古川製作所
(株)両毛システムズ
アマゾンジャパン合同会社
キヤノン・コンポーネンツ(株)
高志インテック(株)
(株)スバルITクリエイションズ
(株)テクノプロ
日本コムシス(株)
本田技研工業(株)

(株)アドテックス
(株)クライム
日本ブラスト(株)
(株)ミツバ
(株)OKIソフトウェア
(株)エイジェック
(株)ケイズ
コーセル(株)
セイコーエプソン(株)
東芝インフラシステムズ(株)
(株)日立ハイテクファインシステムズ
(株)メイツ

沖電線(株)
(株)ゲンエイ
日本ミシュランタイヤ(株)
三益半導体工業(株)
朝日電装(株)
(株)エフテック
(株)ケーヒン
(株)ジーニー
(株)タイトー
(株)ニッセイコム
フォーシーズ(株)
(株)ヤクルト本社

【理工学部 総合理工学科】【工学部 生産システム工学科】

■企業・法人等

(株)SUBARU
ニプロ医工(株)
(株)両毛システムズ
(株)スバルITクリエイションズ
(株)インフォーマ
(株)ドクターシーラボ

(株)群馬銀行
日本シイエムケイ(株)
川崎設備工業(株)
(株)OPEN HOUSE
(株)シーマインド
(株)日テレ・テクニカル・リソーシズ

(株)高崎共同計算センター
(株)吉貞
テス・エンジニアリング(株)
Sompoシステムズ(株)
東洋熱工業(株)

4 学生受入センター

4.1 はじめに

学生受入センターは平成18年4月に発足され、センターにはセンター長（教育・企画担当理事・副学長）と副センター長，兼任教員（各学部の入試又は広報担当委員会の委員長）が在籍する組織である。センターの運営については，学生受入センター運営委員会が設置されている。また，下部組織として入試部会・広報部会を組織し各学部等から委員が選出されている。審議内容は，学生募集に係る広報活動に関すること（これらを以下，「広報関係業務」という）と，入学者選抜方法の改善に関すること等（これらを以下，「入試関係業務」という）である。

広報関係業務は，平成29年6月に設置された「群馬大学広報本部」の下部組織である「学生受入部門」での企画・立案を受けて，広報部会で具体的な実施方法を練り，実行する体制で業務を今年度から遂行することとなった。そして，入試関係業務の事務は，入学試験委員会と連携を図るほか，学生受入課が各学部の担当係と連携を図り業務を遂行している。平成29年度の主な入試・広報関係業務等の事項は，次のとおりである。

4.2 オープンキャンパス等

本学の教育研究及び学園生活の現状を，具体的に分かりやすく伝える場として，また，受験生の進路決定に資することを目的として，全学のオープンキャンパスをリニューアルした「群馬大学1日体験デー『GU'DAY2017』」と，各学部学科等が開催する「学部別オープンキャンパス」を実施した。これらのオープンキャンパスに対して，群馬県内の全高等学校（101校）と全中学校（166校），東北・関東・中部地方の平成27年度から29年度の入学試験において志願者のあった高等学校（837校）に案内した結果，延べ6,199名の参加者があった。

4.2.1 群馬大学1日体験デー「GU'DAY2017」

平成28年度まで8月上旬の土日2日間で学部を分けて開催されていた「群馬大学オープンキャンパス」をリニューアルし，「群馬大学1日体験デー『GU'DAY2017』」と称して，平成29年7月9日（日）に荒牧キャンパスで開催した。夏休み前にも関わらず1,224名の参加者があった。

今回のリニューアルの目的は，ここ数年に渡り，高校1，2年生向けである全学のオープンキャンパスについて学内で検討してきた，次の6点へ対応するためである。(1)「在学生の生の声をもっと聴きたい」という参加者の要望に応えた在学生の関わり強化，(2)全学のオープンキャンパスの主対象である高校1，2年生向けプログラムであることの明示，(3)1日の参加でいろいろな学部の説明が聴ける回遊性の導入，(4)プログラムに関する内容の細分化，時間短縮，複数（3～5）回実施，(5)保護者を含めた参加者へのきめ細やかな対応，(6)参加収容人数の上限解消（各プログラムの事前予約制廃止），である。

(1)については，開催当日，平成29年度から発足した「学生広報大使」（95名）と生協学生委員（33名）の計128名，さらに，サークル3団体にも協力してもらい，学生主体で実施するプログラム「女子カフェ」「大学生活トークショー」「キャンパスツアー」「サークル紹介」を新たに設けたほか，従来から実施している「個別相談コーナー」や受付・誘導業務も多くの学生に担当してもらった。(2)～(6)については，1プログラムの実施時間を30～50分とした上で多様なプログラムを企画し，それぞれ複数回実施することとして，参加者が希望に応じて自由にプログラムを選択できるようにするとともに，従来の2日間開催分の参加者数を1日で収容できる態勢とした。

当日実施した参加者へのアンケート調査では、多くの在学生在が生き生きとした姿を見せてくれ、質問等にも丁寧に対応してくれたことに、高評価が寄せられた。また、参加者が実際に興味のある本学の学部は、かなり複数学部に渡っており、1日の参加でいろいろな学部の説明が聞ける回遊性の導入にも満足の回答が多く寄せられた。これらの回答から、今回のリニューアルの目的はほぼ達成されたことが確認できた。ただ、より有意義なオープンキャンパスとするため及び前年より参加者数が減少したことへの対策として、今後の実施内容・体制などに関し、改善すべき点を実施状況から確認した。

4.2.2 学部別オープンキャンパス

各学部学科等が開催する「学部別オープンキャンパス」は、主に高校3年生を対象として、教育学部、社会情報学部、医学部医学科、医学部保健学科、理工学部それぞれのキャンパスで開催した。各学部学科とも、学部学科説明、在学生の体験発表、模擬授業等を行い、延べ4,975名の参加者があった。

4.3 学生募集に係わる広報活動

学生受入センターでは、学生募集に係わる様々な広報活動を行っており、平成29年度の主な学生募集に係わる広報活動の事項とその状況は、次のとおりである。

4.3.1 出前説明会、出張模擬授業及び大学見学

出前説明会については、高等学校からの依頼に基づき、53校へ出向いて大学・学部学科の教育内容・入学試験等の説明を行った。出張模擬授業については、高等学校等からの依頼に基づき、73校へ出向いて大学での学びを講義形式により紹介した。大学見学については、来学した37の高等学校等の生徒・教諭等に対し、学部学科説明や施設紹介を実施した。その他、社会情報学部及び理工学部においては、高等学校を訪問して進路指導担当教諭等に対して学部説明を行った（社会情報学部1校、理工学部142校）。

4.3.2 進学相談会

受験産業が主催する会場形式の進学相談会（「夢ナビ」等を含む）には、関東地区を中心に延べ24会場（県内11、県外（関東地区）8、県外（関東以外）5）へ参加し、受験生、保護者等からの個別相談に対応した。そして、これらの進学相談会にて延べ1,000名以上の受験生、保護者等に対して入試広報を行った。

4.3.3 大学案内、大学紹介動画の作成

広報活動のためのツールとして、冊子体の大学案内を作成して、オープンキャンパスや出前説明会等において配付した。また、大学紹介の動画（「【2017年度版】群馬大学 大学案内」や「群大でリコジョ篇」等）を作成して、群馬大学公式チャンネル（YouTube）に掲載した。

4.3.4 ウェブサイト等による広報

本学ウェブサイト等を活用し、受験者等への情報発信（LINE、Twitter等のSNSを含む）を種々行っている。入学者選抜に関する要項や学生募集要項の発表、受験状況の公表のほか、平成25年度からは試験問題及び解答例・評価のポイント、群馬大学入学者選抜における受験上の配慮内容、次年度以降の入試の変更点を公表している。加えて今回、平成30年度一般入試については「インターネット出願」となったことを本学ホームページ上でも公表し、受験生へ周知した。

また、大手の受験産業が運営する進学情報ウェブサイト等に入試情報を掲載し、より広範な広報活動を行った。

4.3.5 高等学校等の教員を対象とした説明会

本学の主催で、高等学校等の進路指導担当等の教員を対象とした「高等学校等の教員を対象とした群馬大学説明会」を、平成29年6月29日（木）に開催した。これは、高等学校等の進路面談（7月中旬頃）の前に行って欲しい旨の意見を進路指導担当等の教員から受け、平成28年から開催日時を従来の7月下旬より前倒しして行っている。当説明会では各学部学科の教育内容や入学試験について担当の教職員から詳しく説明を行った。なお、群馬県内の全高等学校（101校）、東北、関東（群馬県を除く）、中部地方の平成27年度から平成29年度入学試験において志願者のあった高等学校（837校）に案内した結果、54校92名の教員が参加した。

4.3.6 学生広報大使による広報

本学の広報活動を推進するため、学生ならではの視点を活かして広報活動の企画・実施に参画してもらうことを目的として、平成29年度から新しい取り組みとして「群馬大学学生広報大使」を在学生から募集した。平成29年6月5日（月）にはキックオフミーティングを行い、210名の学生が学生広報大使に任命された。学生広報大使は、年間を通して「オープンキャンパスの運営スタッフ」や「大学オリジナルグッズのプロデュース」等で広報活動に携わり、学生目線で群大の魅力を発信した。

4.4 広報戦略の立案

従来、広報戦略については、平成25年度に作成した本学の広報活動の基本方針である「群馬大学学生募集に係わる広報戦略」について改善事項をとりまとめ作成された「群馬大学学生募集に係る広報の改善」を毎年度確認し、変更等を行っていた。これに対し、平成28年度の広報部会等にて確認された「効率的かつ有効な広報を大学全体として組織的に行っていく」ことへの対応のため、平成29年6月「群馬大学広報本部」が発足した。そして、「広報本部」内の「学生受入部門」にて、大学全体の学生受入に関する新たな広報の企画・立案が検討され、基本方針が示された。これを受け、広報部会では具体的な実施方法を練り、実際に広報業務を行うという形態になり、機能分担する体制となった。

4.5 入学者の選抜方法改善と追跡調査

前年度入試の実施状況等については、受験産業による報告会を学内で複数回実施して最新動向の把握を行った。これらで得た情報に、本学で実施した各種アンケートや入学後の成績等の追跡調査結果も加えて、平成29年9月下旬から10月上旬に、入学者選抜方法研究報告に関して各学部学科等に対しヒアリングを実施した。このヒアリング時の回答内容等を加えて、平成29年12月に学生受入センターとして入学者選抜方法研究報告書を作成し、次年度以降の入試改革に役立てることとした。

4.6 その他

平成29年6月発足の「学生受入部門」にて、大学全体の学生受入に関する新たな広報の企画・立案が行われ、基本方針が示された。これを受け、今年度の「群馬大学1日体験デー『GU'DAY2017』」の実施体制の問題点、改善点等を「学生受入部門」にて整理し、検討した。その結果、来年度、平成30年度の「群馬大学オープンキャンパス『GU'DAY2018』」は、開催期間の間隔を空けて2回実施（7月と8月の計2日の開催）し、実施内容は学生広報大使から有志を募り、企画チームとして、企画段階から携わってもらう体制で実施する改善方針を決めた。この改善方針を広報部会でも了承し、具体的な実施方法と調整、その広報業務を行うこととした。

資料

資料4-1：平成29年度 入試広報活動実績

資料4-2-1：平成29年度 群馬大学及び学部別オープンキャンパス参加者数

資料4-2-2：平成29年度 群馬大学1日体験デー「GU'DAY2017」イベント別参加者数

資料4-3：群馬大学1日体験デー「GU'DAY2017」(7/9)参加者アンケート結果(抜粋)

平成29年度 入試広報活動実績

1. 群馬大学1日体験デー「GU'DAY 2017」

開催日	会場(参加者数)	主な対象者	主催
7月9日(日)	荒牧キャンパス (1,224名)	高校1、2年生	学生受入センター

2. 各学部オープンキャンパス

開催日	イベント名(参加者数)	主な対象者	主催
7月17日(月・海の日)	教育学部オープンキャンパス (801名)	高校2、3年生	教育学部
7月22日(土)	理工学部オープンキャンパス (635名)	高校2、3年生	理工学部
7月23日(日)	理工学部オープンキャンパス (1,024名)	高校2、3年生	理工学部
7月27日(木)	医学部医学科オープンキャンパス (343名)	高校2、3年生	医学科
7月29日(土)	社会情報学部オープンキャンパス (710名)	高校2、3年生	社会情報学部
8月9日(水)	医学部保健学科オープンキャンパス (1,006名)	高校2、3年生	保健学科
9月10日(日)	理工学部オープンキャンパス (456名)	高校2、3年生	理工学部

3. 高等学校等の教員を対象とした群馬大学説明会

開催日	会場・参加高等学校数・参加者数	主な対象者	主催
6月29日(木)	荒牧キャンパス・54校 92名	進路指導担当教諭等	学生受入センター

4. 大学説明会・進学相談会

開催日	実施場所	主な対象者	主催
4月～3月	筑波大学附属坂戸高校 外76会場	高校生、保護者、教諭	学生受入センター 各学部

5. 出張模擬授業等

開催日	実施場所	主な対象者	主催
5月～3月	白鷗大学足利高校 外72校	高校生、教諭	学生受入センター 各学部

6. 高校訪問

訪問日	訪問先	主な対象者	主催
5月～12月	秦野高校 外141校	進路指導教諭	理工学部
9月	前橋商業高校	進路指導教諭	社会情報学部

7. 群馬大学見学

実施日	来学校	主な見学者	対応
5月～3月	岡谷工業高校 外36校	高校生、教諭	学生受入センター 各学部

※説明会等の件数は、延べ数

平成29年度 群馬大学及び学部別オープンキャンパス参加者数

(単位:人)

区 分	開 催 日	参 加 者		
		29年度	28年度	比較増△減
群馬大学1日体験デー 「GU'DAY」 (荒牧キャンパス)	7月9日(土)	1,224	1,364	△ 140
			1,636	△ 1,636
	小 計	1,224	3,000	△ 1,776
※平成28年度は、「群馬大学オープンキャンパス」として、学部を分けて2日間で開催				
教育学部 オープンキャンパス (荒牧キャンパス)	7月17日(月)	801	720	81
社会情報学部 オープンキャンパス (荒牧キャンパス)	7月29日(土)	710	323	387
医学部医学科 オープンキャンパス (昭和キャンパス)	7月27日(木)	343	339	4
医学部保健学科 オープンキャンパス (昭和キャンパス)	8月9日(水)	1,006	1,110	△ 104
理工学部 オープンキャンパス (桐生キャンパス)	7月22日(土)	635	687	△ 52
	7月23日(日)	1024	719	305
	9月10日(日)	456	442	14
	小 計	2,115	1,848	267
合 計		6,199	7,340	△ 1,141

平成29年度 群馬大学 1日体験デー「GU'DAY2017」イベント別参加者数

1. 当日参加者総数(同伴者含む)

参加者数	申込に対する割合(%)
1,224	109.9

2. 全体イベント参加者数

イベント名	参加者数	参加率(%)	
GFL紹介コーナー	16	1.3	
女子カフェ	113	9.2	
グローバルカフェ	27	2.2	
イングリッシュカフェ	13	1.1	
海外留学について	16	1.3	
英語「多読」教材紹介	20	1.6	
教養教育英語の体験授業	59	4.8	
在学生による大学生生活トークショー	114	9.3	
キャンパスツアー	147	12.0	
相談コーナー	106	8.7	
キャリアサポート室来室者	22	1.8	
保護者向け説明会	96	7.8	
サークル・部活体験・見学	茶道部	81	6.6
	落語・コント研究会	66	5.4
	Origin折紙研究会	77	6.3
学生食堂(おおよその利用者数)	800	65.4	

※「参加率」は当日参加者総数(1,224人)からの割合。

3. 学部イベント参加者数

学部名	イベント名	参加者数 ()はうち生徒数	参加率(%)
教育学部	学部紹介「教育学部ってこんなところ」	199 (122)	16.3
	体験授業「教育学部で学ぶこと入門」	93 (80)	7.6
	専攻別説明	259 (167)	21.2
	教員採用試験に向けたサポート及びその後の就職状況説明	44 (28)	3.6
	計	595 (397)	48.6
社会情報学部	学部紹介「社会情報学部ってこんなところ」	182 (107)	14.9
	体験授業「社会情報学部で学ぶこと入門」	67 (41)	5.5
	社会情報学部学生の体験紹介	69 (49)	5.6
	計	318 (197)	26.0
医学部 医学科	学部紹介「医学部医学科ってこんなところ」	150 (84)	12.3
	体験授業「医学部医学科で学ぶこと入門」	91 (49)	7.4
	医学生の世界へようこそ	106 (59)	8.7
	計	347 (192)	28.3
医学部 保健学科	学部紹介「医学部保健学科ってこんなところ」	175 (97)	14.3
	体験授業「医学部保健学科で学ぶこと入門」	138 (80)	11.3
	医療系学生の世界へようこそ:看護・検査編	224 (137)	18.3
	医療系学生の世界へようこそ:理学・作業編	99 (57)	8.1
	計	636 (371)	52.0
理工学部	学部紹介「理工学部ってこんなところ」	204 (126)	16.7
	体験授業「理工学部で学ぶこと入門」	79 (47)	6.5
	僕と私のキャンパスライフ (在学生の体験紹介)	67 (50)	5.5
	計	350 (223)	28.6
学部イベント参加数合計		2,246 (1,380)	

※「参加率」は当日参加者総数(1,224人)からの割合。

群馬大学 1 日体験デー「GU'DAY2017」(7/9) 参加者アンケート結果 (抜粋)

1. 参加申込者について(申込者データによる)

①申込者の希望学部 (複数回答あり。のべ数)

	H29. 7/9 (日)					
	教育学部	社会情報学部	医学科	保健学科	理工学部	未定
申込者数	231	109	117	190	147	54

②性別希望学部申込者数 (①の内訳)

	H29. 7/9 (日)					
	教育学部	社会情報学部	医学科	保健学科	理工学部	未定
男性	67	49	33	26	73	12
女性	164	60	84	164	74	42

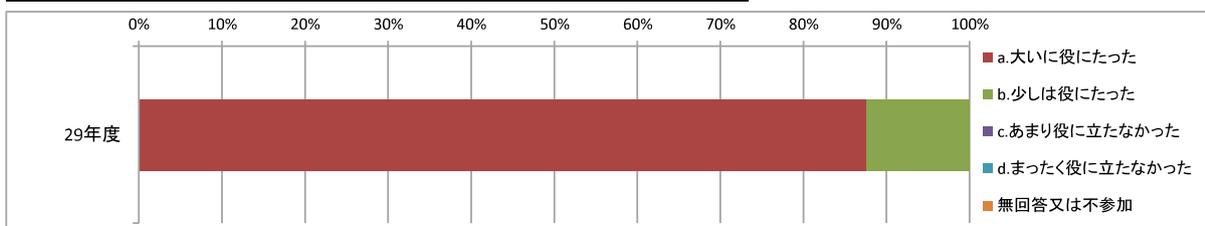
③学年別希望学部申込者数 (①の内訳)

	H29. 7/9 (日)					
	教育学部	社会情報学部	医学科	保健学科	理工学部	未定
高校1年生	95	39	57	84	54	32
高校2年生	122	58	49	97	86	22
高校3年生	10	9	4	5	2	0
中学生	0	0	4	0	2	0
その他	4	3	3	4	3	0

2. 参加者の感想等

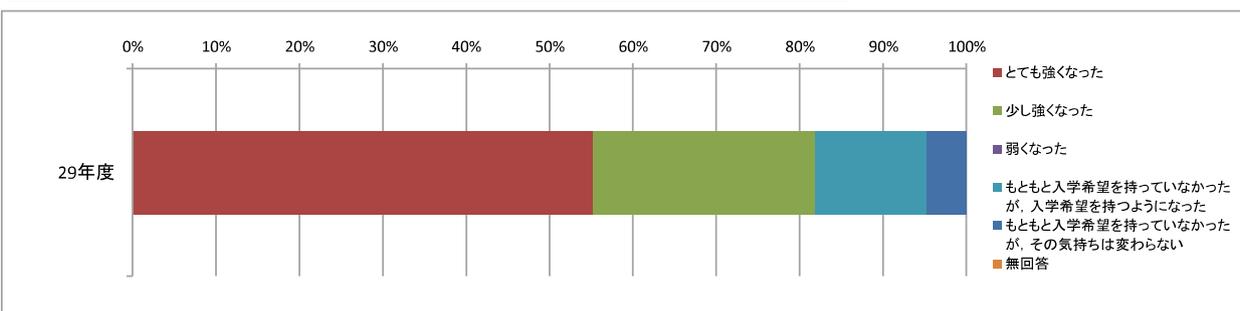
(1) 参加した学部イベント、全体イベントは進路選択の役に立ちますか

回答項目	a. 大いに役にたった	b. 少しは役にたった	c. あまり役に立たなかった	d. まったく役に立たなかった	無回答又は不参加
29年度	92	13	0	0	0



(2) 群馬大学への入学希望について

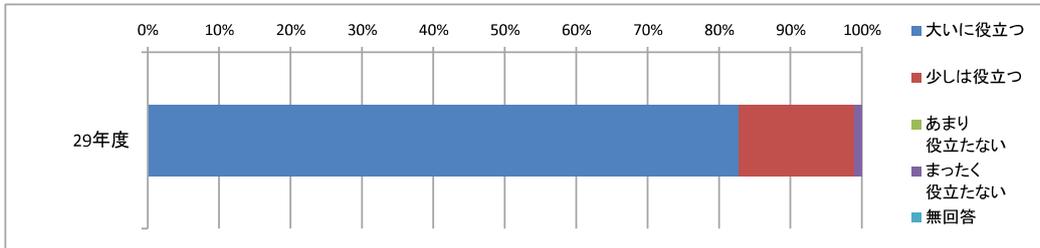
回答項目	とても強くなった	少し強くなった	弱くなった	もともと入学希望を持っていなかったが、入学希望を持つようになった	もともと入学希望を持っていなかったが、その気持ちは変わらない	無回答
29年度	58	28	0	14	5	0



3. 配付資料について

配付資料は進路選択の役に立ちますか

年度	大いに役立つ	少しは役立つ	あまり役立たない	まったく役立たない	無回答
29年度	87	17	0	1	0



5 健康支援総合センター

5.1 はじめに

健康支援総合センター（以降「センター」と表記）は、学生ならびに教職員の心身の健康の保持増進を図るため、学生健康診断やその事後措置としての助言・指導、健康に関する相談対応、感染症の流行情報の把握と予防教育活動、及び健康に関連した調査や研究を行っている。センターの活動は、大学を取り巻く環境が変化していく中で、確実に業務内容の拡充が求められ、それに応える形で着実に進められてきたが、さらなる時代の変化に基づく要請に応じ、以下の方針について確認を行った。

- ・教職員のメンタルヘルス対策を含む健康管理（平成27年12月施行 改正労働安全衛生法：ストレスチェック制度）の強化
- ・学内の円滑な連携に基づく学生のメンタルヘルス支援拡充
- ・障害学生支援室との協力強化（平成28年4月施行 障害者差別解消法）
- ・学外の医療・教育関係機関との連携による地域貢献活動の充実

5.2 平成29年度実施事業

5.2.1 学生定期健康診断の実施

平成29年度の学生定期健康診断は、資料5-1に示す日程で実施した。健診当日は、医学部附属病院の派遣協力による医師延べ28名（桐生地区派遣医師を含む）、派遣看護師延べ75名体制で滞りなく実施した。

受検状況は資料5-2に示すとおりであった。学部学生の受検率は前橋地区全体で93.4%（数値は「血压測定・尿検査・内科診察」を示す。以下同様）、桐生地区では全体で90.4%と良好な結果であった。学部別では教育学部97.1%，社会情報学部94.4%，医学部医学科82.2%，医学部保健学科96.2%，理工学部1年98.3%，理工学部・工学部昼間2年以上91.5%，工学部夜間主20.0%の受検率となった。1年生に関しては、教育学部100%，社会情報学部100%，医学部医学科97.3%，医学部保健学科98.2%，理工学部98.3%と例年と同様、ほぼ全員が受検した。資料5-3は、各検査結果について示したものである。要精検者については、医療機関への紹介状を作成し、円滑な受診につなげている。

5.2.2 精神保健調査の実施

各学部新入生、大学院新入生（医学系研究科生、保健学研究科生、理工学府生を除く）、特別支援教育特別専攻科新入生、編入生及びその他の学生（在校生）を対象に精神保健調査（スクリーニング検査）を行い、要面接者に対して、センター医師2名と非常勤臨床心理士及び附属病院精神科医師6名により、診断的面接を実施した。

方法は、メンタルヘルス質問票（平成29年度からは新入生、在校生ともに33項目に統一）を用い、抑うつ状態、気分変調、精神病像、食行動異常、生活支障度、相談希望、既往歴についてスクリーニングし、面接の要否を判定した。結果については資料5-4に示すとおりであった。要面接者は、新入生2.5%で昨年度よりやや減少、在校生においても1.9%と減少を認めた。年度により若干の差はあるが、メンタルヘルス不調の中核群の抽出は堅持されていると考えられ、早期診断やその後の支援に向けたフォローにおいても効果的に機能している調査であると考えられる。また、新入生については、「学校生活に関する困りごと調査」を実施した。前年度は4月に実施したが、入学時の調査ということもあり、「新入学にあたっての困りごと（入学に対しての不安）」という観点から回答しており、実際の学校生活が開始されて解消されたという学生が要面接者の約半数を占めていた。そのため平成29年度から

は6月の講義で実施、「相談を希望する」学生に対し、センター医師が面接を行なった。結果は資料5-4に示すとおりであった。

5.2.3 学生特殊健康診断の実施

特殊健康診断の受診対象者は、「常時使用する労働者」であり、教職員、非常勤職員であるが、学生も実習や実験研究を通じて、教員等と同様の環境下にあることから特殊健康診断の対象とすることが必要であると考えられる。このことから、平成26年度より「特殊健康診断を受診している教員の研究室に配属している理工学部4年生及び理工学府生、工学研究科生」、「作業環境測定結果が、第二及び第三管理区域であった研究室に配属している理工学部4年生及び理工学府生、工学研究科生」を対象に同健康診断を実施している。結果は資料5-5に示すとおりであった。受診者209名中、異常なし194名、要経過観察者5名、要精密検査者は10名であった。要精密検査の学生には、医療機関を受診し必要な検査を受けるよう個別指導を行った。

5.2.4 外国人留学生健康診断の実施

平成21年度から感染性肺結核の有無を検査するクオンティフェロンTBゴールド検査を実施している。結果は資料5-6に示すとおりであった。陽性者・擬陽性者16名については医療機関を紹介し、うち7名が潜在性肺結核として治療を開始した。

外国人留学生への結核を中心とした感染症等の対応については、千葉大学の健康管理センターの視察を行い、そこで得た情報をもとに、外部医療機関や地域の保健所（前橋）との更なる連携強化についても検討を開始した。

5.3 健康支援総合センター利用状況

5.3.1 利用人数及び件数

健康支援総合センター利用人数は、1,076名（年間延べ人数）であった。からだの健康相談、こころの健康相談、健康診断書の発行についての各件数を月別に集計した。結果は資料5-7に示すとおりであった。健康診断書については、そのほとんどが自動発行のシステムを利用して発行されており、所定の健康診断書への記入が必要であった99件に関してはセンターで発行した。

5.3.2 健康相談の対応内容別件数及びカウンセリング報告

健康相談を「からだの健康相談」と「こころの健康相談」に分けて月別に集計した。結果は資料5-8に示すとおりであった。救急車やタクシーによる救急転送は5件であった。さらに、こころの健康相談者数とその内容については資料5-9に示す。また、全4キャンパスでの臨床心理士による月別カウンセリング利用者数及び動機内訳を資料5-10に示した。カウンセリングの開設時間は、荒牧では週8時間、昭和では週2時間、桐生では週14時間であった。平成29年度からは利用者の減少にともない、太田キャンパスでのカウンセリングは閉鎖とし、希望者があった場合、桐生地区でのカウンセリングで対応することになった。なお、教職員に対するカウンセリングは17回（年間）行われた。学生本人だけではなく、家族や担当教員との面談や電話・メール相談も随時実施した。今後とも、センターで受ける健康相談数は増加することが予測され、センター医師や臨床心理士が対応する相談やカウンセリングに要する時間の増加は避けられないと判断される。

新たな問題として、外国からの留学生の増加とその日本語能力の平均的な低下に伴い、母国語を用いたカウンセリングの機会なども含めた留学生のメンタルヘルス不調への全学的な対応体制が求められている。留学生の中にはすでにメンタルヘルス疾患を有して来日するも

のもあるが、送り出し元の大学等からの医療情報が本学に届いていなかったケースや、留学後に発症しても、日本語での受診が出来ず、母国語での受診が必要になったり、あるいは自らの状態やそれにまつわる疾病への基本知識が不足していたりするために、周辺の医療資源を円滑に利用できなかったケースなどが生じていた。このことから喫緊の課題として、留学生の感染症問題(結核等：前述)と並び、メンタルヘルス不調への対応体制を、本学の受け入れ先学部や国際交流関連部門と連携して全学的に検討することが必要であると考えに至った。

5.3.3 疾病領域別利用者数

疾病領域別利用者数を月ごとに集計した表を資料5-11に示す。メンタル系症状に関連するものが圧倒的に多数を占め、次いで呼吸器系症状、外科・整形外科系症状に関連するものが多数を占めた。呼吸器系症状では、流行性の感冒によるものが多く、外科・整形外科系症状では、打撲や擦過傷や捻挫など外傷によるものが多く見られた。必要に応じ、医療機関を紹介した。メンタル系症状については、前年度からやや減少している。内科医・カウンセラーによる心理相談を行い、必要に応じてセンター精神科医が面接し医療機関を紹介した。

5.3.4 診療科別医療機関紹介件数

センターから他の医療機関への紹介件数は、延べ学生112件、教職員4件であり、結果は資料5-12に示すとおりであった。

5.3.5 薬剤別処方日数

健康支援総合センターで処方した薬剤の量を投与日数で集計した。結果は資料5-13に示すとおりであった。内訳については、総合感冒薬の処方が多く、次いで漢方剤、去痰剤、鎮咳剤の処方が多かった。

5.3.6 キャンパス・ソーシャルケースワーカーによる活動

キャンパス・ソーシャルケースワーカーの活動は、各キャンパスで教員からの要請に従い支援を行っている。平成29年度は桐生地区19名、荒牧地区8名の計27名の学生への対応の要請があった。事例から得られた経験を蓄積することで、更なる機能の向上をめざす。

5.4 教育関連活動

センターの医師は、教員として教養教育等の講義を担当している。新入生を対象とした教養基盤科目のスポーツ・健康「健康教育」について、傷病対策及びメンタルヘルス不調対策として、それぞれ90分の講義を5回(同一内容)行った。内科医からは「からだからのサインに気づく」と題して大学生に必要となる傷病対策についての講義を行い、精神科医からは「精神の健康」をテーマに発達障害を含めたメンタルヘルス不調全般について講義を行った。またそれとは別に、3月には学務部主催のクラブ・サークルリーダーシップ研修会において、「飲酒とタバコ 健康に関するルールとマナー」と題して60分間の講演を行った。更に、精神科医師は、非常勤講師として医学部医学科3年生臨床行動科学講義(「心の健康を保つには」)を行った。入学後のアルコールに関するトラブルを未然に防ぐ目的で、入学時オリエンテーションの際に新入生対象にパッチテストを用いたアルコール感受性についての講習を行い、体験を通じて各自のアルコールへの理解を深めた。また、教職員への教育啓発活動として平成30年3月6日に学生のメンタルヘルス不調への対応に関するFD講演を行った。

5.5 健康管理に関する調査研究活動

労働者健康安全機構平成29年度産業保健調査「群馬県におけるストレスチェック制度の検証と最新のメンタルヘルス対策マニュアルの作成」(研究代表者 竹内一夫)

5.6 健康支援総合センター主催の委員会等

下記の委員会等を主催した。

- 1) 平成29年度健康支援総合センター運営委員会(7月3日, 12月4日)
- 2) 平成29年度群馬県内大学等メンタルヘルス研究会「発達に問題を抱える子供をどう大学で受け入れるか」(講師 村田美和 高崎健康福祉大学人間発達学部助教)(講師 岡田恭典 群馬大学医学部附属病院小児科講師)(平成29年9月29日)
- 3) 群馬県内大学等保健管理担当者会議(9月29日, 平成30年1月26日)
群馬県内の大学, 短期大学, 高等専門学校の保健管理担当実務者及び事務担当者の出席により開催した。会議内容は, 研究集会の報告, 講義, 「健康ミニガイド」の作成, 情報交換などである。

5.7 健康支援総合センターの全国会議等出席

下記の全国会議等に健康支援総合センターの教職員が出席し, 最新の情報の収集を行い, センターの機能強化に役立った。さらに関係大学との情報交換を行い, 連携を深めた。

- 1) 第11回全国大学保健管理協会総会: 京都(6月29日) 副センター長が出席
- 2) 第55回全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会研究集会: 千葉(8月31日, 9月1日) 副センター長, 講師, 看護師が出席
- 3) 社団法人全国大学保健管理協会関東甲信越地方部保健・看護文化会運営委員会: 千葉(7月7日), 東京(9月14日, 平成30年1月24日) 看護師が出席
- 4) 平成29年度日本産業衛生学会関東地方会: 高崎(9月15, 16日) 副センター長が出席(案内, 座長)
- 5) 第55回全国大学保健管理研究集会: 沖縄(11月29, 30日) 副センター長出席
- 6) 平成29年度 国立大学法人保健管理施設協議会総会: 沖縄(12月1日) 副センター長がセンター長の代理で出席
- 7) 第39回全国大学メンタルヘルス研究会: 刈谷 愛知教育大学(12月14, 15日) 副センター長が出席
- 8) 第20回フィジカルヘルスフォーラム: 京都(平成30年3月15, 16日) 副センター長, 講師が出席

5.8 学内行事実施に伴う救護業務

下記の学内行事に教職員が救護活動を行った。

- ・社会情報学部スポーツ大会
- ・オープンキャンパス
- ・荒牧祭
- ・教育学部, 社会情報学部推薦入学試験
- ・大学入試センター試験
- ・個別学力検査(前期, 後期)
- ・学位記授与式

5.9 出版・広報活動

平成29年度は下記の出版，広報活動を行った。

- 1) 「健康ミニガイド2017～よりよいキャンパスライフを送るために～」を発行した。先に示した群馬県内大学等保健管理担当者会議が健康についての意識や知識を高めてもらうことを目的に共同で作成した冊子であり，新入生全員（1,198部）に配布した。
- 2) 「群馬大学 大学教育・学生支援機構報告書 健康支援総合センター」の平成28年度の原稿を作成して提出した。
- 3) 健康診断を受けた学生全員に健康支援総合センター案内用カードを作成配布した。
- 4) 群馬テレビ「ビジネスジャーナル」出演（副センター長）
6月2日（金）「職場のメンタルヘルス～改正障害者雇用促進法をめぐって」
- 5) 共著（副センター長）「シンプル衛生・公衆衛生学 2017」（南江堂），2017年，東京
- 6) 監修（副センター長）「衛生テキスト」（日本バーテンダー協会），2017年，東京

5.10 社会貢献活動

センターの医師は，専門性を生かして下記の社会貢献活動を行った。

【精神科医（副センター長）】

各種外部委員，嘱託医及び各関係機関からのコンサルテーション要請への対応

平成29年度 群馬産業保健総合支援センター相談員

平成29年度 群馬大学医学部非常勤講師（公衆衛生学，精神医学）

平成29年度 群馬地方労働審議会委員

平成29年度 前橋市教育委員会学校問題対策委員

平成29年度 群馬県障害者雇用対策プロジェクトチーム座長

平成29年度 埼玉県立常盤高等学校看護専攻科非常勤講師

平成29年度 全国大学保健管理協会評議員

平成29年度 全国大学メンタルヘルス学会理事

そのほか群馬県医師会，群馬県看護協会，群馬労働基準協会連合会，群馬職域メンタルヘルス交流会，日本産業カウンセラー協会，日本バーテンダー協会，子育て支援センターなどの要請に応じて各種講演や講義を行った。

【内科医】

嘱託医及び各関係機関からのコンサルテーション要請への対応

平成29年度 渋川看護専門学校非常勤講師

平成29年度 高崎市乳幼児健診事業 内科診察及び発達・発育相談

5.11 産業保健活動

産業保健活動に関しては人事労務課が統括しているが，平成25年度途中から荒牧・上沖・若宮地区に関しては健康支援総合センター医師2名（内科，精神科）が兼務する体制をとっている。昭和地区は医学部専任教員である医師1名が兼務しており，桐生・太田地区は桐生市医師会医師に依頼している。平成27年度からこれらの産業医の意見を集約するための産業医部会が発足した。

5.11.1 安全衛生委員会

荒牧事業場は内科医が出席し，毎月の職場巡視の報告を通じて，職場環境改善のための指摘を行なった（1回／月，8月を除く）。若宮事業場は，副センター長が2回出席した（含・職場巡視）。

5.11.2 産業医部会

産業医部会を年数回開催した。主に、本学のストレスチェック制度の実施について討議した。

5.11.3 職員の定期健康診断

人事労務課からの依頼を受け、若宮事業場及び上沖事業場の職場健診における内科診察を行った。全事業場に勤務する教職員の健診結果の判定及び個別結果の事後措置、医療相談についてはセンター内科医が対応した。

5.12 本来業務以外の支援業務

荒牧地区における医学部1年生へのB型肝炎ワクチン接種や教職員へのインフルエンザワクチン接種（任意）への依頼に関して、附属病院救急部など関係機関と連携を取り、実施体制や安全管理体制について明確化を行い、必要な人材を現地に派遣して対応した。

5.13 健康支援総合センターの現状及び今後の方向性

学生のメンタルヘルス不調、特に発達障害が疑われる学生への対応の要請がさらに増えており、修学が困難になるケースも多く認められ、更にきめ細かい支援が必要なケースが増えている。平成29年12月より専任の教員を障害学生支援室長として新たに迎え、障害学生サポートルームとの連携を強化し、個々のケースに対応する体制作りの見直しを開始した。また、メンタルヘルス不調学生の就職活動についても積極的な支援を開始した。本人はもちろん支援に関わる職員や教員と密に連絡を取り合い、情報を共有するシステム作りに取り組んできたが、キャンパス間でのスムーズな対応も含めての機能向上に向けた体制作りが急務である。

さらに、（特に日本語の不自由な）留学生の入学増加に伴い、感染症及びメンタルヘルス問題への対応が迫られているが、全学的な検討が未だ確立されていないため、担当部門との連携体制づくりが早急に求められている。

また、人事労務課の要請のもとに、教職員のメンタルヘルス対応体制の充実への協力を進めている。

5.14 健康支援総合センター資料集

- 資料5-1：平成29年度 前橋地区学生定期健康診断日程表
平成29年度 桐生・太田地区学生定期健康診断日程表
- 資料5-2：平成29年度 学生定期健康診断受検状況（前橋地区）
平成29年度 学生定期健康診断受検状況（桐生・太田地区）
- 資料5-3：平成29年度 学生定期健康診断結果
- 資料5-4：平成29年度 精神保健調査結果
- 資料5-5：平成29年度 学生特殊健康診断結果
- 資料5-6：平成29年度 外国人留学生健康診断結果
- 資料5-7：平成29年度 利用状況
- 資料5-8：平成29年度 健康相談の対応内容
- 資料5-9：平成29年度 ところの健康相談者数
- 資料5-10：平成29年度 臨床心理士による心理カウンセリング報告
- 資料5-11：平成29年度 疾病領域別利用者数
- 資料5-12：平成29年度 診療科別医療機関紹介件数
- 資料5-13：平成29年度 薬剤別処方日数

平成29年度 前橋地区学生定期健康診断日程表

受付時間 実施日	午 前		午 後		対象数(概数) 3,875名
	9:00~10:15 (75分)	10:15~11:30 (75分)	13:00~14:15 (75分)	14:15~16:00 (105分)	
4. 3(月)	医学部保健学科2年	医学部保健学科3年	医学部医学科2年	医学部医学科3年	午後320名 午後240名 + α
	予備日				合計560名 + α
4. 4(火) ※全学 オリエンテーション	医学部(医学科・保健学科)4年		社会情報学部2年	社会情報学部3年	午前775名 午後405名 合計1,175名
	医学部医学科5年				
	大学院(医学系, 保健学)2~4年		社会情報学部4年		
	医学部医学科6年				
4. 5(水) ※入学式	教育学部2年 (国語・社会・英語・ 数学・理科・技術)		教育学部3年 (国語・社会・英語・ 数学・理科・技術)		午前360名 午後330名 合計690名
	(音楽・美術・家政・ 保健体育・教育・ 教育心理・障害児教育)		(音楽・美術・家政・ 保健体育・教育・ 教育心理・障害児教育)		
	教育学部4年 (国語・社会・英語) (数学・理科・技術) (音楽・美術・保健体育) (家政・教育・教育心理・ 障害児教育)				
4. 6(木) ※学部別オリ エンテーション	医学部医学科1年		医学部保健学科1年 (検査・理学・作業)	医学部保健学科1年 (看護)	午前420名 午後340名 合計760名
			医学部医学科2年次編入生		
	教育学部1年 (国語・社会・英語・ 数学・理科・技術)		医学部保健学科3年次編入生		
			大学院(医学系, 保健学)1年		
			特別支援教育特別専攻科		
			大学院(教育学)1~2年		
4. 7(金)	理工学部1年 (機械知能システム) (環境創生)		理工学部1年 (化学・生物化学) (電子情報)		午前360名 午後330名 合計690名
	社会情報学部1年		(総合理工)		
	社会情報学部3年次編入生				
	大学院(社会情報学)1~2年				

※ 健康診断項目：既往歴・身体計測・血圧測定・検尿・胸部X線撮影・内科診察・アンケート

※ 健康診断会場：健康支援総合センター

- 1) 原則として割り当てられた日程で健康診断を受けてください。都合の悪い方は、予備日を利用して受けてください。
- 2) 健康診断を受けないと健康診断書の発行はできません。
- 3) 学部第1年生の健康診断日程については、当該年度の教養教育授業時間割により、同一健康診断日の範囲内で変更する場合があります。
- 4) 1年生の学籍番号は、英語プレイスメントテストのときに配付されます。
- 5) 理工学部総合理工学科(フレックス制)1年生で、夜間開講科目を履修する学生は、桐生キャンパスで実施する健康診断を受けることもできます。

平成29年度 桐生・太田地区学生定期健康診断日程表

キャンパス	検査項目	実施日	時 間	対象数(概数) 2,520人
桐 生 キ ャ ン パ ス	胸 部 X 線 撮 影 ・ 検 尿	4月11日(火)	9:00～11:30 13:00～16:00	2,420人
		4月12日(水)		
		4月13日(木)		
	内 科 診 察 ・ 計 測	4月18日(火)	13:00～17:00	
		4月19日(水)		
		4月20日(木)		
		4月21日(金)		
太 田 キ ャ ン パ ス	全 項 目	5月10日(水)	13:30～14:30	100人

- ・クラスごとの実施割振りは、平成29年度前期授業時間割表により決定する。
- ・授業の空き時間を活用し、全ての実施時間が授業と重なった場合は休講措置とする。

<健康診断項目>

- 4月11日～13日 胸部X線撮影・検尿・アンケート
- 4月18日～21日 既往歴・身体計測・血圧測定・内科診察
- 5月10日 胸部X線撮影・検尿・既往歴・身体計測・血圧測定・内科診察・アンケート

平成29年度 学生定期健康診断受検状況（前橋地区）

	対象者数	血圧測定・尿検査・内科診察		胸部X線撮影	
		受検者数	受検率	受検者数	受検率
学部合計	3,311	3,094	93.4%	3,093	93.4%
大学院等の合計	580	201	34.7%	197	34.0%
合計	3,891	3,295	84.7%	3,290	84.6%

対象者数は平成29年4月1日現在の学生数とし休学者は除いた。

受検率は小数点第二位を四捨五入

上記の他に、下記の38名が受検した。

教育学部12名【特別聴講学生10名、日本語文化研修留学生2名】

社会情報学部18名【研究生7名、特別聴講学生11名】

理工学部8名【4年生7名、大学院理工学府2年生1名】

<学部学生>

		対象者数	血圧測定・尿検査・内科診察		胸部X線撮影		
			受検者数	受検率	受検者数	受検率	
教育学部	1年	228	228	100%	228	100%	
	2年	230	226	98.3%	226	98.3%	
	3年	224	219	97.8%	219	97.8%	
	4年	238	220	92.4%	220	92.4%	
	合計	920	893	97.1%	893	97.1%	
社会情報学部	1年	109	109	100%	109	100%	
	2年	98	93	94.9%	93	94.9%	
	3年	122	112	91.8%	112	91.8%	
	4年	137	126	92.0%	126	92.0%	
	合計	466	440	94.4%	440	94.4%	
医学部	医学科	1年	113	110	97.3%	110	97.3%
		2年	129	111	86.0%	111	86.0%
		3年	138	90	65.2%	89	64.5%
		4年	120	97	80.8%	97	80.8%
		5年	105	78	74.3%	78	74.3%
		6年	125	114	91.2%	114	91.2%
		合計	730	600	82.2%	599	82.1%
	保健学科	1年	163	160	98.2%	160	98.2%
		2年	168	162	96.4%	162	96.4%
		3年	160	154	96.3%	154	96.3%
		4年	163	153	93.9%	153	93.9%
		合計	654	629	96.2%	629	96.2%
		合計	1,384	1,229	88.8%	1,228	88.7%
		理工学部	1年	541	532	98.3%	532
学部合計	3,311	3,094	93.4%	3,093	93.4%		

<大学院学生>

			対象者数	血圧測定・尿検査・内科診察		胸部X線撮影		
				受検者数	受検率	受検者数	受検率	
教育学研究科	修士課程	1年	28	27	96%	27	96%	
		2年	28	24	85.7%	24	85.7%	
	専門職学位課程	1年	13	1	7.7%	1	7.7%	
		2年	19	6	31.6%	6	31.6%	
教育学部特別支援教育特別専攻科			17	14	82.4%	14	82.4%	
合計			105	72	68.6%	72	68.6%	
社会情報学研究科	修士課程	1年	11	9	81.8%	7	63.6%	
		2年	13	7	53.8%	7	53.8%	
	合計	24	16	66.7%	14	58.3%		
医学研究科	医科学専攻	修士課程	1年	12	7	58.3%	7	58.3%
			2年	14	9	64.3%	9	64.3%
		博士課程	1年	46	18	39.1%	17	37.0%
			2年	54	12	22.2%	11	20.4%
			3年	62	13	21.0%	13	21.0%
	4年		108	11	10.2%	11	10.2%	
	合計	296	70	23.6%	68	23.0%		
	保健学専攻	博士前期課程	1年	50	27	54.0%	27	54.0%
			2年	57	10	17.5%	10	17.5%
		博士後期課程	1年	11	1	9.1%	1	9.1%
			2年	12	1	8.3%	1	8.3%
3年			25	4	16.0%	4	16.0%	
合計		155	43	27.7%	43	27.7%		
合計	451	113	25.1%	111	24.6%			
大学院等の合計			580	201	34.7%	197	34.0%	

平成29年度 学生定期健康診断受検状況（桐生・太田地区）

区 分			対象者数	内科診察・計測		胸部X線撮影・検尿	
				受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)
理工学部・工学部	昼間	2年	559	532	95.2	531	95.0
		3年	629	547	87.0	549	87.3
		4年	551	512	92.9	515	93.5
		昼間計	1,739	1,591	91.5	1,595	91.7
	夜間	4年	5	1	20.0	1	20.0
	学部合計		1,744	1,592	91.3	1,596	91.5
理工学府・工学研究科	修士	1年	333	318	95.5	322	96.7
		2年	324	304	93.8	307	94.8
		修士計	657	622	94.7	629	95.7
	博士	1年	21	9	42.9	9	42.9
		2年	25	10	40.0	11	44.0
		3年	40	16	40.0	16	40.0
		博士計	86	35	40.7	36	41.9
	大学院合計		743	657	88.4	665	89.5
合 計			2,487	2,249	90.4	2,261	90.9

※対象者数は平成29年4月1日現在の学生数(休学者を除く)

受検率は小数点第2位を四捨五入

上記の他に、研究生9名、交換留学生7名が受検した。

平成29年度 学生定期健康診断結果

(1) 身体測定

	受検者数	結 果									
		やせ				正常		肥満			
		BMI 17.0以下		BMI 17.1~18.6		BMI 18.6~24.9		BMI 25.0~29.9		BMI 30.0以上	
人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
教育学部	965	12	1.2%	78	8.1%	763	79.1%	90	9.3%	22	2.3%
社会情報学部	456	15	3.3%	53	11.6%	353	77.4%	25	5.5%	10	2.2%
医学部	1,342	16	1.2%	101	7.5%	1,113	82.9%	96	7.2%	16	1.2%
理工学部	532	27	5.1%	59	11.1%	382	71.8%	53	10.0%	11	2.1%
合 計	3,295	70	2.1%	291	8.8%	2,611	79.2%	264	8.0%	59	1.8%

(2) 血圧測定

1) 一次検査

	受検者数	結 果					
		正常血圧		高血圧疑い		低血圧症	
		人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	965	939	97.3%	17	1.8%	9	0.9%
社会情報学部	456	445	97.6%	6	1.3%	5	1.1%
医学部	1,342	1,311	97.7%	23	1.7%	8	0.6%
理工学部	532	521	97.9%	2	0.4%	9	1.7%
合 計	3,295	3,216	97.6%	48	1.5%	31	0.9%

2) 二次検査

	対象者数	結 果				医療機関紹介結果		
		正常血圧	経過観察	医療機関紹介	未受検	異常なし	経過観察	要治療
教育学部	17	14	2	0	1	0	0	0
社会情報学部	6	6	0	0	0	0	0	0
医学部	23	19	1	1	2	0	1	0
理工学部	2	2	0	0	0	0	0	0
合 計	48	41	3	1	3	0	1	0

(3) 尿検査

1) 一次検査

	受検者数	結 果		陽 性 項 目 内 訳			
		陽性者数	%	蛋白	潜血	蛋白・潜血	糖
教育学部	965	20	2.1%	4	13	0	3
社会情報学部	456	4	0.9%	1	1	1	1
医学部	1,342	20	1.5%	4	10	0	7
理工学部	532	5	0.9%	1	2	0	2
合 計	3,295	49	1.5%	10	26	1	13

2) 二次検査

	対象者数	結 果						医療機関紹介結果			
		異常なし	蛋白陽性	潜血陽性	蛋白・潜血陽性	糖陽性	未受検	異常なし	経過観察	要治療	結果報告なし
教育学部	20	15	1	2	0	1	1	0	3	1	0
社会情報学部	4	1	0	1	1	1	0	1	1	0	1
医学部	20	16	0	3	0	1	0	0	2	0	2
理工学部	5	4	0	1	0	0	0	0	1	0	0
合 計	49	36	1	7	1	3	1	1	7	1	3

(4) 胸部X線間接撮影検査

	受検者数	要 精 検		医療機関紹介結果			
		人数	%	異常なし	経過観察	要治療	結果報告なし
教育学部	965	14	1.5%	2	11	0	1
社会情報学部	454	2	0.4%	0	0	0	2
医学部	1,339	5	0.4%	2	3	0	0
理工学部	532	1	0.2%	0	1	0	0
合 計	3,290	22	0.7%	4	15	0	3

(5) 内科診察

	受検者数	要 精 検						医療機関紹介結果			
		心雑音		貧血(眼瞼結膜所見)		甲状腺腫		異常なし	経過観察	要治療	結果報告なし
		人数	%	人数	%	人数	%				
教育学部	965	3	0.3%	0	0%	0	0%	3	0	0	0
社会情報学部	456	3	0.7%	0	0%	0	0%	2	0	0	1
医学部	1,342	4	0.3%	0	0%	1	0.1%	2	3	0	0
理工学部	532	2	0.4%	0	0%	0	0%	1	1	0	0
合 計	3,295	12	0.4%	0	0%	1	0.03%	8	4	0	1

平成29年度 精神保健調査結果

(1) 新入生の精神保健調査

入学後の学生健康診断時に提出した「メンタルヘルス質問票(健康状態記録票)」を基に要面接者を抽出し、医師(センター常勤医師・附属病院精神科医師)及び臨床心理士で面接を行った。

	対象学生数	要 面 接		面接を うけた 学生数	結 果					要 面 接			
		人数	%		問題なし	随時の相談 を推奨	カウンセリング 継 続	医療機関 紹介	通院中	平成28年度		平成27年度	
										人数	%	人数	%
教育学部	229	3	1.3%	3	0	1	2	0	0	7	2.5%	10	3.6%
社会情報学部	131	5	3.8%	5	0	4	0	0	1	8	6.5%	9	6.8%
医学部	292	3	1.0%	2	0	1	1	0	0	3	1.0%	4	1.4%
理工学部	571	20	3.5%	13	5	5	3	0	0	19	3.4%	21	3.8%
合 計	1,223	31	2.5%	23	5	11	6	0	1	37	3.0%	44	3.5%

※これまでに精神科、心療内科、神経科に通院歴あり：41名(3.4%)

(2) 在校生の精神保健調査

学生健康診断時に提出した「メンタルヘルス質問票」を基に要面接学生を抽出し、医師(センター常勤医師・附属病院精神科医師)及び臨床心理士が面接を行った。

(対象学生は、質問票(在校生版)提出者とし、今年度から大学院入学生、特別支援教育特別専攻科を含めた。)

	対象学生数	要 面 接		面接を うけた 学生数	結 果					要 面 接			
		人数	%		問題なし	随時の相談 を推奨	カウンセリング 継 続	医療機関 紹介	通院中	平成28年度		平成27年度	
										人数	%	人数	%
教育学部	717	13	1.8%	6	2	4	0	0	0	19	2.9%	31	4.9%
社会情報学部	329	6	1.8%	4	1	1	2	0	0	6	2.0%	5	1.8%
医学部	1,026	13(1)	1.3%	10	0	5	2	2	1	8	0.8%	15	1.5%
理工学部	2,197	51(6)	2.3%	20	1	13	4	1	1	37(4)	1.7%	57(5)	2.7%
合 計	4,269	83(7)	1.9%	40	4	23	8	3	2	70(4)	1.7%	108(5)	2.7%

注：() は、通院中またはカウンセリング中にて、面接除外を希望した学生数で内数

※これまでに精神科、心療内科、神経科に通院歴あり：168名(3.9%)

(3) 追記:

質問内容

今年度(平成29年度)から、新入生用33項目版と在校生用19項目版の違いをなくし、33項目版に一本化して、抑うつ状態、気分変動、精神病像、食行動異常、生活支障度、相談希望、既往歴等をスクリーニングした。また、昨年度から、「相談を希望するか」の項目の回答選択肢を、従来の「希望する」「希望しない」の2択から、「相談するかどうか迷っている」という選択肢を加えて3択としている。

結果の分析

対象学生数は、新入生(1,223名;前年1,243名)、在校生(4,269;前年4,121名)で、新入生が微減、在校生がやや増加しているが、今年度からの用紙の一本化に伴って、大学院生・特別専攻科生を、新入生枠から在校生枠に移動したことの影響もあると思われる。要面接者(スクリーニング陽性者)の割合は、新入生は昨年度よりやや低い2.5%(31名)、在校生はほぼ同程度の1.9%(83名)となった。陽性者の実数自体は、対象人数の増加に伴ってやや増加している。一方、実際に面接を受けた者は、新入生は33名から31名とほぼ同程度、在校生は、44名から40名とやや減少していた。さらに、「これまでに精神科、心療内科、神経に通院歴のあるもの」の人数は、新入生では前年度で24名(1.9%)から今回は41名(3.4%)と増加していた。在校生については用紙の一本化に伴い、前年度までは「過去1年間」と質問した結果、77名(1.9%)であったが、今回より新入生と同様に「これまでに」と質問したところ、168名(3.9%)であった。両者合わせて3~4%の学生に通院歴のあることが示されている。面接結果について、新入生においては「問題なし」とされた割合は1/4と、前年度(1/3)に比べると減少しており、相対的に、「カウンセリング継続(新規)」「随時相談」の割合が(実数はやや減少しているが)やや増加していた。在校生においても「問題なし」とされた割合は1/9と、前年度(1/6)に比べて減少しており、「カウンセリング継続」はやや減少しているものの、「随時相談」が相対的に増加傾向にあり、カウンセリング業務の維持あるいは拡充の必要性が引き続き認められた。このほか、調査以降にセンターで相談や支援を実施することとなった学生は、発達障害圏の学生も多く、障害学生サポートルームと共同して支援にあたる頻度と時間数が右肩上がりに増加している。

面接実施状況について

面接については、荒牧地区では常勤医師(精神科医及び内科医)と臨床心理士で行った。桐生地区(太田キャンパス対象者含む)には、副センター長兼教授である精神科医師が2日にわたり赴いて実施した(今年度は14名;前年度とはほぼ同数)。非常勤臨床心理士は、荒牧昭和キャンパス、桐生太田キャンパスの定期相談日に、学生から希望があった場合面接を施行した。附属病院医師には、荒牧キャンパスに2週間にわたって順次来所していただき、新入生の面接をお願いした。

資料 5-5

平成29年度 学生特殊健康診断結果

特定化学物質及び有機溶剤を取り扱う学生を対象とする特殊健康診断を実施した。

実施日：平成29年12月5日(火)・6日(水)

受検者数	結 果		
	異常なし	要経過観察	要精密検査 (二次検査)
209	194	5	10

要精密検査(二次検査)項目内訳

尿蛋白	肝機能	白血球数
2	6	2

※要精密検査(二次検査)の学生には、医療機関を受診し検査を受けるよう指導した。

平成29年度 外国人留学生健康診断結果

本学では、過去に感染性結核症の外国人留学生3名に感染性結核症の発生を認めたため、第8回健康支援総合センター運営委員会(平成21年8月3日開催)において、外国人留学生への特別健康診断項目としてクオンティフェロンTB(結核感染診断マーカー検査)を行うことが決定された。以後現在に至るまで毎年検査を実施している。
例年は、各学部新入学の留学生は、秋入学の留学生と共に10月に検査を実施していたが、理工学部のみ2年次から修学の場合が桐生に移ることで、陽性者に対する経過観察が年度をまたぐ場合にその継続が困難になってしまうため、本年度より5月に検査を実施している。

1. 受検状況

	対象者数	受検者		※未受検者内訳
		人数	%	
教育学部	22	22	100%	
社会情報学部	26	26	100%	
医学部	16	16	100%	
理工学部	47	46	97.9%	帰国中1名
合計	111	110	99.1%	

対象者:学部および大学院1年生、学部3年次編入生、
平成29年4月以後に入学した研究生・聴講生・特別研究学生・特別聴講学生、昨年度未受検者

※未受検者1名は来年度の学生定期健康診断を受検するよう説明し、来年度の留学生健康診断対象者とした。

2. クオンティフェロンTBゴールド検査結果

	受検者数	陰性(-)		陽性(+)		疑陽性(±)	
		人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	22	21	95.5%	1	4.5%	0	0%
社会情報学部	26	24	92.3%	2	7.7%	0	0%
医学部	16	11	68.8%	4	25.0%	1	6.3%
理工学部	46	38	82.6%	4	8.7%	4	8.7%
合計	110	94	85.5%	11	10.0%	5	4.5%

※今年度 医学部1年クオンティフェロンTBゴールド陽性率0.7%

※陽性者・疑陽性者は医療機関を紹介。

【参考資料:過去3年間の留学生健康診断結果】

	受検者数	陰性(-)		陽性(+)		疑陽性(±)	
		人数	%	人数	%	人数	%
平成26年度	90	81	90.0%	7	7.8%	2	2.2%
平成27年度	77	71	92.2%	3	3.9%	3	3.9%
平成28年度	94	79	84.0%	8	8.5%	7	7.4%

※平成26～28年度 医学部1年クオンティフェロンTBゴールド陽性率 0%

3. 医療機関受診結果

	医療機関紹介者数	紹介結果		
		正常	潜在性肺結核として治療	経過観察
教育学部	1	0	1	0
社会情報学部	2	0	2	0
医学部	5	0	2	4
理工学部	8	1	2	4
合計	16	1	7	8

4. メンタルヘルス質問票による精神保健調査

	受検者数	問題なし		要面接者数	
		人数	%	人数	%
教育学部	22	21	95%	1	5%
社会情報学部	26	20	77%	1	4%
医学部	16	16	100%	0	0%
理工学部	46	46	100%	0	0%
合計	110	103	93.6%	2	1.8%

要面接者2名中1名は通院中、1名はセンター内科医が面談し、随時相談となった。

資料 5-7

平成29年度 利用状況

利用人数(学生・教職員)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧キャンパス	教育学部	32	53	42	32	16	6	48	69	15	13	10	7	343
	社会情報学部	17	32	40	34	13	17	32	17	14	10	7	8	241
	医学部	7	11	6	12	3	0	4	2	3	3	1	1	53
	理工学部	25	42	47	20	5	6	29	13	18	21	3	3	232
昭和キャンパス	医学部	13	6	8	8	6	5	4	5	13	4	1	1	74
桐生・太田キャンパス	理工学部	3	1	4	8	3	6	5	4	2	2	2	1	41
学 生 合 計		97	145	147	114	46	40	122	110	65	53	24	21	984
教 職 員		15	12	3	9	10	12	4	7	10	5	2	3	92
合 計		112	157	150	123	56	52	126	117	75	58	26	24	1,076

※昭和キャンパスで実施しているカウンセリングをうけた人数も含む。

利用件数(学生)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
からだの健康相談	56	85	87	58	18	6	51	32	25	22	7	6	453
こころの健康相談	35	59	56	45	28	33	46	27	39	28	15	11	422
健康診断書発行	7	1	4	11	0	1	25	51	1	4	3	4	112
合 計	98	145	147	114	46	40	122	110	65	54	25	21	987

利用件数(教職員)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
からだの健康相談	0	4	1	2	1	3	1	2	4	2	2	2	24
こころの健康相談	15	8	2	7	9	9	3	5	6	3	0	1	68
健康診断書発行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	15	12	3	9	10	12	4	7	10	5	2	3	92

資料 5-8

平成29年度 健康相談の対応内容

【学生】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
からだの健康相談	相談のみ（助言・指導）	5	4	8	5	2	0	3	5	1	0	0	4	37	
	外傷処置	2	5	3	10	2	1	2	5	4	1	0	0	35	
	検査	3	8	10	0	0	0	7	1	1	1	0	0	31	
	投薬	21	46	36	30	13	5	35	12	12	11	4	0	225	
	休養ベッド使用	6	15	11	11	1	1	4	0	1	1	2	0	53	
	健康・保健用器具貸し出し	3	5	3	2	0	0	3	1	0	0	1	0	18	
	医療機関紹介	18	18	23	9	2	0	6	5	6	8	0	2	97	
	救急転送	2	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
こころの健康相談	医師	メンタルヘルス相談	22	35	34	27	17	21	30	13	24	16	8	4	251
		カウンセラー紹介	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
		投薬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		医療機関紹介	3	2	1	2	0	0	2	2	1	2	0	0	15
	カウンセラー	カウンセリング	13	24	22	18	11	12	16	14	15	12	7	7	171
		精神科医（当センター）紹介	2	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	7
		医療機関紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		100	165	154	115	48	40	109	59	66	52	22	17	947	

※「こころの相談」の「カウンセラー」部分は、荒牧・昭和キャンパスで実施した結果を集計。

【教職員】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
健康相談	相談のみ（助言・指導）	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	外傷処置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	
	検査	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	投薬	0	1	1	0	1	1	1	0	4	1	2	0	12	
	休養ベッド使用	0	2	1	0	0	2	0	2	0	0	1	1	9	
	健康・保健用器具貸し出し	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	医療機関紹介	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	3	
	救急転送	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
こころの健康相談	医師	メンタルヘルス相談	15	8	2	7	9	9	3	5	6	3	0	1	68
		カウンセラー紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		投薬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		医療機関紹介	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	カウンセラー	カウンセリング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		精神科医（当センター）紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		医療機関紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		15	12	4	9	10	12	5	7	11	6	3	3	97	

※「こころの相談」の「カウンセラー」部分は、荒牧・昭和キャンパスで実施した結果を集計。

平成29年度 こころの健康相談者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧キャンパス	教育学部	5	16	14	9	8	4	7	5	10	5	3	2	88
	社会情報学部	5	18	20	18	10	14	15	7	5	8	7	7	134
	医学部	1	1	0	1	0	5	2	1	0	2	0	0	13
	理工学部	12	19	16	7	1	10	14	5	13	8	2	0	107
昭和キャンパス	医学部	10	4	2	3	6	0	3	5	10	3	1	1	48
桐生・太田キャンパス	理工学部	2	1	4	7	3	0	5	4	1	2	2	1	32
生 合 計		35	59	56	45	28	33	46	27	39	28	15	11	422
職 員		15	8	2	7	9	9	3	5	6	3	0	1	68
計		50	67	58	52	37	42	49	32	45	31	15	12	490

平成29年度 こころの健康相談者内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理性格	14	24	19	12	12	11	16	5	5	6	2	2	128
対人関係	14	12	12	16	4	10	16	15	9	10	4	4	126
心体の不調	17	24	23	19	9	12	12	9	23	13	8	6	175
修学	3	5	3	1	2	3	1	0	4	1	2	0	25
その他	3	2	3	4	10	6	4	3	4	1	0	0	40
合 計	51	67	60	52	37	42	49	32	45	31	16	12	494

1回の相談につき、相談内容が複数場合があります。

資料 5-10

平成29年度 臨床心理士による心理カウンセリング報告

～学生～

カウンセリング人数

実施キャンパス	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計	
	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数										
荒牧地区	4	1	8	2	11	2	10	1	7	1	6	0	6	1	5	1	5	0	6	1	3	0	3	0	74	10
昭和地区	7	5	2	0	2	0	0	0	1	0	2	0	1	0	2	0	5	0	1	0	2	0	0	0	25	5
桐生地区	17	6	20	9	27	8	21	3	15	2	15	3	22	10	22	3	20	4	16	1	19	3	16	3	230	55
合計	28	12	30	11	40	10	31	4	23	3	23	3	29	11	29	4	30	4	23	2	24	3	19	3	329	70

新規受付者数は内数

カウンセリング回数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧地区	6	21	20	19	10	10	15	11	7	10	5	7	141
昭和地区	7	3	2	0	1	2	1	3	8	2	2	0	31
桐生地区	24	32	44	32	21	18	31	36	30	26	27	22	343
合計	37	56	66	51	32	30	47	50	45	38	34	29	515

カウンセリング動機内訳

実施キャンパス	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計	
	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数										
心理性格	10	1	19	4	21	2	18	0	10	0	10	0	13	2	20	0	17	0	11	0	13	1	11	0	173	10
対人関係	6	1	12	2	11	1	17	2	7	0	12	2	18	1	13	1	6	0	10	1	4	0	7	1	123	12
心体の不調	7	5	18	3	24	3	11	1	9	1	7	1	7	2	15	3	15	2	11	0	9	0	7	1	140	22
修学影響心理等	12	3	6	1	4	3	4	1	4	1	1	0	8	5	2	0	6	2	4	1	8	2	4	1	63	20
その他	2	2	1	1	6	1	1	0	2	1	0	0	1	1	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	16	6
合計	37	12	56	11	66	10	51	4	32	3	30	3	47	11	50	4	45	4	38	2	34	3	29	3	515	70

新規受付者数は内数

カウンセリング動機内訳は複数の場合あり

～職員～

カウンセリング人数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
昭和地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
桐生地区	3	2	2	1	1	1	2	1	0	0	0	2	15
合計	3	2	2	1	1	1	2	1	0	0	0	2	15

カウンセリング回数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
昭和地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
桐生地区	4	3	2	1	1	1	2	1	0	0	0	2	17
合計	4	3	2	1	1	1	2	1	0	0	0	2	17

カウンセリング動機内訳

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生に関する相談	4	3	2	1	0	1	2	1	0	0	0	2	16
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	4	3	2	1	1	1	2	1	0	0	0	2	17

カウンセリング動機内訳は複数の場合あり

	荒牧地区	昭和地区	桐生地区	太田地区
鈴木 志津先生	火曜日8:30～17:15	金曜日13:00～17:00	木曜日13:00～17:00	
諸里 聡美先生			隔週月曜日11:00～15:00 水曜日11:00～15:00	
川合 利恵先生			隔週金曜日13:00～17:00	
畠山 正文先生			隔週月曜日13:00～17:00	
川合 利恵先生			隔週金曜日13:00～17:00	

平成29年度 疾病領域別利用者数

【学生】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	循環器系	1	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	呼吸器系	9	22	26	8	7	0	15	8	4	10	0	0	109
	消化器系	2	3	1	2	1	1	5	3	3	0	2	1	24
	腎臓系	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	4
	内分泌・代謝系	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	その他	11	17	14	17	4	1	10	5	5	5	1	1	4
精神科		35	59	56	45	28	33	46	27	39	28	15	11	422
外科・整形外科		8	17	21	16	3	2	9	9	7	6	3	0	101
脳神経外科		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
泌尿器科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科		2	3	5	0	0	0	4	0	0	0	0	1	15
眼科		1	3	5	2	0	1	1	1	0	1	1	0	16
皮膚科		13	9	9	11	3	1	6	3	4	2	0	0	61
歯科・口腔外科		4	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7
産婦人科		5	2	0	1	0	0	1	3	1	0	0	0	13
合計		91	145	143	103	46	39	97	59	64	49	22	17	875

【教職員】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	循環器系	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	呼吸器系	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	3
	消化器系	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
	腎臓系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内分泌・代謝系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	2	0	1	0	1	1	2	0	0	0	1	8
精神科		15	8	2	7	9	9	3	5	6	3	0	1	68
外科・整形外科		0	1	0	0	1	0	0	0	2	2	0	0	6
脳神経外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
歯科・口腔外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産婦人科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合計		15	12	3	9	10	12	4	7	10	5	2	3	92

資料 5-12

平成29年度 診療科別医療機関紹介件数

【学生】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	循環器系	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	呼吸器系	1	5	5	0	0	0	0	1	3	4	0	0	19
	消化器系	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	腎臓系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	内分泌・代謝系	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	その他	1	2	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	7
精神科		3	2	1	2	0	0	2	2	1	2	0	0	15
外科・整形外科		2	3	7	4	1	0	1	1	0	1	0	0	20
脳神経外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科		1	3	2	0	0	0	2	1	0	0	0	1	10
眼科		0	0	4	2	0	0	1	0	0	1	0	0	8
皮膚科		5	1	3	1	0	0	0	0	3	1	0	0	14
歯科・口腔外科		3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
産婦人科		3	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	6
合計		21	20	24	11	2	0	8	7	7	10	0	2	112

【教職員】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	循環器系	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	呼吸器系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	消化器系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腎臓系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内分泌・代謝系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
外科・整形外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
脳神経外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科・口腔外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産婦人科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	4

平成29年度 薬剤別処方日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
抗 生 剤	0	0	4	5	0	0	3	0	0	0	0	0	12
解熱・消炎・鎮痛剤	9	17	7	10	0	0	11	3	11	0	1	0	69
感 冒 剤	3	23	27	10	12	3	15	9	6	12	3	0	123
鎮咳剤	6	19	15	0	9	0	11	6	0	6	0	0	72
去痰剤	12	19	15	3	9	0	9	6	0	6	0	0	79
漢方剤	16	28	30	15	3	0	6	6	0	3	0	0	107
健胃剤・抗潰瘍剤	3	2	6	1	0	0	9	5	10	0	3	0	39
整 腸 剤	3	0	0	0	6	6	6	3	9	0	0	0	33
止 瀉 剤	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
鎮 吐 剤	0	0	0	0	3	3	3	4	0	0	0	0	13
抗アレルギー剤	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
※口腔内塗布剤	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
※外用副腎皮質ホルモン剤	5	3	4	5	1	1	5	1	1	0	0	0	26
※外用抗生剤	0	2	1	4	0	1	2	3	2	2	0	0	17
※外用抗ウイルス剤	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
※外用保湿剤	2	2	3	3	0	0	0	0	1	1	0	0	12
※外用消炎剤	2	21	13	5	2	2	8	10	5	5	3	0	76
※広範囲抗菌点眼剤	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
※抗炎症点眼剤	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
※人工涙液型点眼剤	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
※経口補水液	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
合 計	63	141	126	62	48	17	89	57	45	35	12	0	695

※の薬剤については、処方日数ではなく、個装単位とした。

6 教育改革推進室

教育改革推進室は平成28年度概算要求「地域と連携した教育体制の整備と展開」が予算措置されたことを受け、平成28年7月に、大学教育・学生支援機構の教育基盤センター及び教育企画室の改編とともに設置された。大学教育に関する、(1)教育実施体制及び教育方法、(2)地域と連携した教育、(3)社会ニーズを踏まえた教育プログラム、(4)アクティブラーニングに関する企画立案を行うことが業務となっている。

6.1 教育課程・学習成果に関する取り組み

各講義、演習等が学位授与の方針であるディプロマ・ポリシー、教育課程編成・実施の方針であるカリキュラム・ポリシーと整合するように、かつ、学生が主体的に学ぶ内容となるようにシラバスの整備を進めた。また、ポートフォリオシステムを導入して、学生が振り返りを通して学修目標を自覚しつつ、自学自習できるようにした。

各教員の講義、演習等に関する授業コンサルテーションを随時受け付けている。特に、アクティブラーニングの導入、推進についての相談活動を実施している。それと平行して、各学部・研究科等におけるファカルティディベロップメント（FD）を支援している。平成29年度は、理工学部FD講演会（平成29年6月6日）に筑波大学大学研究センター田中正弘准教授をお呼びして「自己省察を促すためのラーニング・ポートフォリオ-自らの学力を正しく自己評価できることを目標に-」という内容のご講演を頂く企画や、医学教育教授法ワークショップ（平成29年12月9日）で教育改革推進室による「教育評価の理論と実践」講演を行った。

さらに、学習成果を把握する一環として群馬大学全学卒業時アンケート調査（学部対象）、群馬大学全学修了時アンケート調査（大学院対象）を開始した。

6.2 内部質保証に関する取り組み

教育活動に関する適切な根拠（資料、情報）を収集するために、教学に関するインスティテューショナル・リサーチ（IR）の準備を開始した。各学部・研究科等から集めて分析すべきデータに関する意見を聴取して、入試データ、就職データ等を取り込むことが可能になるよう教務システムの改修に取り掛かった。

また、教育研究活動を推進、点検・評価する各学部・研究科等の組織-医学部医学科カリキュラム評価委員会、医学系研究科附属IRセンター設置準備委員会、数理データ科学教育研究センター運営会議、数理情報教育研究センターPT、大学教育・学生支援機構会議、大学教育センター学部教務委員会、大学教育センター大学院教務委員会、大学教育センター学部教務委員会教養教育部会、大学教育センター学部教務委員会教育推進部会、大学教育センター学部教務委員会外国語教育部会-において、教育のPDCAサイクルを機能させる取り組みについての専門的助言を実施している。

資料

資料6-1：シラバスを整備する背景、必要性、意義

資料6-2：教務システム内のポートフォリオシステムの活用について、ポートフォリオの意義（教職員向け）、群馬大学教務システム学生ポートフォリオについて

資料6-3：平成29年度医学教育教授法ワークショップ「教育評価の理論と実践」

資料6-4：群馬大学全学卒業時アンケート調査

資料6-5：群馬大学全学修了時アンケート調査

シラバスを整備する背景、必要性、意義

時代的背景

教育観の転換：自己分析・評価ができる人間の育成を行う教育が求められている。学生自身が行動し考えるようにしていく、学生主体の教育であることが必要となっている

認知的能力のみの養成を中心とした教育が限界となってきている。グローバル化、ICT、第4次産業革命の到来・進行という急激に変化してゆく時代、単なる知識はネットで獲得可能であり、一つの分野だけでは将来は立ち行かないという時代となっている。突出した能力を持つ人材の発掘が何故いま求められ、緊急の大きなテーマになっているのか。自ら主体的に学び続けられる人材の育成が我が国の将来を見据えたときに必要な課題となっている。（指示待ち人間はもはやロボット、AIに取って代わられる）

このことは既に H24 年の中教審答申でも、次のように述べられている。

生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。すなわち個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換によって、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を進めることが求められる。学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できるのである。

（中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」2012、p.9）

今、大学教育に要請されていること

1. 新たな3つのポリシーの策定の意味すること（大学教育の社会的認知）

教学のPDCAサイクルを回していく上での基本的理念として学位プログラム（3つのポリシー）を据え、それを充足・満足しているか否かをPDCAの基準として、教学の評価・点検を進めることを大学の使命として設定されている。

2. 継続的・自立的な内部質保証システムの構築（認証評価の最重点項目）

社会への大学の人材養成機関としての意義・価値の説明、その内容・実績の公表、また、どういう教育を行っているのか、を社会に対して説明を行うことにより、ステークホルダーたる国民からの（経済的）支援を受けることができる。（大学の存立の保証）

シラバスの意味

シラバス：カリキュラムポリシーを実行していく上での、学生との契約（学生便覧、入学時の授業科目課程表にしたがって履修が進むのと同様に）

契約書には、契約の内容（契約することにより発生する権利・義務）が明示されていないなければならない。そこで示されているべき事項は

- A. 科目選択、履修計画作成のための基本情報
- B. 授業を履修し、学習していく上での指針となる情報
- C. 成績評価、成績判定の基準についての情報
- D. 学習を進める上で必要な資料等の情報

この点に関して、中教審答申において、組織的な教育を実施していく上でシラバスが重要な位置を占めていることを以下のように指摘している。

組織的な教育の実施

体系的な教育課程に基づいて、教員間の連携と協力による組織的教育が行われること。往々にして大学の授業（授業科目）は個々の教員の責任に委ねられ、教員の専門性に引きつけた授業科目の設定が行われてきたが、学士課程教育の質的転換のためには、教員全体の主体的な参画による教育課程の体系化と並んで、授業内容やその実施に関わる教員の組織的な取組が必要である。

授業計画（シラバス）の充実

学生に事前に提示する授業計画（シラバス）は、単なる講義概要（コースカタログ）にとどまることなく、学生が授業のため主体的に事前の準備や事後の展開などを行うことを可能にし、他の授業科目との関連性の説明などの記述を含み、授業の工程表として機能するように作成されること。（中央教育審議会答申同上、p.15）

シラバス整備の学生にとっての意義

1. 教育を行なう上で、教育の効果（教育の成果）の分析・判定なくしては意味が無い
教員の独りよがりにならずに、学生が適正に理解し、適切な達成目標を学生が実現して、初めていい授業となる。授業科目の達成目標、評価ポイントについて学生自身の理解が必要で、その点の教員・学生の共通理解を産み出すものとしてシラバスはある。
2. 学生が自らの達成目標を設定し、自己分析・評価を行っていくための基礎的指針
シラバスに授業の達成目標、成績評価の基準が示されていることにより、何をしなければならないのか、何が足りなかったのかという振り返りを行う上での指針となる。

シラバス整備の大学としての意義

1. 各科目の位置づけの明示、教育目標との整合性の確認
各科目の達成目標がシラバスに記載されることにより、その科目のカリキュラムマップ上での位置づけを明確にでき、CP、DPと整合性はあるかを学科・学部のカリキュラム委員会などで組織的に点検し、見直しを進めていく上での基礎情報となる。
2. 授業・カリキュラム構成の見直し、教育改革の推進のため
学生が理解して初めていい授業であることから、教育効果の判定を行い、その評価（授業評価）にもとづいて教育方法の見直しをおこなうことにより、学科・学部の教育改革を進めることができる。
3. 群馬大学の教育改革の推進—教育の内部質保証システムの構築・実質化の一ステップ
カリキュラムマップ上で繋がる授業科目間の整合性を、組織（学科）内で検討し、改善していくことを続けることにより、教育の内部質保証体制の確立という、第3期における大学の認証評価の最重点項目に対しての本学としての対応ができる。
教育に対して、教員個人任せにするのではなく、組織（学科・学部）が責任を持って状況を把握し、問題点を改善していく体制を作っていくことが、本学にとって喫緊の課題である。

シラバス入力事項に関して（改訂された3つのポリシーとの整合性が必要）

（ポートフォリオシステムの活用をサポートする、シラバスの記入ガイド）

◎基本は、学生が読んだときに、この授業で学んで行く指針・目標が明らかになり、履修計画が問題なく立てられること

- ▶ 授業の目的：学生がその科目の履修を終えた段階で「・・・ができるようになる」というイメージを持てるような記述で、具体的な学習目的の記載とする
（「・・・の原理を理解し、・・・を説明できるようになることを目的とする」）
- ▶ 授業の到達目標：授業目的に即した評語（観点）についての到達目標（達成、向上）の記述（学生が主語：「***することができる」という記述）
- ▶ DP との関連：成績評価に関係する評語（観点）のそれぞれが、主として DP のどの項目に関係しているかの対応関係の表示（これにより、学生の自己評価、学習計画の策定が促される）
- ▶ 授業概要：授業で学ぶ内容の説明、関連情報（教員が何をするのかだけではなく、関連して学生が何をするのかも）
- ▶ 授業の形式：講義、グループ活動、フィールドワーク、試験、実験など（特に、アクティブラーニングに関係すること、学生の授業への参加の形についても記入）
- ▶ 授業スケジュール：15回分の授業計画の詳細、期末試験や中間試験のことなど（特に、学外学習等を行う場合は記載が必須）（保健学研究科のシラバスが参考になる）
- ▶ 授業時間外学習情報：予習・復習など自己学習についての指示(学則)（予習・復習が単位取得で必須のものであることの周知）(時間外学習時間の増加を図ること)
- ▶ 成績評価基準（授業評価方法）：（評語（観点）ごとに）どのような方法・基準で成績評価を行うのか（「・・・ができる」の意味の明示（ループリック等の使用が望ましい）、この基準は学生が達成度を自己評価し、自己学習を進める上での重要な指針）（出席を点数として入れるのは不可、「授業への積極的参加」として質的評価にする）
-
- ▶ 教科書・参考書に関する補足情報：Moodle 等による毎回の講義で使用する講義資料、プリント、演習課題等の情報。
- ▶ コース管理システム (Moodle) へのリンク：(Moodle の活用により、授業評価・アンケート・学生間の意見交換・質問等が可能なので、全学的にも一層の活用が望まれる)
-

注：学生が主語の形の表現になるので、記述の仕方として、「・・・ことができる」の前の動詞としては、以下のようなものがある

行う、列記する、列挙する、述べる、説明する、分類する、比較する、例を挙げる、関係づける、解釈する、予測する、選択する、推論する、公式化する、一般化する、使用する、応用する、適用する、演繹する、批判する、評価する、寄与する、協調する、示す、見せる、表現する、始める、系統立てる、参加する、反応する、 応える、配慮する、感ずる、始める、模倣する、熟練する、実施する、創造する、操作する、動かす、調べる、準備する、測定する、・・・など

シラバスの具体例 教養基盤科目「学びのリテラシー（1）」の場合

授業の目的

この授業では日本語による論理的な表現方法について学び、大学で学習するために必要な基本的な知識と技術を身につける。特に、「レポート」を書くために必要な「論理的思考能力」と文章を通じた「コミュニケーション能力」を高める方法を理解し、それを実践できるようになることを目的とする。

授業の到達目標

文章の骨組みを整えて、語順にも工夫したエッセイを書くことができる。
論理的思考のために必要な、ものの考え方の手続きを利用できる。
理工系におけるレポートの適切な構成について説明できる。
状況に応じて正しい敬語を使い分ける手紙や電子メールを書くことができる。

ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A 諸科学についての基礎的知識と理解 ○
- B 論理的・創造的思考力 ◎
- C コミュニケーション能力 ◎
- D 社会的倫理観・国際性 ○

（◎：特に重視する、○：重視する、△：評価対象、－：評価対象としない）

授業概要

エッセイを書くための基本的な日本語の表現技法を学ぶ。そのうえで、作文や小論文とは異なる理工系のアカデミック・レポートを作成するために必要な思考方法、文章構成を身につける。特に、実験レポートの書き方について習得する。最後に、大学の教職員や企業の方などとのコミュニケーションを行う際に必要となる敬語を使えるようにする。

授業の形式

演習と講義である。演習では3部屋（各部屋45名程度）に分かれて、実際に文章を作成するとともに、学生どうして相互に読みあわせを行う。

授業スケジュール

- 1：エッセイとレポートの違い（講義）
- 2：文節の役割、文の骨組み（講義）
- 3：語順の工夫（講義）
- 4：文章の要約・吟味・提案1（演習）
- 5：文章の要約・吟味・提案2（演習）
- 6：論理的思考1「問題」「結論」「理由」「事実」（講義）
- 7：論理的思考2「問題の連鎖」（演習）
- 8：理工系におけるレポートの構成（講義）
- 9：図表作成の技法（講義）
- 10：データ処理の技法（講義）
- 11：模擬実験レポート作成1（演習）
- 12：模擬実験レポート作成2（演習）

- 13：敬語の基礎（講義）
- 14：敬語を使った手紙と電子メール（演習）
- 15：授業のふりかえり（演習）

授業時間外学習情報

毎回、授業時間外学習課題が課される（授業時間 90 分に対して 180 分の予復習が必要である）。Moodle で次回の授業内容の予習を行うとともに、復習に相当する課題を翌週の授業時間までに提出すること。

成績評価基準

エッセイ（20 点）、論理的思考のための手続き（25 点）、レポートの適切な構成の説明（30 点）、手紙・電子メールを書く（25 点）

それぞれの対象に関するルーブリックを授業中に配布する。評価はルーブリックに基づいて行われる。

例）エッセイについての簡易ルーブリック

文章の構造（10 点）：

◎ 語順についての基本ルールが完全に守られている（10 点）> 語順についての基本ルールに一部誤りがある（5 点）> 語順についての基本ルールが守られていない（0 点）

◎ 意味があいまいな文の有無（10 点）：

あいまい文がまったくない（10 点）> あいまい文が一部存在する（5 点）> あいまい文が多く読み手の誤読を招く（0 点）

教科書・参考書に関する補足情報：

Moodle から毎回の講義で使用する講義資料、プリント、演習課題等を見ることが出来る。

コース管理システム（Moodle）へのリンク：

<https://mdl2.media.gunma-u.ac.jp/> * * *

教務システム内のポートフォリオシステムの活用について

<位置付け――何故、今導入が必要か>

第3期の中心的課題：教育の内部質保証の実質化

第3期中期計画 「教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置」

【17】教務システムをさらに拡充し、学生の各科目での成績、GPA、授業出席状況などの修学状況についての情報を統合化し、教員が共有して学生指導に活用できる体制を整備する。

【18】教員評価、FD活動、学生による授業評価及び在学生・卒業生の意見調査、学生との懇談会を定期的実施し、教育方法の改善、教育環境の整備に反映させる。なお、教員の学生指導や教員と学生の意見交換に ICT を積極的に活用する。また、教育内容・方法を改善するための学外者の意見を聴取する体制を導入する。

平成 28 年度計画

【17-1】教務システム等を活用し、学生情報の統合化により、積極的な学生指導を行う。

【18-1】FD活動、学生による授業評価、学生からの意見調査などを行うことを通して、教育方法を改善する。

【18-4】教員の学生指導や教員と学生との意見交換にコース管理システム（Moodle）等を利用する。

平成 29 年度計画

【17-1】教務システム等を活用し、学生情報の統合化により、積極的な学生指導を行う。また、ポートフォリオシステムの運用方法等を見直し、自学自習の促進及び適切な学生指導につなげる。

【18-1】FD活動、学生による授業評価、学生からの意見調査などを行うことを通して、教育方法を改善する。FD活動の強化を継続し、学生との定期的な懇談会などを通じて教員と学生の意見交換を活発化する。定期的な卒業生の意見調査の実施体制を構築する。

【18-4】オンライン学習管理システムの充実を図り、学生指導、教員と学生との意見交換、情報倫理 e ラーニング等、各種教職員向けの講習・研修等に ICT の積極的な活用を促す。

<導入目的>

振り返りを通じた学生自身の学修目標の自覚と自学自習の促進を基に、さらなる学生指導体制の充実を進めること

<教育効果>

教務システムの ICT 環境下で管理されたシステムのため、学生個人個人の受講科目全体のデータの統合ができる。DP と関連付けられたシラバスの整備を進めることにより、学期・学年単位で履修状況、その達成度が可視化できる。それにより、以下の効果が期待できる。

- ① 学修過程、学修成果を記録し、客観的に示すことにより自らの課題を自覚
- ② 学修達成状況についての自己点検・自己評価から自学自習の促進の動機付け
- ③ 達成度自己評価による学修意欲の喚起と課題の発見
- ④ 進捗状況の把握、適時のコメントを通じた指導教員との意思疎通の促進

<紙ベースのポートフォリオではなぜだめなのか>

- ◎他のデータとの統合、編集が困難
- ◎音声や写真、動画への対応ができない
- ◎保存・保管時に散逸しやすく、欲しいポートフォリオを探すのが困難

<運用について>

- ① ポートフォリオの教育効果の成否は、指導教員を中心とした教員の理解と学生へのアプローチの努力に依存（指導教員からの適時、適切なコメント）
- ② 各科目のシラバスには、その科目と学科・専攻等の DP との関連付けを示す評価ルーブリックを提示し、達成度の自己評価の指針とする（具体例を何点か提示）
- ③ Moodle との併用（e ラーニングの展開、授業アンケートや学生の疑問への対応）による効果アップ
Moodle は各科目について、講義資料の配布、レポート提出、小テストの実施、グループディスカッションの実施、アンケートの実施ができ、個々の授業を通じた ICT 環境での学生指導が可能

<セキュリティについて>

ポートフォリオシステムは教務システムに組み込まれているので、教務システムと同等のセキュリティレベルを持っている。

ポートフォリオの意義（教職員向け）

2017年4月14日

二宮 祐（大学教育・学生支援機構 教育改革推進室）

○ 教育評価とは

教育において評価は重要な営みです。一般的には、評価とは学期末に行う成績評価を意味するかもしれませんが。しかし、学生の成長を促すためにはその他の評価も必要になります（田中 2008）。

教員による学生に対する評価として、第1に「診断的評価」が挙げられます。これは入学時、年度開始時、授業開始時において、学生の能力、経験、期待等を把握するために行う評価のことです。授業を本格的に始める前に学生のことを知ることで、授業内容、方法、計画等を見直すことができます。第2に「形成的評価」が挙げられます。これは授業過程において、学生に対して成長の手助けとなるようなフィードバックを行うことです。何ができるようになっていて、何ができていないのかを明確にして学生に伝えます。また、そのことを通じて教員自らが反省して、授業を途中で改善することができます。ただし、これはあくまでも途中の評価なので、成績評価に使うことはできません。第3に「総括的評価」です。これは最終的な成績評価のことです。学生にとっては目標をどれだけ達成できたのかの目安であり、教員にとっては「形成的評価」と同様に反省のための資料となります。

そして、重要な評価のもう一つは学生による「自己評価」です。自分の学習についてあたかも第三者のように間主観的に評価して、それにより次の学習を調整することが可能になります。「メタ認知」や「(セルフ) モニタリング」とも呼ばれることもあります。自分で何ができるようになっていて、何ができていないのかを把握することが大事だと言われています。ポートフォリオはこの「自己評価」のために用いられるものであり、教職員がフィードバックする場合には「形成的評価」にも役立てることができます。

○ 評価についての考え方

こうした評価についての考え方は、「心理測定的パラダイム」と「オルタナティブ・アセスメントのパラダイム」で整理されるといいます（松下 2012）。表1はそれをまとめた

表1 評価の2つのパラダイム（出所：松下 2012）

	心理測定的パラダイム	オルタナティブ・アセスメントのパラダイム
学問的基盤	心理測定学	構成主義、状況論、解釈学など
評価目的	アカウンタビリティ、質保証	教育改善・指導、学生の成長
評価対象	集団	個人
評価機能	総括的評価	形成的評価
評価項目	分割可能性	複合性
評価場面	脱文脈性、統制された条件	文脈性、シミュレーション、真正の文脈
評価基準	客観性	間主観性
評価データ	量的データ	質的データ
評価主体	評価専門家、政策担当者	実践者自身
評価方法	標準テスト、学生調査など	真正の評価、ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価など

ものです。学期末における筆記試験、レポート課題や学生を対象としたアンケートなどは「心理測定学的パラダイム」に基づくものです。教員や評価の専門家が量的データを客観的に評価するという特徴があります。それらを補うものとして、「オルターナティブ・アセスメントのパラダイム」に基づく評価の方法があります。このパラダイムは「標準テストを代替したり、補完したりするようにデザインされたさまざまな評価方法」の総称です。学生が質的なデータを間主観的に「自己評価」するものです。従来の評価からすれば曖昧で心もとないように思えるかもしれませんが、ともすればできなくても問題ないと諦めさせて次の行動に結び付かない他者からの「総括的評価」の弱点を穴埋めすることにつながります。

○ ポートフォリオとは

ポートフォリオのものと意味は「紙ばさみ」のことです。芸術家や記者が自らを売るときに使うファイルやスクラップ帳などを指しています。たとえば、画家であれば、作品、個展の案内状、新聞や雑誌に掲載された批評などを綴じこんでおきます。それを見れば、その画家のことがよくわかるのです。日本においては、初等中等学校に数値化することの難しい、多面的な評価を必要とする「総合的な学習の時間」が2000年から段階的に導入されたことを契機として、ポートフォリオが普及するようになりました（西岡ほか編 2015）。教育機関におけるポートフォリオには、教員が教育実践を記録するティーチング・ポートフォリオ、それに研究業績や社会貢献を加えたアカデミック・ポートフォリオやファカルティ・ポートフォリオ、そして、学生が学習を記録するラーニング・ポートフォリオ等があります。すべて教員、学生の「義務」としてではなく、様々な目標に対する達成を根拠に基づいて他者に説明したうえで、正当な評価を受けるための「権利」として利用されることが想定されています。ここでは、ラーニング・ポートフォリオに焦点を絞ってその概要を紹介します。

2008年の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」（通称学士課程答申）において、「学生が、自らの学習成果の達成状況について整理・点検するとともに、これを大学が活用し、多面的に評価する仕組み（いわゆる学習ポートフォリオ）」の導入が提案されました。この答申は「(教員が) 何を教えるか」よりも「(学生が) 何をできるようになるか」

に力点を置く国際的な大学教育の潮流を指摘したうえで、学習成果の明確化を求めています。学生が多様な活動を通じて得た成果を評価するために、学修履歴等の記録と自己管理のためのシステムを開発する

表2 教授パラダイムと学習パラダイムの対比（一部抜粋）（出所：溝上 2014）

	教授パラダイム	学習パラダイム
役割と目的	授業を提供すること	学習を産み出すこと
	教員から学生へ知識を伝えること	学生の発見や知識構成を引き出すこと
	授業科目とプログラムを提供すること	力強い学習環境を創り出すこと
	授業の質を改善すること	学習の質を改善すること
学習理論	知識の固まりが教員によって分割されて伝達される	知識は構成され、創出され、「獲得される」もの
	学習は蓄積され直線的なもの	学習は入れ子式で、相互作用的な枠組みを持つもの
	知識メタファーの貯蔵庫に合致	自転車の乗り方を学習するメタファーに合致
	学習は教員中心でコントロールされるもの	学習は学生中心でコントロールされるもの
	教室と学習は競争的で個人主義的である	学習環境と学習は協同的で、協動的で、支援的である

ことが重要であると指摘しています。表2は20世紀後半以降の「教えるから学ぶへ（from teaching to learning）」の教育に関するパラダイム転換をまとめたものです。学生の立場になると、学習は教室内だけで行われているわけではなく、知識は着実に積み重ねられるというわけでもないということへの着目が促されています。

ポートフォリオが必要であるという考え方は1980年代後半の米国における「真正の評価」（Authentic Assessment）論に基づくものであるといわれます（土持 2009）。当時の米国では教育機関は説明責任を果たすべきであるとされ、そのために心理測定学に基づく「標準テスト」が開発、多用されました。しかしながら、そのテストでは多様であるはずの能力のうちの一部しか評価することができず、とりわけ、卒業後に生活、労働するための能力を対象とすることはできていないという批判が生じました。そこで、教員によるティーチング・ポートフォリオ、アカデミック・ポートフォリオの導入と合わせて、学生によるラーニング・ポートフォリオが必要であるといわれるようになりました。筆記試験、レポート課題によって身に付けた知識が教員から評価されるのと同時に、ラーニング・ポートフォリオによって、なぜ、何を、どのように学んで、どのように活用するのか、そして、どのように成長したのかと、学生が「自己評価」を行います。大人が市民生活や職業生活の中で知識や技術を活用して生きていくときに、必ずしも他者から明確な評価を受けるわけではなく、「自己評価」を行うことで日々の活動を調整するのと同じなのです。

ポートフォリオの研究を進めているズビサレタによれば、学習がもっとも活性化されるのは、reflection（省察）、documentation（証拠になる書類）、collaboration（協力）の3つが揃うときであるといえます（Zubizarreta 2009）。とりわけ、reflectionが重要です。学習プロセスを省みることで、能動的学習が促されます。教育評価の研究者であるサスキーも同様に、reflectionを重視します。reflectionはより自分に適した学習の方法やその管理について深く考える「メタ認知」と、これまでに学習したことをまとめて全体像を掴む「統合」とを促進するといえます（Suskie 2009）。ポートフォリオは学生が主体的に学習を進めるうえで有効とされているのです。

○ ポートフォリオの導入事例

各大学でポートフォリオの導入が進んでいます。ここでは、2つの大学の事例を紹介します。

金沢工業大学では「KITポートフォリオシステム」というシステムがあります。学生が自ら目標を設定して、活動したことやその成果をポートフォリオに記録します。そして、目標への達成度を自己評価して、次の活動計画を作成することになっています。このシステムは「修学ポートフォリオ」「自己評価レポートポートフォリオ」「キャリアポートフォリオ」「プロジェクトデザインポートフォリオ」「達成度評価ポートフォリオ」から構成されています。特徴的なことは、全学必修科目である「修学基礎」という授業で「修学ポートフォリオ」に取り組む点です。「今週の優先順位と達成度」「出欠席遅刻の状況：科目名とその理由」

「学習の状況：科目名、資格名、時間数」「課外活動：教育施設、クラブ活動、アルバイト、時間数」「健康管理：朝昼夜の食事摂取、睡眠時間、積極的な運動時間」「1週間で満足したこと、努力したこと、反省点、日常生活で困ったこと」を毎週記録して、修学アドバイザー（クラス担任）に提出します。修学アドバイザーはコメントをつけて返却します。学生が目標の達成度を確認して、能動的な学習スタイル・生活スタイルを身につけることが期待されています。「形成的評価」と「自己評価」が行われています。

横浜国立大学では「YNU 学生ポートフォリオシステム：学びの通信簿」を導入しています²⁾。このシステムは群馬大学で導入されるものと同じものです。卒業時点で有すべき資質・能力である到達目標（YNU イニシアティブ）と学習成果の関係を可視化して、「学位」の質保証を図る仕組みとされています。「学習成果の可視化」に基づいて到達度を把握して、半期ごとに自身の「振り返りシート」を作成することで省察を行い、次学期に向けて取り組むべき課題を見つけるなど自ら学修計画を立てて、自律的な学修を進めることが期待されています。学生はポートフォリオを利用することで、大学生活で得た学習などの経験やその時々思い、成果を得るまでのプロセス等の蓄積、学習状況等を振り返ることにより、学習を深化させ、将来のキャリアデザインに活かすことが可能になるとされています。「自己評価」に焦点を絞った取り組みです。

○ ポートフォリオ導入の背景—内部質保証の必要性

ポートフォリオは大学教育の質保証に関係しています。大学進学率の上昇に伴って多様な学生を迎えるようになり、各大学においてそれに対応する教育が試行錯誤を繰り返して行われるようになりつつあります。また、グローバル化の影響により、日本の大学がいかなる教育を行っているのかを海外に向けて示す必要も生じてきています。同時に、財政当局が大学へ税を使って交付金、補助金を投入することに対して厳しい姿勢を取るようになり、大学が何をしているのかについての説明を求めようになっています。そのうえで、大学の質保証には次のような3つの目的があるとされます（早田 2015）。第1に、「大学」として必要とされる基準や要件を充足しているかどうかを判断し若しくは判定すること、第2に、上記のような基準や充足状況の確認の上で、大学の特質や要改善点を提示することを通じ、それぞれの大学の充実・発展を側面的に支援すること、第3に、上記2つの事項を社会に公表することによって、大学の社会への説明責任を全うさせ（＝アカウンタビリティの履行）、社会一般の人びとが、各大学の状況を多面的に把握できるようにすることです。

質保証には外部質保証と内部質保証があります。前者は認証評価機関等による第三者機関による評価により質の担保を図るものです。後者は大学自身の努力によって教育の営みについての保証の体制を構築するというものです。大学評価・学位授与機構（現在の大学改革支援・学位授与機構）が行う大学機関別認証評価では、「基準 8：教育の内部質保証システム」として大学が内部質保証システムを整備することを求めています。そのうえで、内部質保証システムを構成する要素として、以下の(1)～(8)を挙げたガイドラインが作成されて

います。(1)「内部質保証に関する全学の方針・責任体制」内部質保証に関する全学の方針を定め、責任体制を明確にしている。この全学的な方針のもとに、以下の(2)-(8)に示すそれぞれの質保証活動や個々の体制構築が行われる。(2)「教育プログラムの承認・定期的点検・改善」教育プログラムの新設の承認、定期的な点検・評価、改善を継続的に実施する体制や手続きを有する。特に、学生の学習成果を確保するという観点から、教育の取り組みの質と教育内容や授与する学位の水準について点検・評価を行う。(3)「教職員の点検・能力開発」教職員が適切な能力を有していることを確認するための点検・評価や、教職員の育成・能力向上のための方策を、継続的に実施する体制や手続きを有する。(4)「学習環境や学生支援の点検・改善」学習環境や学習支援・生活支援などの施策に関する点検・評価を行い、改善を継続的に実施する体制や手続きを有する。(5)「大学や部局の教育に関する目的・目標に対する点検・改善」大学や部局といった組織全体の教育に関する目的や中長期の目標・計画に対して、活動状況や進捗・達成状況の把握を行い、改善を継続的に実施する体制や手続きを有する。(6)「質保証への学生や外部者の関与」上記の各種の内部質保証において、学生や外部関係者が参加する、あるいはそれらの者の意見を聴取するような体制や手続きを有する。(7)「教育に関する情報の収集・分析」教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を適切に収集、蓄積し、分析を行い、その結果を利用するための体制や手続きを有する。(8)「教育情報等の公表」教育の質保証や消費者保護の観点から、入学志願者、在学生、保護者等に対して、教育プログラム等に関する正確な情報を定期的に公表する体制や手続きを有する。

注

1) <http://www.kanazawa-it.ac.jp/kyoiku/portfolio.html>

2) <http://www.ynu.ac.jp/career/ynu/portfolio.html>

参考文献

西岡加名恵 (2015) 『新しい教育評価入門一人を育てる評価のために』 有斐閣。

田中耕治 (2008) 『教育評価』 岩波書店。

土持ゲーリー法一 (2009) 『ラーニング・ポートフォリオ』 東信堂。

早田幸政 (2015) 『大学の質保証とは何か』 エイデル研究所

松下佳代 (2012) 「パフォーマンス評価による学習の質の評価—学習評価の構図の分析にもとづいて」『京都大学高等教育研究』 18。

溝上慎一 (2014) 『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』 東信堂。

Suskie, Linda (2009) *Assessing Student Learning: A Common Sense Guide, second edition*, San Francisco: Jossey-Bass.

Zubizarreta, John (2009) *The Learning Portfolio: Reflective Practice for Improving Student Learning, second edition*, San Francisco: Jossey-Bass.

学生の皆さん

副学長・理事（教育・企画担当）

窪田 健二

群馬大学教務システム 学生ポートフォリオについて

1. ポートフォリオとは？

これから皆さんが使うポートフォリオとは、皆さんの学修過程での各種の成果（学修計画、収集した資料、授業や実験・実習のレポート、課外活動、TOEIC 得点、単位取得状況など）を収集し整理したもののことです。学生生活の中で考えたことや感じたこと、経験したことや学修したことを、記録(証拠)として残し、人に見せられるようにするための仕組みです。

ポートフォリオはファイルやノートでもいいのですが、後日行う振り返り（これがポートフォリオを作ることの最大の目的です）や助言をもらうためには、紙のものよりは PC を使うほうが散逸してしまう心配も少なく編集や統合が便利なことから、これが一般的になってきています。本学のポートフォリオは教務システムの下にあり、履修した科目全体と関係付けられているので学修成果、達成状況がよく分かるようになっています。

ポートフォリオには、自分が何をしてきたのか、学生生活で何をしようとしているのか、卒業後にどうしたいのかなどについて書き留めていきます。「人に見せられるようにする」というのは、記録することで自らを客観的に見ることができるようにするためです。後日その記録を読み返し、自分の学修活動や課外活動のことなどを振り返り、次に向けての課題の発見、その計画や取組み方をデザインしていくことに使うことで、その価値を發揮します。記録に残す作業をすることで頭の中が整理され、自らの考えを客観的に評価・分析できるものにすることができます。

2. ポートフォリオをどのように作るか？(教務システムを使った学修活動記録の集積)

本学でのポートフォリオの作成には、「教務システム」の中にある「ポートフォリオシステム」を使います。「教務システム」のホームページから「ポートフォリオシステム」の登録画面に移ると、「一年を振り返って」、「成果について」、「将来に向けて」の3つの記入枠（過去、現在、未来）が出てきます。この3つに、定期的に（年度（学期）初めに）記入・記録していきます。

- ◆「一年を振り返って」では、以前の活動記録の点検を行います。同時に、当初の目標に対する活動状況について振り返りを行ない、問題点・課題などを摘出します。
- ◆「成果について」では、当初の目標に対する達成状況の自己評価を行います。レーダーチャートで示されるディプロマ・ポリシーに対する達成度評価も目安の一つになります。
- ◆「将来に向けて」では、達成状況の自己評価を基に、指導教員からの助言なども受けて、新年度（新学期）に向けての新たな目標設定と自分なりの方針の策定を行います。

これを定期的に繰り返していき、卒業時にまとめ・総括のポートフォリオを作成することにより、大学生活全体にわたる、「目標設定—学修活動—達成状況評価—助言も受けての新たな目標設定」という学修活動のサイクルを構築していくことになります。

3. ポートフォリオの使い方(そのメリット)

ポートフォリオを使うのは、あなた自身です。

◎達成状況の年度を追っての変化を見ることで、自分の成長を実感できます。

◎チューター、メンター、指導教員からアドバイスを受けるときの大切なデータになります。

◎自分の目標の達成のために必要なものが見えてきます。

◎進路選択の際の適性などについての自己判定の資料になります。

◎就職活動の際の、エントリーシートの作成や面接の際の貴重な資料になります。

振り返りの例

「2年生になるとき、1年生の学生生活を振り返ってみた。予定どおり部活は頑張れたけれども、英語力はあまり伸びなかった。2年生では英語に力を入れたい。TOEICの目標点数を決めて、来年にはそれを達成する。」

「就職活動のとき、それまでの学生生活を振り返ってみた。入学時にはやりたいことなんて決まっていなかった。2年生の冬、授業で参加したボランティアを通じて、私は人と接することが好きなことに気づいた。この経験をエントリーシートに書いてみたい。」

教務システムのポートフォリオ入力手順（学生用）

①教務システムのトップページから「ポートフォリオ」を選択します。

The screenshot shows the top navigation bar with 'ポートフォリオ' circled in red. Below it, there are several menu items and a main content area with a table.

②「ポートフォリオ」を選択します。

The screenshot shows the navigation menu with 'ポートフォリオ' circled in red.

③ポートフォリオメニューから「ポートフォリオ」を選択します。

The screenshot shows the 'ポートフォリオメニュー' page with 'ポートフォリオ' circled in red.

④「年度」を確認し「編集」を選択します。

The screenshot shows the 'ポートフォリオ' page with '2019年度' and '編集' circled in red.

教務システムのログインページはこちらから



モバイル用ですが項目名は同じです

⑤ポートフォリオを入力します。

The screenshot shows the portfolio input form with sections I, II, III, IV, and V. Section I is '一年を振り返って', II is '成果について', III is '将来に向けて', IV is '学習成果' (a table), and V is '学習成果掲載など'.

⑥内容を確認し、よければ「確定」を選択して終了です。修正があれば「戻る」を選択して修正できます。

The screenshot shows the bottom of the form with '戻る' and '確定' buttons.

平成29年度医学教育教授法ワークショップ「教育評価の理論と実践」

平成29年度 医学教育教授法ワークショップ 2017.12.9

教育評価の理論と実践

二宮 祐 (大学教育・学生支援機構 教育改革推進室)



1

1. そもそも評価とは何か
補論1. 「隠れたカリキュラム」—学生が学んでしまうもの
2. 成績評価
補論2. 「ゆとり教育」—経験主義と系統主義の揺れ
3. もう一つの評価方法
4. 評価の実践についてのFAQ—よくある質問



2

1. そもそも評価とは何か
1. 1. 辞書の定義

ひょうか【評価】〈スル〉
(1) 価値や価格を判断・決定すること。
(2) よいと判断すること。(三省堂ウェブディクショナリー)

ひょうか【評価】(名)スル
① 物の善悪・美醜などを考え、価値を定めること。
「死後に学説の-が高まった」
② 品物の値段を定めること。また、その値段。
「土地の-が年々上がる」 「-額」
③ 物の値打ちを認めてほめること。
「-できる内容の本」 (大辞林 第三版)

3

ひょうか【ヒヤウ-】【評価】【名】(スル)

- 1 品物の価格を決めること。また、その価格。ねぶみ。
「評価額」
- 2 事物や人物の、善悪・美醜などの価値を判断して決めること。
「外見で人を評価する」
- 3 ある事物や人物について、その意義・価値を認めること。
「評価できる内容」「仕事を評価する」
- 4 「教育評価」の略。(デジタル大辞泉)

辞書の定義によると、対象の価値を判断したり決定したりすること
その基準は客観的、主観的どちらもありそう

主観的なことがらをどのように扱えばよいだろうか

4

1. 2. 似ているけど違う事例

○世の中に溢れている評価

アマゾン
カスタマー
レビュー、
食ベログ、
雑誌による
大学ラン
キング等



5

○行政評価 (三好 2008)

種々の政策 (ポリシー)、施策 (プログラム)、事業 (プロジェクト)
←実施と効果を組織的に査定する
行政活動の内容と結果をよりよく知ることによって改善する
利害関係者 (ステークホルダー) に評価結果を報告する (≒説明責任)
説明責任: 資金や資源が意図通り、効果的に使用されたかどうか

○大学評価
自己点検評価、認証評価 (アクリティケーション)、国立大学法人評価等
機関を対象とするもの、プログラムを対象とするもの
大学評価も行政評価の一種

これらの評価と教育評価との違いとは何か?

6

評価の目的

- ① 大学機関別認証評価に関して、機構が定める大学評価基準（以下「大学評価基準」という。）に基づいて、大学を定期的に評価することにより、大学の教育研究活動等の質を保証すること。
- ② 評価結果を各大学にフィードバックすることにより、各大学の教育研究活動等の改善に役立てること。
- ③ 評価の実施プロセスを通じて、大学の教育研究活動等に関する内部質保証システムの確立・充実を図ること。
- ④ 大学の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、公共的な機関として大学が設置・運営されていることについて、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。（大学改革支援・学位授与機構「大学機関別認証評価実施大綱」）

7

1. 2. 教育評価とは一初等中等教育における歴史的経緯

「教育評価」の原語＝エヴァリュエーション（evaluation）
1920年代の米国で誕生した概念
それまでの「測定」（measurement）概念を批判するもの
「測定」：能力を生得的で固定的な量として捉える
客観テストで把握する

教育学者ラルフ・W. タイラーによる提案

- ①達成すべき「教育目的」の設定
 - ②その達成に役立つ学習を設定
 - ③効果ある指導のための学習を組織
 - ④学習の効果を評価
- 「教育評価」とは、教育目標がカリキュラムや学習指導のプログラムによって、実際にどの程度実現されているのかを判定するプロセス

8

第二次世界大戦後、「教育評価」概念が日本にもたらされる
しかし、「測定」との違いはほとんど理解されなかった
集団における順位によって成績をつける「相対評価」が採用される
「相対評価」は「測定」を起源としている

「教育評価」がその本来的な意味で採用されたのは2001年
学習指導要録において「**目標に準拠した評価**」が記載される
この評価方法は「教育評価」である

戦後、日本の大学においてはそもそもこのような議論は深まらない
成績評価はなんとなく相対評価だったり絶対評価だったりした
学生にとっては何が評価の対象になっているのかわからない
「答案を紙飛行機にして、一番遠くまで飛んだものをA評価とする」

9

1. 3. 4つの教育評価観（西岡ほか 2015）

○相対評価（集団準拠評価）

集団のなかでの相対的な位置・序列によって、他社との比較で評価
客観性を保持するために正規分布曲線が使用されることもある
（例、小学校の5段階相対評価：7、24、38、24、7%）
偏差値も同様

それに対する批判

「測定」の精神に則っていて、教育の観点が無い
学年毎の差、クラス毎の差を判断できない
それぞれの学習者の理解を無視しがちである
統計上の大数の法則に基づくもので数十人のクラスには適用できない

10

○絶対評価

タイプ1：狭義の絶対評価

絶対者としての指導者が暗黙の形で保持する評価基準に従って判断
戦前の「操行」、中世欧州の大学における学位、伝統芸能の資格

タイプ2：目標に準拠した評価

客観的な評価基準をあらかじめ設ける
自動車運転免許の試験

タイプ3：個人内評価

学習者の成長を継続的に評価する

学期始めには30点だったが、学期終わりには70点だった
数学は得意だけど国語は苦手

11

タイプ2の「目標に準拠した評価」について
その一つの方法「到達度評価」（中内 1971）

「到達目標－到達度評価」

到達目標を決める

学習者が獲得しなければならない内容を実体的に明示する

到達目標にはそれと関連する諸目標との間に構造と系統がある

その目標に対する到達度を評価する

教育者に対しても反省を促す

「方向目標－相対評価」

到達目標に対置される概念

ただ方向を示すだけで目標が示されている

例「科学的に思考する態度を養う」「科学への関心を高める」

集団での位置関係を示す相対評価しかできない

教育者は不問に付される

12

1. 4. 教育評価の機能

診断的機能 (diagnostic assessment)

学習開始前に、現時点での知識、興味・関心を把握する

形成的評価 (formative assessment)

指導の途中で行う

意図した通りの教育効果がもたらされているかどうかを確認する必要に応じて授業計画を見直す

←教育評価の核心部分

総括的評価 (summative assessment)

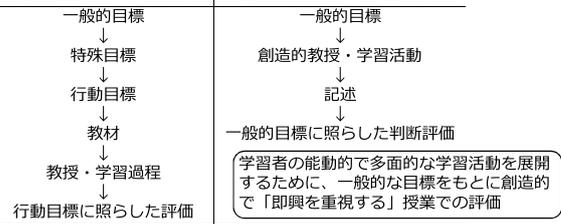
学習の締めくくりに、その到達点を把握する

成績評価のみならず、教育実践の反省にも活用する

13

1. 5. 目標に準拠した評価のオルタナティブ

工学的アプローチ (technological approach)	羅生門的アプローチ (rashomon approach)
目標に準拠した評価を志向	目標にとらわれない評価を志向



14

補論 1. 「隠れたカリキュラム」—学生が学んでしまうもの (久富・長谷川編 2008)

表明されたカリキュラム：こういうことがらを教えて、学ぶ
隠れたカリキュラム：教育者の意図とは無関係に学習者が現実学んでしまうもの
例) 時間的規律を体に刻む(時間割、遅刻への罰などによる)
学校で扱う知識こそ価値があり、それ以外の知識を低く評価する
学校で学ぶのは人生の早い段階においてのみであると認識する
「長」がつく役職には女性ではなく男性が就くべきと認識する
努力しなくてもいつの間にか学んでしまう
学習効果としては表明されたカリキュラムよりもむしろ強力である
→学習者が学んでしまうことはほんとうに妥当かどうか

15

2. 成績評価

2. 1. 成績評価の目的 (佐藤編 2010)

学習を支援するための一つの方法

教員が学生の理解度を確認する、学生が自分の理解度を確認する
学生が復習をして、授業で学んだことを整理する機会
学生がさらに学ぶ動機を獲得する機会

厳しい成績評価→それ自体はあまり問題ではない

厳しさの意義が伝わらない場合、学生は教員を嫌悪する

甘い成績評価→学生の学習意欲を低下させる

評価する対象：学生が授業の目標を達成したかどうか
到達目標と対応している必要がある

16

2. 2. 成績評価の方法 (佐藤編 同上)

診断的機能、形成的評価、総括的評価を組み合わせる

プレテスト (診断的機能) : 授業開始前に学生が持つ知識を測定

小テスト (形成的評価) : 毎回の授業で理解度を測定

中間試験、小レポート (形成+総括) : 学期の中間時点での到達度測定

期末試験、期末レポート (形成+総括) : 学期終了時点での到達度測定

↓

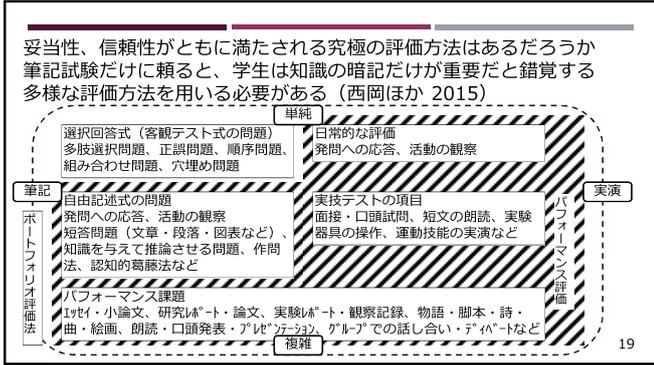
成績評価：小テスト、試験、レポート等の結果を総合する

17

さまざまな評価方法

テスト	内容	対応する学習目標
論述試験	書き取り問題	知識、理解、問題解決能力
口答試験	面接による試験	知識、理解、問題解決能力
客観試験	国家試験、統一試験などにみられる○×式、多肢選択式テスト	知識、理解
シミュレーション	実際の場面を想定して行動させる	問題解決能力
実地試験	実際の場面で行動させる	問題解決能力、技能、態度、習慣、創造力、応用力
観察記録法	授業中の態度・行動を観察	態度、習慣、技能、表現力、応用力
論文・レポート	文章を書かせる	知識、解析力、叙述力、文献調査力、創造力

18



テスト作成時の注意点
学習した範囲を網羅する
学習したレベルとかけ離れた問題を出さない
理解の深さや程度を測るために、応用問題を含める
偶然の得点を減らすために、○×式よりは多肢選択肢がよい
論述問題はテーマを限定する
△「～～について論ぜよ」
○「日本で2000年代以降に注目されている～～を選択して、その現状と解決策について論ぜよ」

テストに合わせて学生の自学自習を促す方法
過去問の配布、学生が自分で作成したA4版メモ1枚の持ち込み許可、予想問題・それに対する答案の作成を宿題に課す

20

よいテストの条件
妥当性：学習の到達度を測るのにその問題が適切かどうか
信頼性：同じ集団に対して同じ試験を行って同じ結果が得られるか
客観性：誰が測っても一定の結果が計測できるか
効率性：評価がよいで、経済的にも時間的にも実用的であるか

テストを実施する前のチェックリスト

- 事前に学生へ予告したとおりの形式になっているか
- 学生が獲得した知識やスキルによって解答することが可能な問題か
- 問題の分量は適当か (自分で解いてみて、制限時間の70%で終了できたか)
- 問題文の指示はあいまいでないか、配点が明記されているか
- 解答欄のスペースは適切か
- 問題の難易度は適切に分布しているか
- やさしい問題から難しい問題へと配置されているか
- 問題自体が取り組む気持ちにさせる興味深いものになっているか

21

ルーブリック評価：論述試験、実地試験、論文・レポート等に対して複数の評価項目について各レベルの典型状況を評価尺度として記述
学習者のパフォーマンスを評価 (パフォーマンス課題に適用する)
質的な対象を評価する

評価項目	優：十分である (8割以上) 模範的	良：おおむね十分である (7割以上) 標準・平均的	可：やや不十分である (6割以上) 発展途上	不可：不十分である (6割未満) 不合格
1 実習施設の規則を守る事ができる	規則の意味を理解し守ることができる	規則を守ることができる	規則を守れないことがあるが、指導を受け、その後は守ることができる	規則を守らず、注意しても直らない
2 時間的観念をもち、責任ある行動をとれる	約束した時間より早く行動 (到着、着座等) し、余裕ある態度をとることができる	約束した時間に遅れることはない	約束した時間に遅れそうになったが、そのことを事前に導者に伝えることができる	約束した時間に遅れ、事前連絡をすることができない
3 向上心・探求心を発揮することができる	積極的に行動し、自ら課題を見つけ解決しようとし、向上心、探究心にあふれている	指導者に質問をしたり、課題を見つけ調べるなどし、向上心、探究心を発揮できる	指導者に質問をしたり、課題を見つけ調べるのが時々ある	指導者に質問をしたり、課題を見つけ調べるのがほとんどできない

22

(つづき)

評価項目	優	良	可	不可
4 整理整頓を心がけることができる	始業前清掃や片づけなどが決められ環境整備を心がけると同時に自らそうしなど積極的に行うことができる	始業前清掃や片づけなどが決められ環境整備を行うことができる	始業前清掃や片づけなどが、仕方なく行う	始業前清掃や片づけなどが決められ環境整備を行うことができない
5 医療人としての身だしなみに配慮することができる	清潔感にあふれる身だしなみをいつも心がけている	他の者に不快感を与えない身だしなみを心がけている	他の者に少し不快感を与える身だしなみであったが、指導者の注意により修正できる	他の者に不快感を与える身だしなみであり、注意を受けるが直らない
6 対象者に適切な態度をとることができる	医療人として人権に配慮した態度をとることができる	概ね適切な態度をとることができる	配慮に欠ける態度があるが、指導を受け修正することができる	配慮に欠ける態度があり、指導を受け修正できない
7 職員との人間関係を良好に保つことができる	良好な関係を保つことができる。職員からも好意的に受け入れられる	概ね良好な関係を保つことができる	挨拶を忘れるなど良好な関係を取れないことがあるが、指導を受け修正することができる	挨拶をしないなど良好な関係を取れないので、指導を受け修正することができない

(以下略)

23

信州大学医学部医学科「提出レポートの評価基準表 (ルーブリック)」

レポート受理の条件：記述順
学習レポート・・・病歴 800～1200字、考察 1200～1600字、今後の取り組み 200～400字
参考資料 (引用した文献を、信州医学雑誌記載方式にて記載する)
行動レポート・・・振り返り 1000～1400字、今後の取り組み 200～400字

受理する：□規定された記述量の範囲で記載されている。□見出しなどがある。□読みやすい。□全体の論旨が通っている。受理しない：□規定された記述量を守っていない。□小見出しなどがない。□誤字、脱字、文体の不一致等により読みにくい。□全体の論旨が通っていない。

内容の評価：「標準を満たさないレベル」が2項目以上はレポート評価を(不可)とする。

	優れているレベル(優)	標準レベル(可)	標準を満たさないレベル(不可)
学習レポート	<input type="checkbox"/> 以下の項目を記載している。 ・主病名、診断に必要な検査・画像所見 ・鑑別診断 ・主病名に関する診断過程、治療方針、経過 ・主病名以外の医学的問題点 □ 理論や根拠に基づいた正確な考察をしている。 □ 「今後の取り組み」について具体的に記載している。 □ 教科書および教科書以外の文献を参考資料にしている。 □ 参考資料を5編以上挙げている。	<input type="checkbox"/> 以下の項目を記載している。 ・主病名、診断に必要な検査・画像所見 ・鑑別診断 ・主病名に関する診断過程、治療方針、経過 □ おおむね正確な考察をしているが根拠が十分でない面もみられる。 □ 「今後の取り組み」が具体性を欠いている。 □ 教科書を参考資料にしている。 □ 参考資料を3編以上挙げている。	<input type="checkbox"/> 欠落している項目がある。 □ カルテを写したと思われる。 □ 規定された字数から逸脱している。 □ 考察に重大な誤りがある、あるいは独断や知識不足による論理の飛躍が多い。 □ 「今後の取り組み」について欠落している項目がある。 □ 参考資料が3編未満あるいはすべて科学的根拠に乏しいものである。

24

(つづき)	優れているレベル	標準レベル	標準を満たさないレベル
行動レポート	<input type="checkbox"/> 患者との関わりとして以下の項目を記載している。 ・患者や家族の心情。 ・患者や家族との接し方。 <input type="checkbox"/> 患者とかわる上で行った工夫。 <input type="checkbox"/> 患者との関わりに関する「今後の取り組み」について具体的に記載している。 <input type="checkbox"/> 診療チームとのかかわりとして以下の項目を記載している。 ・診療チームの一員として行ったこと。 ・診療チームの一員になるために行ったことに対する自己評価、および改善に向けた具体的な取り組みを記載している。 <input type="checkbox"/> 診療チームに関する「今後の取り組み」の記載に具体的に記載している。	<input type="checkbox"/> 患者との関わりとして以下の項目を記載している。 ・患者や家族の心情。 ・患者や家族との接し方。 <input type="checkbox"/> 患者との関わりに関する「今後の取り組み」記載に具体性を欠いている。 <input type="checkbox"/> 診療チームとの関わりとして以下の項目を記載している。 ・診療チームの一員として行ったこと。 <input type="checkbox"/> 診療チームの一員として自らが行ったことに対する自己評価を記載している。 <input type="checkbox"/> 診療チームに関する「今後の取り組み」	<input type="checkbox"/> 欠落している項目がある。 <input type="checkbox"/> 患者との関わりに関する「今後の取り組み」の記載に欠落している項目がある。 <input type="checkbox"/> 欠落している項目がある。 <input type="checkbox"/> 医師以外の専門職に対する記述がない。 <input type="checkbox"/> 行ったことに対する自己評価がされていない。 <input type="checkbox"/> 診療チームに関する「今後の取り組み」の記載に欠落している項目がある。

補論2. ゆとり教育—経験主義と系統主義の揺れ (佐藤・岡本 2014)

ゆとり教育の源流

1980年 小学校における「ゆとりの時間」開始
 詰め込み教育批判、登校拒否（不登校）、落ちこぼれ等への対応
 2000年 「総合的な学習の時間」開始
 2002年 小中学校で完全週休二日制開始

ゆとり教育は「経験主義」教育の導入を意味していた
 自らの生活経験と現実的興味に基づいて自発的に活動する
 脱ゆとりへ—学習時間が不足しているという批判を招く
 再び「系統学習」教育へ、知識重視の学習へ戻ろうとする
 各教科の科学的系統性を重視し、演繹論的な順序を辿る
 2013年 高校で新学習指導要領完全実施

3. もう一つの評価方法

3. 1. 真正の評価 (石井 2010)

1980年代の米国において、従来のテストを批判する中で展開
 真正の評価 (authentic assessment)
 「大人が仕事場、市民生活、私生活の場で『試されている』、その文脈を模写したりシミュレートしたりする」課題への取り組み、評価
 サッカーの歴史、ルールを知っている ≠ サッカーが上手だ
 サッカーの練習試合が上手だ ≠ サッカーの本番の試合が上手だ
 →本番の試合で活躍できるようにしたい

パフォーマンスを直接的に評価するパフォーマンス評価を用いる
 知識・技能を用いた特定の課題や文脈に対応する
 「知っていること」ではなく「できること」に着目する

3. 2. パフォーマンスを評価する

課題の例
 「デパートの商品包装の担当者になったつもりで、ズボン、シャツ、帽子について、包装しやすく包装用紙の量も少ない箱の形を考え、必要な包装用紙のロール数を仕入れ部長に文章で知らせる」

伝統的なテストのように、達成・未達成の二分法では評価できない
 質的な判断が必要になる → ルーブリックが必要になる

パフォーマンス課題に取り組む際の学習の道筋
 「単純な理論上の要素から複雑な全体へ」ではない
 「粗い全体の把握から洗練された全体の把握へ」

標準的な学習と真正の学習		
側面	標準的な学習	真正の学習
学習の目的	試験に通ること	理解を深め、問題を解決すること
知識へのアプローチ	学習を示すのに知識を再生する	問題解決のために知識を生産する
学習する内容	事実、データ、アルゴリズム、公式	鍵となる概念、方略
学習の深さ	浅い、網羅を達成する	深い、理解を達成する
提示される問題のタイプ	人工的で文脈に埋め込まれていない	有意義で文脈に埋め込まれている
反応のタイプ	短い答え	精緻で広範なコミュニケーション
メタ認知の重要性	限定的	決定的
評価のタイプ	正誤、多肢選択	パフォーマンス評価
情意と認知への関心	認知にのみ焦点化	学習の情意的要素に自覚的

3. 3. 状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加

正統的周辺参加 (LPP: Legitimate peripheral participation)
 学習 = 「社会的な実践共同体への参加の度合いを増すこと」
 徒弟性の現場で熟達者から新入りに技が伝承していく様子
 最初は下っ端の仕事をする
 その仕事をしながら重要な仕事を見よう見真似で覚えていく
 徐々に「周辺の」な位置から「中心的」な役割を果たすようになる
 「状況的認知論」 (Situated cognition)
 知識はそれが用いられる状況や文脈の中で適切に生起するものであり、身の回りの道具や他者との間に分かちもたれているのであって、決して特定の個人の中にしま込まれているわけではない
 知識は単に個人によって構成されるのではなく、人とのやり取りの中で社会的に構成される (「社会的構成主義」)

認知的徒弟制 (cognitive apprenticeship)

学校でも徒弟制のよさを取り入れることが可能である

モデリング: 師匠は徒弟に自分の技を観察させる。

コーチング: 師匠は徒弟に学んだ技を使わせてみる。

そしてその様子を観察し、アドバイスを与える。

「スキャフォールディング」(Scaffolding: 足場づくり) & 「フェーディング」:

師匠は一時的支援を行い上達に伴って支援を徐々に取り除く。

発達の最近接領域 (ZPD: zone of proximal development)]

一人で問題解決が可能な現在の発達レベルと、一人で解決できないが援助を得ることによって達成可能な発達レベルの間の領域を意味している

学習は個人個人の中で起きるのではなく、周囲の環境とのかかわりの中で起こる (状況的認知論)

31

4. 評価の実践についてのFAQ—よくある質問 (京都FD開発推進センター 2010) (中井編 2015)

Q1 どうして成績評価をするのですか？

学生: 自己の学習結果を客観的に認識する、

目的にあった学習を進める、理解できないところを明らかにす、

大学: 教育の質保証

この大が気で卒業させる学生の水準を定める

教員: 学生の理解度を把握する、次年度の講義の改善に役立てる、
新しい試みをした場合にはその効果の指標としても利用できる

32

Q2 厳格な成績評価とはどういうことですか？

試験を難しくしたり合格最低点を高くしたりすることではない
あらかじめ定めた評価方法、評価基準を厳しく守ることである
恣意的な判断の余地を最小限にする

Q3 期末試験で授業内容のすべてを網羅するのは難しいのですが？

授業途中での小テスト、課題レポートを活用する

Q4 小テストの採点が大変で困っています

学生自身や学生同士で採点させる、
教員によるフィードバックができない場合は解答例を示す

33

Q5 評価を学生にフィードバックするには、どのような方法があるか？

Q4と同様に、学生同士で評価について話し合わせる、
演習形式の場合であれば、毎回ごとに反省点を伝える

Q6 学外実習等の評価が教室内の評価と大きく違う場合には、どうしたらよいか？

実習現場の指導者の意見を参考にし、
学生の自己評価や他の教員による評価も参考にす

34

Q7 学生に対してフィードバックをするときの注意点は何か？

口頭の場合

対象を学習活動に絞る: 学生の好み、生活習慣に対して発言しない

学習を改善する方法に絞る: すでに行われた学習を批判しない

今後の学習を改善する方法に絞った発言をする

「レポートに誤字があった。スマホ依存だからだめなんだ」→

「レポートに誤字があったけど、事前に見直しをするといいね」

過去の受講生と比較する: 過去と比較してよい点を伝える

わかりやすく伝える: 落ち着いた口調でゆっくり話す

紙や黒板を使って、聴覚以外の刺激を促す

35

文章の場合

課題に関することだけに焦点化する、入念に準備した言葉を用いる、

簡潔で明確な言葉を用いる、目標の到達に必要なコメントに絞る、

価値観を押し付けることをしない、

成績評価に関するコメントをしない、個人批判のコメントをしない、

正しい答えに向かうヒントを控える、

技術的な問題へのコメントだけにしないようにする

大人数の学生を対象にする場合

学生間で相互にフィードバックを行う、ルーブリックがあるとよい

代表的な学生にフィードバックする

36

参考文献

- 石井英真、2010、「アメリカの場合—カリキュラム設計における『工学的アプローチ』の再構築へ」松下佳代編著『〈新しい能力〉は教育を変えるか—学力・リテラシー・コンピテンシー』ミネソラ書房。
- シーン・レイヴ&エディエンウ・ウエンガー、1993、『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加』産業図書。
- 久富善之・長谷川裕編、2008、『教育社会学』学文社。
- 京都FD開発推進センター、2010、『おしえて！FDマン—FDハンドブック』京都FD開発推進センター。
- 三好皓一、2008、『評価論を学ぶ人のために』世界思想社。
- 中井俊樹、2015、『アクティブラーニング』玉川大学出版部。
- 中内敏夫、1971、『学力と評価の理論』国土社。
- 西岡加名恵ほか編、2015、『新しい教育評価入門—人を育てる評価のために』有斐閣。
- 佐藤浩章編、2010、『大学教員のための授業方法とデザイン』玉川大学出版部。

群馬大学全学卒業時アンケート調査

—ご協力のお願い—

本アンケート調査は群馬大学の今後における教育・学生支援の充実のために、今春卒業なされる皆さまを対象として、大学生活についてお伺いするものです。皆さまの声を在学生の教育および今後の大学運営に反映させたいと考えています。皆さまから頂いた回答は統計的に処理し、個別の情報が公表されることはありません。これまでのことを振り返って、皆さまが群馬大学に対して感じていることを、どうか率直にお聞かせください。

回答はマークシートを利用してください。特に指示がない限り、あてはまるもの1つを選んでマークしてください。回答が終わりましたら、各学部（学科等）で定められた方法で提出してくださいますようお願い申し上げます。

2018年3月

群馬大学大学教育センター

回答数 851 （無回答、マークミスがあるために合計が100%にならないことがある）

【はじめに、ご自身のことについてお伺いします】

Q 1 性別

1. 男 55.3% 2. 女 44.4% 3. その他 0.2%

Q 2 学部

1. 教育学部 14.8% 2. 社会情報学部 12.9% 3. 医学部 23.6% 4. 理工学部 48.4%

Q 3 学科（教育学部の方は回答せずにQ 4へお進みください）

1. 情報行動学科 10.2% 2. 情報社会科学科 6.1% 3. 医学科 7.6% 4. 保健学科 16.5%
 5. 化学・生物化学科（総合理工学科の化学・生物専門教育プログラムを含む） 19.6%
 6. 機械知能システム理工学科（総合理工学科の機械知能専門教育プログラムを含む） 7.5%
 7. 環境創生理工学科環境エネルギーコース（総合理工学科の環境創生専門教育プログラムを含む） 6.7%
 8. 環境創生理工学科社会基盤・防災コース（総合理工学科の環境創生専門教育プログラムを含む） 3.9%
 9. 電子情報理工学科電気電子コース（総合理工学科の電子情報専門教育プログラムを含む） 7.3%
 10. 電子情報理工学科情報科学コース（総合理工学科の電子情報専門教育プログラムを含む） 0.0%

Q 4 入学年度（または編入年度）

1. 2016年度 7.9% 2. 2015年度 1.6% 3. 2014年度 73.6% 4. 2013年度 7.4%
 5. 2012年度 7.3% 6. 2011年度 0.7% 7. 2010年度 0.1% 8. 2009年度 0.1%
 9. 2008年度以前 0.0%

Q 5 卒業後の進路

1. 就職する（群馬県内） 35.4% 2. 就職する（群馬県外） 26.4%
 3. 群馬大学大学院に進学する 30.6% 4. 他の大学の大学院に進学する 2.9%
 5. その他 4.0%

【次に、大学入学（編入）の頃のことについてお伺いします】

- Q 6 あなたが合格した群馬大学の入学試験はどれですか。
1. 推薦入試 29.6% 2. 一般入試前期日程 49.4% 3. 一般入試後期日程 14.3%
 4. 社会人入試 0.2% 5. 帰国生入試 0.1% 6. 編入学試験 5.5%
 7. 外国人留学生入試 0.6%
- Q 7 入学時点での群馬大学の志望順位をお選びください。
1. 第1志望 63.7% 2. 第2志望 20.0% 3. 第3志望以下 15.5%
- Q 8 群馬大学に入学（編入）を決めた理由について、**あてはまるものをすべて**お選びください。
1. 興味のある学問分野があること 52.6% 2. 資格や免許が取得できること 24.3%
 3. 将来就きたい職業につながることを 28.4% 4. 自分の学力と偏差値が合っていること 37.6%
 5. 就職の実績がよいこと 6.3% 6. キャンパスの雰囲気がよいこと 3.6%
 7. 親元を離れられること 6.5% 8. 経済的な負担が少ないこと 47.5%
 9. 親や学校の先生にすすめられたこと 17.7% 10. その他 8.6%
- Q 9 群馬大学に入学（編入）したとき、大学の教育ポリシーについて知っていましたか。
1. とても知っていた 2.4% 2. まあ知っていた 21.0%
 3. あまり知らなかった 38.8% 4. まったく知らなかった 36.2%
- Q 10 群馬大学に入学（編入）したとき、満足していましたか。
1. とても満足して入学した 32.1% 2. まあ満足して入学した 51.9%
 3. あまり満足していないが入学した 11.5% 4. まったく満足していないが入学した 3.9%
- Q 11 群馬大学に入学（編入）したとき、あなたにあてはまるものをお選びください。
1. 自分から積極的にやりたいことを探しやるほうだった 23.9%
 2. 与えられれば興味を持ってやるほうだった 54.9%
 3. 与えられても、よほど興味がなければやらないほうだった 16.6%
 4. あてはまらない、わからない 3.9%

【学生生活についてお伺いします】

あなたの授業や勉強の様子にあてはまるものをお選びください。

	とても あてはまる	まあ あてはまる	あまり あてはまら ない	まったく あてはまら ない
Q 1 2 授業に真面目に出席した	<u>41.8%</u>	<u>42.5%</u>	<u>11.5%</u>	<u>3.4%</u>
Q 1 3 授業の予習や復習をした	<u>5.5%</u>	<u>27.3%</u>	<u>49.0%</u>	<u>17.4%</u>
Q 1 4 授業で出された宿題や課題はきちんとやった	<u>51.7%</u>	<u>38.7%</u>	<u>7.3%</u>	<u>1.5%</u>
Q 1 5 グループワークやディスカッションに、積極的に参加した	<u>21.5%</u>	<u>47.9%</u>	<u>24.6%</u>	<u>5.1%</u>

	とても あてはまる	まあ あてはまる	あまり あてはまら ない	まったく あてはまら ない
Q 1 6 計画を立てて勉強した	<u>10.7%</u>	<u>34.2%</u>	<u>38.8%</u>	<u>14.9%</u>
Q 1 7 興味をもったことについて自主的に勉強した	<u>17.2%</u>	<u>43.1%</u>	<u>31.3%</u>	<u>7.3%</u>
Q 1 8 進路や将来について積極的に考えた	<u>28.8%</u>	<u>43.7%</u>	<u>21.7%</u>	<u>4.3%</u>

あなたは次のことについてどのくらい力を入れましたか。

	とても 力を入れ た	まあ 力を入れ た	あまり 力を入れ なかった	まったく 力を入れ なかった	該当せず
Q 1 9 大学の授業	<u>18.1%</u>	<u>57.1%</u>	<u>18.9%</u>	<u>4.3%</u>	/
Q 2 0 ゼミ、研究室活動	<u>35.3%</u>	<u>46.3%</u>	<u>12.7%</u>	<u>3.9%</u>	
Q 2 1 卒業論文や卒業研究	<u>39.1%</u>	<u>44.1%</u>	<u>10.0%</u>	<u>2.1%</u>	
Q 2 2 授業以外の自主的な勉強（資格試験など）	<u>13.6%</u>	<u>29.3%</u>	<u>38.1%</u>	<u>17.2%</u>	
Q 2 3 留学、海外研修・経験	<u>7.3%</u>	<u>11.5%</u>	<u>14.7%</u>	<u>64.0%</u>	
Q 2 4 サークルや部活動	<u>32.8%</u>	<u>28.3%</u>	<u>14.0%</u>	<u>23.3%</u>	
Q 2 5 アルバイト	<u>25.0%</u>	<u>41.1%</u>	<u>20.2%</u>	<u>11.3%</u>	
Q 2 6 社会活動（NPO 活動、ボランティアなど）	<u>6.5%</u>	<u>16.6%</u>	<u>22.3%</u>	<u>52.6%</u>	
Q 2 7 就職活動	<u>21.4%</u>	<u>31.6%</u>	<u>18.8%</u>	<u>26.1%</u>	
Q 2 8 インターンシップ、学外実習	<u>13.0%</u>	<u>23.3%</u>	<u>22.0%</u>	<u>39.4%</u>	

あなたは大学教育（授業、ゼミ、研究室、先生からの指導など）を通して、次のような経験はどれくらい印象に残っていますか。

	とても 印象に残 っている	まあ 印象に残 っている	あまり 印象に残っ ていない	まったく 印象に残っ ていない
Q 2 9 相当の努力をして課題（単位取得や論文作成）をやりとげる厳しさがあった	<u>30.0%</u>	<u>46.2%</u>	<u>18.2%</u>	<u>3.2%</u>
Q 3 0 実社会との接点を感じることができた	<u>12.8%</u>	<u>36.8%</u>	<u>35.6%</u>	<u>12.6%</u>
Q 3 1 学問固有の物の見方や考え方に触れられた	<u>27.7%</u>	<u>51.2%</u>	<u>14.8%</u>	<u>3.8%</u>
Q 3 2 大学の個性や特色をいかした教育を受けられた	<u>16.3%</u>	<u>47.1%</u>	<u>26.9%</u>	<u>6.9%</u>
Q 3 3 自分の適性や将来への関心を知ることができた	<u>22.0%</u>	<u>50.5%</u>	<u>21.3%</u>	<u>3.2%</u>
Q 3 4 学習について、相談にのったり支援してくれる人がいた	<u>24.1%</u>	<u>40.9%</u>	<u>24.4%</u>	<u>7.4%</u>
Q 3 5 学習以外（進路、人間関係など）について、幅広く相談にのったり支援してくれる人がいた	<u>23.0%</u>	<u>39.8%</u>	<u>24.6%</u>	<u>9.3%</u>
Q 3 6 教育に対して熱意のある教員がいた	<u>31.1%</u>	<u>46.4%</u>	<u>15.7%</u>	<u>3.4%</u>

	とても 印象に残 っている	まあ 印象に残 っている	あまり 印象に残っ ていない	まったく 印象に残っ ていない
Q 3 7 教員の指導に基づきながらも、自主性を尊重 されて学習を進められた	<u>21.9%</u>	<u>48.4%</u>	<u>22.0%</u>	<u>4.2%</u>
Q 3 8 学習の態度や姿勢が不適切な場合、教員から 指導された	<u>13.0%</u>	<u>35.5%</u>	<u>28.8%</u>	<u>19.0%</u>
Q 3 9 学習の成果を正当に評価された	<u>20.0%</u>	<u>58.5%</u>	<u>14.3%</u>	<u>3.4%</u>
Q 4 0 貴重な友人をつくることのできた	<u>56.5%</u>	<u>31.1%</u>	<u>6.6%</u>	<u>2.0%</u>

【教養教育科目（教養基盤科目・教養育成科目）についてお伺いします】

Q 4 1 教養教育科目の単位数（卒業要件）について、どのように思いますか。

1. 多すぎる 14.9% 2. ちょうどよい 76.1% 3. 少なすぎる 4.0%

Q 4 2 教養教育科目は、文献検索、資料作成、口頭発表（プレゼンテーション）の能力を身に付ける
点で、十分だったと思いますか。

1. 十分である 8.1% 2. おおむね十分である 51.0% 3. やや不十分である 27.6% 4. 不十分である 8.8%

Q 4 3 英語・外国語教養科目は、国際的なコミュニケーションの能力を身に付ける点で、十分だった
と思いますか。

1. 十分である 4.3% 2. おおむね十分である 27.6% 3. やや不十分である 39.6% 4. 不十分である 23.9%

Q 4 4 情報の科目は、情報処理能力を身に付ける点で十分だったと思いますか。

1. 十分である 6.5% 2. おおむね十分である 40.8% 3. やや不十分である 34.4% 4. 不十分である 13.9%

【進路選択の支援などについてお伺いします】

Q 4 5 就職活動を行う際に、「キャリアサポート室」や「就職ガイダンス」などの大学の就職支援は役
立ちましたか。

1. とても役立った 8.8% 2. 少し役立った 35.7%
3. あまり役立たなかった 22.4% 4. ほとんど役立たなかった 28.6%

Q 4 6 「キャリアサポート室」を利用しましたか。

1. よく利用した 5.5% 2. ときどき利用した 16.9%
3. ほとんど利用しなかった 19.0% 4. まったく利用しなかった 54.4%

Q 4 7 大学が行った「就職ガイダンス」に参加しましたか。

1. 何回も参加した 9.8% 2. 数回参加した 48.1% 3. 1回も参加しなかった 26.0%

Q 4 8 大学院への進学について、情報提供はしっかり行われていたと思いますか。

1. しっかり行われていた 11.0% 2. だいたい行われていた 43.6%
3. あまり行われていなかった 17.7% 4. ほとんど行われていなかった 8.0% 5. わからない 15.3%

Q 4 9 インターンシップ（学外実習を含む）に行ってみて、どのように感じていますか。

1. インターンシップ（学外実習を含む）に行って、大いに充実した時間を過ごせた 17.9%
2. インターンシップ（学外実習を含む）に行って、まあ充実した時間を過ごせた 24.0%
3. インターンシップ（学外実習を含む）に行ったが、あまり充実した時間は過ごせなかった 5.8%
4. インターンシップ（学外実習を含む）に行ったが、まったく充実した時間は過ごせなかった 3.6%
5. インターンシップ（学外実習を含む）に行っていない 44.4%

【施設や設備についてお伺いします】

Q 5 0 教室や演習室などの教育施設に満足しましたか。

1. 満足している 20.1%
2. やや満足している 53.5%
3. やや不満である 16.0%
4. 不満である 5.8%

Q 5 1 授業以外の自主的な活動をする上で、施設に満足しましたか。

1. 満足している 17.7%
2. やや満足している 48.1%
3. やや不満である 22.7%
4. 不満である 7.4%

【最後に、学習の成果についてお伺いします】

あなたは群馬大学での学習によって次の目標をどれくらい達成したと思いますか。

	とても そう思 う	まあそ う思 う	あまり そう思 わない	まった くそう 思わな い
Q 5 2 専門的学識・技能を修得した	<u>23.4%</u>	<u>57.5%</u>	<u>12.1%</u>	<u>2.8%</u>
Q 5 3 専門的学識・技能を現実の諸課題に対して活用ができるようになった	<u>15.3%</u>	<u>54.9%</u>	<u>21.3%</u>	<u>4.1%</u>
Q 5 4 人間社会、歴史・文化、自然等についての幅広い教養を身に付けた	<u>10.6%</u>	<u>44.1%</u>	<u>32.4%</u>	<u>8.5%</u>
Q 5 5 幅広い教養、学際的な理解に基づいて、様々な問題に対して多面的・総合的な判断ができるようになった	<u>12.2%</u>	<u>53.3%</u>	<u>25.5%</u>	<u>4.5%</u>
Q 5 6 論理的思考力を身に付けた	<u>16.8%</u>	<u>57.0%</u>	<u>18.7%</u>	<u>3.1%</u>
Q 5 7 コミュニケーション能力を高めた	<u>20.6%</u>	<u>52.2%</u>	<u>18.9%</u>	<u>3.9%</u>
Q 5 8 社会で生起する問題に対し主体的に取り組む意欲を持つようになった	<u>11.2%</u>	<u>47.2%</u>	<u>31.4%</u>	<u>5.8%</u>
Q 5 9 自然との共生を基盤とした豊かな人間性と広い視野及び社会的倫理観を身に付けた	<u>11.2%</u>	<u>48.2%</u>	<u>29.5%</u>	<u>6.7%</u>
Q 6 0 社会から信頼され国内外で活躍することができるようになった	<u>5.3%</u>	<u>27.1%</u>	<u>35.0%</u>	<u>27.8%</u>

Q 6 1 群馬大学のカリキュラムを全体としてどう評価しますか。

1. 十分である 13.4%
2. おおむね十分である 62.6%
3. やや不十分である 13.7%
4. 不十分である 3.2%

アンケートは以上です。ご回答ありがとうございました。

群馬大学全学修了時アンケート調査

—ご協力のお願い—

本アンケート調査は群馬大学大学院の今後における教育研究・大学院生支援の充実のために、今春修了される皆さんを対象として、大学院生活についてお伺いするものです。皆さまの声を今後の大学運営に反映させたいと考えています。皆さまから頂いた回答は統計的に処理し、個別の情報が公表されることはありません。これまでのことを振り返って、皆さんが群馬大学大学院に対して感じていることを、率直にお聞かせください。

回答はマークシートを利用してください。特に指示がない限り、あてはまるもの1つを選んでマークしてください。回答が済みましたら、各研究科等で定められた方法で提出してくださいませうようお願い申し上げます。

2018年3月
群馬大学大学教育センター

回答数 375 (無回答、マークミスがあるために合計が100%にならないことがある)

【はじめに、ご自身のことについてお伺いします】

Q 1 性別

1. 男 73.1% 2. 女 26.4% 3. その他 0.5%

Q 2 研究科等

1. 教育学研究科（専門職学位課程を除く） 5.9% 2. 社会情報学研究科 1.1%
3. 保健学研究科 11.7% 4. 理工学府 69.1%
5. 医学系研究科医科学専攻 10.1% 6. 医学系研究科生命医科学専攻 2.1%

Q 3 課程

1. 修士課程・博士前期課程 84.8% 2. 博士課程・博士後期課程 15.2%

Q 4 Q 3で回答した課程への入学年度

1. 2016年度 79.5% 2. 2015年度 6.4% 3. 2014年度 6.9% 4. 2013年度 2.1%
5. 2012年度 2.4% 6. 2011年度 0.8% 7. 2010年度 0.8% 8. 2009年度 0.3%
9. 2008年度以前 0.8%

Q 5 修了後の進路

1. 就職する（群馬県内） 33.3%
2. 就職する（群馬県外） 54.7%
3. 群馬大学大学院博士課程・博士後期課程に進学する 4.5%
4. 他の大学の大学院博士課程・博士後期課程に進学する 0.5%
5. その他 6.7%

【次に、大学院入学の頃のことについてお伺いします】

- Q 6 群馬大学大学院に入学を決めた理由について、**あてはまるものをすべて**お選びください。
- | | |
|----------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 希望する研究分野があること <u>51.5%</u> | 2. 指導教員の資質・能力がすぐれていること <u>26.1%</u> |
| 3. 研究施設が十分であること <u>10.9%</u> | 4. 資格や免許が取得できること <u>8.5%</u> |
| 5. 将来就きたい職業につながることを <u>29.9%</u> | 6. 就職の実績がよいこと <u>20.8%</u> |
| 7. 大学教員からすすめられたこと <u>14.9%</u> | 8. 経済的な負担が少ないこと <u>21.3%</u> |
| 9. その他 <u>13.1%</u> | |
- Q 7 群馬大学大学院に入学したとき、大学院の教育ポリシーについて知っていましたか。
- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1. とても知っていた <u>3.2%</u> | 2. まあ知っていた <u>21.6%</u> |
| 3. あまり知らなかった <u>41.9%</u> | 4. まったく知らなかった <u>33.1%</u> |
- Q 8 群馬大学大学院への入学に、満足しましたか。
- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 1. とても満足して入学した <u>31.2%</u> | 2. まあ満足して入学した <u>62.1%</u> |
| 3. あまり満足していないが入学した <u>4.3%</u> | 4. まったく満足していないが入学した <u>2.1%</u> |

【研究についてお伺いします】

あなたは群馬大学大学院での研究において、次のような経験はどれくらい印象に残っていますか。

	とても印象に残っている	まあ印象に残っている	あまり印象に残っていない	まったく印象に残っていない
Q 9 相当の努力をして課題（単位取得や論文作成）をやりとげる厳しさがあった	<u>49.9%</u>	<u>34.7%</u>	<u>12.3%</u>	<u>3.2%</u>
Q 10 実社会との接点を感じることができた	<u>20.3%</u>	<u>29.9%</u>	<u>36.3%</u>	<u>13.3%</u>
Q 11 学問固有の物の見方や考え方に触れることができた	<u>42.4%</u>	<u>47.2%</u>	<u>7.2%</u>	<u>3.2%</u>
Q 12 大学院の個性や特色をいかした教育を受けることができた	<u>24.0%</u>	<u>43.2%</u>	<u>24.8%</u>	<u>7.7%</u>
Q 13 自分の適性や将来への関心を知ることができた	<u>38.1%</u>	<u>43.5%</u>	<u>13.3%</u>	<u>5.1%</u>
Q 14 研究について、相談にのったり支援してくれる人がいた	<u>60.3%</u>	<u>27.5%</u>	<u>9.1%</u>	<u>3.2%</u>
Q 15 研究以外（進路、人間関係など）について、幅広く相談にのったり支援してくれる人がいた	<u>33.6%</u>	<u>34.9%</u>	<u>22.1%</u>	<u>9.3%</u>
Q 16 教員の指導に基づきながらも、自主性を尊重されて研究を進められた	<u>50.7%</u>	<u>34.1%</u>	<u>10.9%</u>	<u>4.3%</u>
Q 17 研究の態度や姿勢が不適切な場合、教員から指導を受けた	<u>33.6%</u>	<u>36.3%</u>	<u>20.0%</u>	<u>9.6%</u>
Q 18 研究の成果を正当に評価された	<u>42.9%</u>	<u>45.3%</u>	<u>9.1%</u>	<u>2.7%</u>

【研究環境や進路選択の支援などについてお伺いします】

あなたは群馬大学大学院での研究生活に関して、次の項目についてどの程度満足していますか。

	とても満足 している	まあ満足 している	あまり満足 していない	まったく満足 していない
Q 1 9 研究テーマ選択の自由度	<u>38.1%</u>	<u>46.1%</u>	<u>10.7%</u>	<u>5.1%</u>
Q 2 0 研究テーマに対する指導	<u>48.8%</u>	<u>35.5%</u>	<u>10.7%</u>	<u>5.1%</u>
Q 2 1 指導教員とのコミュニケーション	<u>43.5%</u>	<u>40.3%</u>	<u>10.9%</u>	<u>5.3%</u>
Q 2 2 図書館	<u>24.5%</u>	<u>46.1%</u>	<u>22.1%</u>	<u>7.2%</u>
Q 2 3 研究施設・設備・機器等	<u>23.5%</u>	<u>49.6%</u>	<u>20.3%</u>	<u>6.4%</u>
Q 2 4 就職支援	<u>16.3%</u>	<u>46.9%</u>	<u>23.7%</u>	<u>12.3%</u>

【最後に、研究の成果についてお伺いします】

あなたは群馬大学大学院での研究によって、次の目標をどれくらい達成できたと思いますか。

	とても そう思う	まあ そう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない
Q 2 5 幅広く豊かな学識を身に付けた	<u>25.6%</u>	<u>50.1%</u>	<u>20.8%</u>	<u>3.5%</u>
Q 2 6 専門分野において自立して研究活動 を實踐できる能力を身に付けた	<u>24.8%</u>	<u>56.3%</u>	<u>14.4%</u>	<u>4.0%</u>
Q 2 7 高度な専門性または国際性を必要と する職業を担う能力を身に付けた	<u>14.9%</u>	<u>39.7%</u>	<u>36.5%</u>	<u>8.3%</u>
Q 2 8 研究者・技術者・高度専門職業人と しての倫理観を身に付けた	<u>28.3%</u>	<u>53.6%</u>	<u>13.3%</u>	<u>4.3%</u>

Q 2 9 群馬大学大学院のカリキュラムを全体としてどのように評価しますか。

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 十分である <u>20.0%</u> | 2. おおむね十分である <u>57.6%</u> |
| 3. やや不十分である <u>13.1%</u> | 4. 不十分である <u>5.6%</u> |

アンケートは以上です。ご回答ありがとうございました。